

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第24号

2022年

(2021年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

教育目的・3つのポリシー

【教育研究上の目的】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉の実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成することを目的とする。

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

- 1 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
- 2 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

- 3 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
- 4 コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

- 5 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
- 6 ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 7 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
- 8 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだところの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験

資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

- 1 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
- 2 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 3 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 4 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
- 5 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面

接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己PR書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

- ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

目 次

I. 2021年度を振り返る

1. 2021年度 社会福祉学部活動概括 1
2. 2021年度の評価と2022年度の活動方針 3
3. 2021年度 社会福祉学部の主要行事 5
4. 2021年度 社会福祉学部時間割 6

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2021年度）	8
1. 杉 原 俊 二	10
2. 田 中 き よ む	14
3. 長 澤 紀 美 子	17
4. 西 内 章	21
5. 丸 山 裕 子	24
6. 宮 上 多 加 子	25
7. 横 井 輝 夫	27
8. 大 松 重 宏	29
9. 遠 山 真 世	31
10. 西 梅 幸 治	33
11. 福 間 隆 康	36
12. 三 好 弥 生	38
13. 加 藤 由 衣	40
14. 河 内 康 文	42
15. 辻 真 美	44
16. 行 貞 伸 二	46
17. 稲 垣 佳 代	48
18. 大 熊 絵 理 菜	50
19. 片 岡 妙 子	52
20. 雑 賀 正 彦	54
21. 田 中 真 希	56
22. 玉 利 麻 紀	58
23. 福 田 敏 秀	60

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2021年度）	62
1. 教 務 委 員 会	63
2. 入 試 委 員 会	65
3. 学 生 委 員 会	67
4. 実 習 委 員 会	68
5. 就 職 委 員 会	70
6. 広 報 委 員 会	71
7. 介 護 人 材 確 保 部 会	72
8. キャリア支援委員会	78
9. 健康長寿センター	81
10. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	82
11. 災害対策プロジェクト	86
12. 総務・予算委員会	88
13. 国試対策支援委員会	89

Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	91
2. P シ ス タ ー ズ	92
3. 太 鼓 部	93
4. 池 手 話 サ ー ク ル	94
5. イ ケ あ い	95
6. か ん き も ん	96
7. Society For Everyone	97
8. 新型コロナウイルス感染症の影響	98

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2021年度）

編 集 後 記

I

2021年度を振り返る

2021年度 社会福祉学部活動概括

学部長 宮上多加子

1. 教員体制

- 2020年度末で鈴木准教授が退職したため教員数23名。また、河内講師の昇任（4月1日付）により、職位構成は教授7名、准教授6名、講師3名、助教7名。
担当分野構成は福祉基礎4名、社会福祉10名、介護福祉6名、精神保健福祉3名。

2. 教育

- ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づいた学修成果の評価指標を作成し、指標に対応させた学習到達度評価アンケートを3回生と4回生に実施。これらのポリシーは、新年度の学部ガイダンス資料で周知。
- 8月から11月にかけて3回生が相談援助実習を、7月から12月にかけて精神・社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により一時中断。相談援助実習の実習連絡協議会は、次年度に延期した。精神保健福祉援助実習の実習連絡協議会は、3月にZoomを活用して実施した。
- 介護・社会福祉コース4回生が2020年度に実施した介護実習Ⅲの介護福祉事例研究報告会と実習連絡協議会は、Zoomを活用して8月に開催。2回生の介護実習Ⅱは8月から9月にかけて実施。1回生の介護実習Ⅰの12月分は実施、2月から3月にかけての学外実習は学内演習に切り替えて実施。介護実習Ⅲは次年度に延期。
- 4回生の卒業研究について、構想発表会を対面形式で4月に実施。10月には中間発表会を開催し、12月20日締切りで論文提出、卒論研究発表会は2月に実施。中間発表会と卒業研究発表会は、感染予防のため対面形式での開催は中止し、Zoomを活用した方式に変更して実施。

3. 研究

- 研究成果としては査読付論文20編、その他論文等16編、学会発表等17件。
- 『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』第71巻に6編掲載。
- 科学研究費は2021年度6件応募、1件採択で採択率16.7%、2022年度は9件応募、4件採択で採択率44.4%。
- 科研費等による研究は、研究代表者14件、研究分担者7件。

4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- 自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第23号を作成・公表。
- 研究・教育面での学部FD研修会を4回開催。

5. 2021年度入学生と2022年度入学試験

- 4月に第24期生74名(県内出身29名、男子16名、私費外国人1名)が入学。
- 学校推薦型選抜では、県内枠への志願者が23名(-13)で志願倍率1.2倍、全国枠は17名(-6)で1.7倍。県内・全国枠ともに出願者は昨年度より減少、
- 一般入試の志願者数は、前期・後期日程ともほぼ同数。前期日程が175名(+0)で志願倍率5.0倍、合格倍率3.8倍、後期日程が110名(+7)で志願倍率22.0倍、合格倍率5.3倍。
- 私費外国人入試に4名の応募があり、2名合格し入学者1名。社会人入試には応募者なし。

6. 卒業生と就職状況

2021 年度を振り返る

- ・3月に第21期生74名が卒業。
- ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・就職希望者70名の内、70名（100%）の就職が4月上旬までに決定。
- ・就職先・進路の内訳は、医療機関7名(10%)、福祉施設等35名(50%)、社会福祉協議会4名(6%)、公務員等14名(20%)、一般企業10名(14%)、進学2名(3%)。

7. 3 福祉士資格と国家試験

- ・国試対策支援委員会を中心に、4回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、日本ソーシャルワーク教育学校連盟等の模擬試験を3回実施。
- ・学部の教員による国試対策講座8科目18講座及び、学生自身が企画する国試対策勉強会（2回）を実施し、45名が参加した。
- ・1月末に実施された第34回介護福祉士国家試験に21名が受験して21名が合格（合格率100.0%/平均72.3%）。2月初めに実施された第34回社会福祉士国家試験に71名受験して48名合格（合格率67.6%/平均31.1%）、第24回精神保健福祉士国家試験に20名受験して18名合格（合格率90.0%/平均65.6%）。
- ・新卒の合格率は、社会福祉士（受験者50人以上の福祉系大学等）が47校中11位、精神保健福祉士（受験者20人以上の福祉系大学等）は18校中2位。

8. 地域貢献活動・卒業生への支援

- ・Webオープンキャンパスとして社会福祉学部の紹介動画を作成し1,219回の再生。オンライン個別相談会を実施し、高校生等2名が参加。
- ・高知県との連携事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施（すべてZoom開催）。7月25日（Webオープンキャンパス兼）、9月26日、11月7日、3月23日、に開催した「高校生と保護者のための公開講座」には合計407名参加。学部提案型出前講座を高知県内10校で実施し、参加者数は合計233名。
- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として、SDGsをテーマにした3講座を11月から3月にかけてYouTube配信。
- ・「おうちで健康長寿体験型セミナー」と題したYouTube動画コンテンツを看護学部・文化学部と協働して作成・配信。
- ・卒業生に対する支援として実施している領域別リカレント研究会は、継続的に3分野で実施し、のべ109名が参加。
- ・卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会及び地域の研究課題発見に向けた研究セミナーを実施し、のべ75名が参加。
- ・高知県社会福祉士会と共催で実習指導者講習会を開催し、卒業生13名を含む計64名が修了した。

9. 広報活動

- ・学部広報に活用する社会福祉学部のパンフレット2022版を作成。
- ・学部の入試広報担当者を中心に、高校生・高校教員・保護者等を対象とし11月～3月にかけてzoomによるオンライン個別相談会を計9回実施。

10. 国際交流活動

- ・1回生と2回生の外国人学生2名が国際交流センター主催の「高知県立大学 Peer Learning」のチューターになり、計5回、語学の相互学習を実施。
- ・2回生の外国人学生2名が国際交流センター主催の「オンライン交流会～多文化共生について～」の日本人学生のアシスタントとして参加。

2021年度の課題と2022年度の対応

社会福祉学部自己点検評価委員会

① 学部の教員組織の補充

退職した教員は2020年度末で准教授1名、2021年度末で教授1名、准教授1名、助教1名であり、2022年度当初にはいずれも後任教員が決定していない。

対応：早急に後任の教員公募を開始し、24人の教員体制となるように採用人事を進める。

② 学部教育の充実

2021年度入学生より専門教育科目を一部変更したため、新カリキュラムに対応したカリキュラムマップや学習到達度評価を用いて、年度毎のカリキュラム移行と学生の履修をスムーズに進める必要がある。特に2022年度より社会福祉士の実習が60時間増加するため、新型コロナウイルス感染拡大があっても十分な教育効果が得られるよう対応していく必要がある。

対応：学部教務委員会および学年担当教員を中心に丁寧な履修指導を行う。2021年度に実施した学習到達度調査の結果や国家試験の合格率等を分析し、入学試験時の情報も加えて、課題を明確化し対策を立てる。また、卒業研究論文及び介護実習について、修正版ループリックを用いた評価を実施する。

(令和4年度活動計画 No. 3, 5, 6, 7, 12)

③ 入試広報の充実

学校推薦型選抜（県内・全国）で志願者が減少した。

対応：県内への入試広報は、県からの委託事業を活用して継続して取り組む。一昨年度より企画していた中四国地域の高等学校を対象とした学部事業「出前授業」の方法について、ネットの活用等を含めて再度検討する。学部HPの内容をより充実させる。

(令和4年度活動計画 No. 51)

④ 研究活動の活性化

科研費への応募者にやや偏りが生じており、加えて2021年度は学内公募の戦略的研究推進プロジェクトへの応募がなかった。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって2019年以前に比較して学部教員の研究論文や学会発表数が減少している。

対応：科研費等の外部資金獲得のため、学部内での研修会を実施し、若手教員への支援を引き続いて実施する。学内公募の競争的研究資金への応募に向けて、学部教員による研究体制を組織できるように支援する。学部長経費枠を活用して、学部教員と大学内外の研究者との共同研究を支援する。研究テーマの発展と進化の方法について、教員相互の意見交換の機会を設ける。

(令和4年度活動計画 No. 36, 37, 38, 39, 41)

⑤ 国際交流の活性化

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、留学等を含めて国際交流の実績がない。しかし、私費外国人留学生は継続して入学しているため、入学後の継続的な支援や、国際的な共同研究への基盤づくりが課題である。

対応：2020年度の研究員受け入れ実績を踏まえて、海外の大学との国際交流について、オ

オンライン方式も含めて実施方法を再検討し、学术交流の可能性を探る。学生の短期留学については、実施時期や方法について継続的に検討していく。留学生の受け入れを継続して進める。学生のグローバルな視点を涵養するために、学部専門教育科目の中で国際福祉に関する内容を増やす。

(令和4年度活動計画 No. 4)

⑥ 卒業生へのキャリア支援

学部リカレント研究会事業を継続して実施し、卒業生へのスーパービジョンや専門知識獲得の場を提供したが、分野の拡大や参加者数の増加が課題である。

対応：地域・現場の重要課題としての福祉人材確保・定着・資質向上に向け、学部リカレント研究会の開催方法を工夫して継続的に実施する。また、2020年度に実施した卒業生および職場の上司等を対象としたアンケート調査の結果をふまえて、卒業生の学習ニーズを確認し研修の場について引き続き検討する。

(令和4年度活動計画 No. 38, 40)

⑦ 福祉専門職に対する生涯教育の推進

学部事業として、福祉専門職および一般県民を対象としたリカレント教育講座等は、Web配信として継続実施している。福祉専門職を対象とした系統的なキャリア支援が可能となる方策について、さらに検討を加える必要がある。

対応：リカレント教育講座等の参加者や他大学および職能団体等からの情報収集をふまえて、(仮)研究研修会の組織化について、学部委員会を中心に具体的な検討を行う。また、大学院人間生活学研究科で検討している認定社会福祉士養成カリキュラムの導入に対して、大学院担当教員と連携して取り組む。

(令和4年度活動計画 No. 40, 42, 50)

2021年度社会福祉学部の主要行事

4月	2日(金)	入学式(24期生74名)
	5-6日(月-火)	学生ガイダンス
	7日(水)	前期授業開始(～8月9日)
	26日(月)	第1回連絡会・教授会
5月	24日(月)	第2回連絡会・教授会
6月	28日(月)	第3回連絡会・教授会
7月	6, 13日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会
	25日(日)	Web EVENT1: 社会福祉の事を分かりやすく学ぶ
	26日(月)	第4回連絡会・教授会
8月	3日(月)	介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習(介護実習Ⅲ)報告会
	18日(水)	第5回連絡会・教授会
	27日(金)	第6回連絡会・教授会
9月	26日(日)	Web EVENT2: 卒業生の働く現場から LIVE配信
	28日(火)	第7回連絡会・教授会
10月	1日(金)	後期授業開始(～2月22日)
	25日(月)	第8回連絡会・教授会
	27日(水)	卒業研究中間発表会
11月	1日(月)～	リカレント教育講座 Web配信
	5日(金)	第9回連絡会・教授会
	7日(日)	Web EVENT3: アカデミックに福祉介護を探求する
	17日(水)	第10回連絡会・教授会
	22日(月)	第11回連絡会・教授会
	29日(月)	第12回連絡会・教授会
12月	20日(水)	第13回連絡会・教授会
	24日(金)	第14回連絡会・教授会
1月	18日(火)	第15回連絡会・教授会
	24日(月)	第16回連絡会・教授会
	27日(木)	相談援助実習報告会
	30日(日)	第34回介護福祉士国家試験
2月	5-6日(土-日)	第24回精神保健福祉士国家試験・第34回社会福祉士国家試験
	7日(月)	第17回連絡会・教授会
	8日(火)	第18回連絡会・教授会
	14日(月)	卒業研究発表会
		第19回連絡会・教授会 第20回連絡会・教授会
	19-20日(土-日)	社会福祉士実習指導者講習会(高知県社会福祉士会との共催)
	25日(金)	第21回連絡会・教授会
	28日(月)	第22回連絡会・教授会
3月	4日(金)	第23回連絡会・教授会
	14日(月)	第24回連絡会・教授会
	19日(土)	第25回連絡会・教授会
	22日(火)	卒業式(学内、21期74名卒業)
	23日(水)	Web EVENT4: 認知症を地域で支える
	25日(金)	第26回連絡会・教授会
	28日(月)	第27回連絡会・教授会

令和3年度 社会福祉学部 時間割 <前期>

月	1時限				2時限				3時限				4時限				5時限			
	8:50~10:20	10:30~12:00	教室	教員	13:00~14:30	教室	教員	14:40~16:10	教室	教員	16:20~17:50	教室	教員	教室	教員	教室	教員			
1	地球学総論	英語コミュニケーションC	英語コミュニケーションC	(別途記載)	佐伯の食と健康 (介護)介護総合演習Ⅰ	廣内 <small>田中真・片岡・西内・三好・辻 丸山・福田・西内・玉利・辻 西内・大松 横井・福田・文雅</small>	D221 A321 E102ほか	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室			
	2	英語コミニ基礎P	英語コミュニケーションC	(別途記載)	(介護)介護総合演習Ⅱ	西内・大松 横井・福田・文雅	E102ほか	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室			
	3	英語コミニ基礎P	英語コミュニケーションC	(別途記載)	相談援助演習Ⅲ	西内・大松 横井・福田・文雅	E102ほか	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室			
	4	英語コミニ基礎P	英語コミュニケーションC	(別途記載)	相談援助演習Ⅲ	西内・大松 横井・福田・文雅	E102ほか	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室			
火	1	(介護)介護の基本Ⅰ	(介護)介護の基本Ⅰ	河内	社会福祉の原理と政策Ⅰ	長瀬・行員	大講義室	大講義室	大講義室	名和	コンビュータリテラシー(社福)	名和	コンビュータリテラシー(社福)	名和	コンビュータリテラシー(社福)	名和	D207			
	2	相談援助演習Ⅰ	生活と社会福祉 人権教育論	大橋 鈴木(康)	(介護)介護過程Ⅱ	宮上	F110	F110	F110	田中真・片岡	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中真・片岡	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中真・片岡	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中真・片岡	F110			
	3	精神保健学Ⅰ	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・相理・玉利	精神発達障害援助実習指導Ⅱ	丸山・相理・玉利	D221・D222	E103	E103	横井	相談援助実習指導Ⅲ	西内ほか	相談援助実習指導Ⅲ	西内ほか	ケアマネジメント論	横井	E103			
	4	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	健康スポーツ科学Ⅰ	清原 常行	社会福祉史	行員	E102	E102	D221・D222	丸山・相理・玉利	更生保護制度(4月~6月)	加藤誠	更生保護制度(4月~6月)	加藤誠	更生保護制度(4月~6月)	加藤誠	E102			
水	1	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	健康スポーツ科学Ⅰ	清原 常行	社会福祉史	行員	E102	E102	D221・D222	丸山・相理・玉利	更生保護制度(4月~6月)	加藤誠	更生保護制度(4月~6月)	加藤誠	更生保護制度(4月~6月)	加藤誠	E102			
	2	保健医療サービス	相談援助の理論と方法Ⅰ	加藤	高齢者福祉論Ⅱ	辻・横井	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	基礎生物学	岩倉	基礎生物学	岩倉	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			
	3	虐待防止論	相談援助の理論と方法Ⅳ	加藤・西内	権利擁護論	田中き・行員	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			
	4	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	健康スポーツ科学Ⅰ	清原 常行	社会福祉史	行員	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	基礎生物学	岩倉	基礎生物学	岩倉	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			
木	1	英語コミニ基礎EW	英語コミュニケーションC	(別途記載)	英語コミュニケーションC	河内・片岡	F110	F110	E102ほか	池添ほか 西内ほか	家族関係論	池添ほか 西内ほか	家族関係論	池添ほか 西内ほか	相談援助実習指導Ⅰ	西内ほか	E102ほか			
	2	英語コミニ基礎EW	英語コミュニケーションC	(別途記載)	英語コミュニケーションC	河内・片岡	F110	F110	E102ほか	池添ほか 西内ほか	家族関係論	池添ほか 西内ほか	家族関係論	池添ほか 西内ほか	相談援助実習指導Ⅰ	西内ほか	E102ほか			
	3	(介護)介護の基本Ⅲ	(介護)介護の基本Ⅲ	河内・片岡	実践記法論	彩原	E204	E204	E102ほか	池添ほか 西内ほか	家族関係論	池添ほか 西内ほか	家族関係論	池添ほか 西内ほか	相談援助実習指導Ⅰ	西内ほか	E102ほか			
	4	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	健康スポーツ科学Ⅰ	清原 常行	社会福祉史	行員	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	基礎生物学	岩倉	基礎生物学	岩倉	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			
金	1	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	健康スポーツ科学Ⅰ	清原 常行	社会福祉史	行員	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	基礎生物学	岩倉	基礎生物学	岩倉	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			
	2	保健医療サービス	相談援助の理論と方法Ⅰ	加藤	高齢者福祉論Ⅱ	辻・横井	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	基礎生物学	岩倉	基礎生物学	岩倉	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			
	3	虐待防止論	相談援助の理論と方法Ⅳ	加藤・西内	権利擁護論	田中き・行員	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	基礎生物学	岩倉	基礎生物学	岩倉	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			
	4	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	健康スポーツ科学Ⅰ	清原 常行	社会福祉史	行員	E102	E102	大講義室	岩倉 杉原・玉利	基礎生物学	岩倉	基礎生物学	岩倉	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中真・三好	F110			

教室の色の意味
黒:対面授業
赤:対面・遠隔併用

科目名等	開講月日
地球学実習Ⅰ	連年
地球学実習Ⅱ	連年
域学共生実習	連年
現代生活論	開講時期未定
異文化理解海外フィールドワーク	連年
国際福祉論	別途連絡
ケアプラン策定法	対面・遠隔併用 別途連絡
介護実習Ⅰ	連年(別途連絡)
介護実習Ⅱ	連年(別途連絡)
介護実習Ⅲ	連年(別途連絡)
相談援助実習	連年(別途連絡)
精神保健福祉援助実習Ⅰ	連年(別途連絡)
精神保健福祉援助実習Ⅱ	連年(別途連絡)
精神医学Ⅰ	別途連絡
精神医学Ⅱ	別途連絡
精神保健福祉論Ⅰ	連年
精神保健福祉論Ⅱ	連年

令和3年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

月	1時間		2時間		3時間		4時間		5時間						
	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員					
1	英語コミニティ応用P	(別途記載)	英語コミュニケーションD	(別途記載)	土佐の自然と暮らし 土佐の歴史と文化 (介護)介護総合演習 I	一色・非常勤 橋本・三原・ヨース・藤高 田中真・河内・河内・三好・社	13:00~14:30	教室	14:40~16:10	教室	16:20~17:50	健康スポーツ科学II(社種)	教室	教員	清原
2	科学と人間	一色・他 (別途記載)	英語コミュニケーションD	(別途記載)	福祉研究法入門	丸山	E102	大講義室	E102	大講義室					
3	英語コミニティ応用P	(別途記載)	福祉行政財政と福祉計画	田中	ケアマネジメント演習	雑賀	E103	大講義室	E103	大講義室					
4	医学概論	奥谷	社会福祉の原理と政策II	長澤・行員	社会学と社会システム	玉里	大講義室	大講義室	遠隔	ソーシャルワークの基礎と専門職I	西内・西梅・加藤	健康スポーツ科学II(社種)	大講義室	菅本 大井	
火	介護介護過程III	三好	(介護)発達と老化の理解I	杉原	地域福祉論II	田中	E102	大講義室	大講義室	相談援助演習II	西内・西梅・加藤	相談援助実習指導II	大講義室	西梅他	
2	介護介護過程III	三好	(介護)介護総合演習III	河内・田中真・三好・河内・社	面接技法	杉原	E103	大講義室	D221	(介護)介護過程IV	三好・片岡	(介護)介護過程IV	A321	三好・片岡	
3	コミュニケーションネットワーク	雑賀	精神保健福祉援助実習指導I	丸山・稲理・玉利	精神保健福祉援助実習指導II	丸山・稲理・玉利	F110・F207	大講義室	F110・F207	精神保健福祉II	橋井	精神保健福祉II	A318	三好・片岡	
4	別入関係とメンタルヘルス	内川・玉利・福田	子育て支援論	加藤	精神保健福祉援助実習指導II	丸山・稲理・玉利	E204	大講義室	F110・F207	精神保健福祉援助演習	丸山・稲理・玉利	基礎シエンダー一学 (介護)生活支援技術II	F110・F207	長澤	
1	別入関係とメンタルヘルス	内川・玉利・福田	社会保障論II	田中	情報リテラシー	河内	大講義室	大講義室	大講義室	(介護)生活支援技術II	田中真	(介護)生活支援技術II	F110	田中真・三好	
水	相談援助の理論と方法III	加藤	相談援助の理論と方法II	西梅	健康とヘルスプロモーション	清原・川上・山中	大講義室	大講義室	大講義室	(介護)生活支援技術II	田中真	(介護)生活支援技術II	F110	田中真・三好	
2	(介護)医療的ケアI	片岡	相談援助の理論と方法II	西梅	介護介護の基本II	片岡・橋井	大講義室	大講義室	大講義室	(介護)介護総合演習II	田中真	(介護)介護総合演習II	A319	田中真・三好	
3	精神科リハビリテーション学	橋井	(介護)医療的ケアI	片岡	福祉サービスへの組織と経営	福間	F110	大講義室	F110	(介護)介護総合演習II	田中真	(介護)介護総合演習II	A319	田中真・三好	
4	精神科リハビリテーション学	橋井	精神科リハビリテーション学	橋井	チームアプローチ	雑賀・大熊	D221	大講義室	E204	チームアプローチ	雑賀・大熊	社会福祉専門演習IV		担当教員	
1	英語コミニティ応用EW	(別途記載)	英語コミュニケーションD	(別途記載)	倫理学	吉川	大講義室	大講義室	大講義室	現代人権論	吉川	情報処理概論		名和	
2	政治学	清水	英語コミュニケーションD	(別途記載)	心理学	福住	E102	大講義室	E102	(介護)介護総合演習II	田中真	社会福祉基礎演習	大講義室	名和	
3	英語コミニティ応用EW	(別途記載)	英語コミュニケーションD	(別途記載)	高齢者福祉論I	福田	E102	大講義室	E102	公約扶助論	福田	社会福祉基礎演習	大講義室	名和	
4	医療福祉論	大松	英語コミュニケーションD	(別途記載)	公約扶助論	田中・行員	E204	大講義室	E204	公約扶助論	田中・行員	社会福祉専門演習IV	大講義室	名和	
1	女性福祉論	長澤	女性福祉論	長澤	精神保健福祉援助技術各論	稲垣	E102	大講義室	E103	精神保健福祉援助技術総論	丸山	情報処理概論	大講義室	名和	
2	女性福祉論	長澤	女性福祉論	長澤	(介護)障害の理解II	河内	E102	大講義室	E103	精神保健福祉援助技術総論	丸山	社会福祉基礎演習	大講義室	名和	
3	女性福祉論	長澤	女性福祉論	長澤	スーパージョン	西梅	F110	大講義室	F110	相談援助演習IV	西梅他	社会福祉専門演習IV	大講義室	名和	
4	女性福祉論	長澤	女性福祉論	長澤	介護コミュニケーション技術	河内・社(後半)	E204	大講義室	E204	相談援助演習IV	西梅他	社会福祉専門演習IV	大講義室	名和	
1	(介護)生活支援技術IV	田中真・河・津牧	(介護)コミュニケーション技術	河内・社	(介護)コミュニケーション技術	河内・社(後半)	E103	大講義室	E103	(介護)介護過程I	菅上	障害者福祉論	大講義室	名和	
2	(介護)生活支援技術IV	田中真・河・津牧	(介護)生活支援技術IV	田中真・河・津牧	(介護)認知症の理解II	宮上・社(前半)	F110	大講義室	F110	福祉NPO論	田中	障害者福祉論	大講義室	名和	
3	(介護)生活支援技術IV	田中真・河・津牧	(介護)生活支援技術IV	田中真・河・津牧	精神医学I・IIが入ることもある	山崎	E102	大講義室	E102	精神医学I・IIが入ることもある	山崎	精神医学I・IIが入ることもある	大講義室	名和	
4	(介護)生活支援技術IV	田中真・河・津牧	(介護)生活支援技術IV	田中真・河・津牧	精神医学I・IIが入ることもある	山崎	E102	大講義室	E102	精神医学I・IIが入ることもある	山崎	精神医学I・IIが入ることもある	大講義室	名和	

科目名等	教員	開講月日
専文化理解海外フィールドワーク	五百歳	通年
地域学実習I	一色・他	通年
地域学実習II	一色・他	通年
地域学実習III	一色・他	通年
専門職連携論	西内・他	別途連絡
チーム形成論	山中・他	別途連絡
女性福祉論	長澤	別途連絡
介護実習I	田中真・三好・河内・河内	通年(別途連絡)
介護実習II	田中真・三好・河内・河内	通年(別途連絡)
介護実習III	田中真・三好・河内・河内	通年(別途連絡)
相談援助実習	西梅他	通年(別途連絡)
精神医学I	山崎	別途連絡
精神医学II	山崎	別途連絡
精神保健福祉援助実習I	丸山・稲理・玉利	通年(別途連絡)
精神保健福祉援助実習II	丸山・稲理・玉利	通年(別途連絡)
地域福祉活動	田中	別途連絡
精神保健福祉論I	船木孝	通年
精神保健福祉論II	船木孝	通年

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)

2021年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児童・家庭福祉論／心理療法
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	社 会 保 障 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福祉政策/国際福祉/女性福祉
教 授	西 内 章	博 士（臨床福祉学）	ソーシャルワーク論
教 授	丸 山 裕 子	博 士（社会福祉学）	ソーシャルワーク論
教 授	宮 上 多 加 子	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
教 授	横 井 輝 夫	博 士（保 健 学）	リハビリテーション科学
准教授	大 松 重 宏	修 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
准教授	河 内 康 文	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	遠 山 真 世	博 士（社会福祉学）	障 害 者 福 祉 論
准教授	西 梅 幸 治	博 士（福祉社会学）	ソーシャルワーク論
准教授	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	福祉施設運営管理論
准教授	三 好 弥 生	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
講 師	加 藤 由 衣	博 士（福祉社会学）	児童・家庭福祉論
講 師	辻 真 美	博 士（社 会 学）	介 護 福 祉 論
講 師	行 貞 伸 二	修 士（社会福祉学）	生 活 困 窮 者 支 援
助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助 教	大 熊 絵 理 菜	修 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	片 岡 妙 子	修 士（看 護 学）	介 護 福 祉 論
助 教	雑 賀 正 彦	修 士（社会福祉学）	地 域 福 祉 論
助 教	田 中 眞 希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	玉 利 麻 紀	修 士（人 間 科 学）	精 神 保 健 福 祉 援 助 技 術 論
助 教	福 田 敏 秀	博 士（保 健 学）	高 齡 者 福 祉 論

杉原 俊二

Shunji SUGIHARA

○ 研究活動

（１）論文（原著・研究ノート・書評）（14件）

1. 杉原俊二「きょうだい間葛藤についての一考察—私と兄との青年期までの関係を中心として—」『人間科学研究』21, 21-28.（※査読有り）
2. 杉原俊二（2021）「なぜアフターケアに児童家庭支援センターの利用を考えたのか—Xセンターの実践を中心として—」『人間科学』92, 2-5.（2021年5月）
3. 杉原俊二「Sさんの修士課程修了後の5年間（Ⅶ）—C短大への入職5年目—」『人間科学』92, 6-13.（2021年5月）
4. 杉原俊二「Sさんの修士課程修了後の5年間（Ⅷ）—年表から振り返る—」『人間科学』93, 2-7.（2021年7月）
5. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅰ）—学部4年時を中心に振り返る—」『人間科学』93, 8-15.（2021年7月）
6. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅱ）—修士課程時代を振り返る—」『人間科学』94, 2-9.（2021年9月）
7. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅲ）—W短大への就職の顛末—」『人間科学』94, 10-17.（2021年9月）
8. 杉原俊二「新型コロナワクチン接種の副反応—私の個人的体験から—」『人間科学』95, 2-7.（2021年11月）
9. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅳ）—W短大での1年目（前篇）—」『人間科学』95, 8-15.（2021年11月）
10. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅴ）—W短大での1年目（中篇）—」『人間科学』96, 2-9.（2022年1月）
11. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅵ）—W短大での1年目（後篇）—」『人間科学』96, 10-17.（2022年1月）
12. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅶ）—W短大での2・3年目—」『人間科学』97, 2-9.（2022年3月）
13. 杉原俊二「TさんのW短大での5年間（Ⅷ）—W短大での4・5年目—」『人間科学』97, 10-17.（2022年3月）
14. 杉原俊二「書評『ライフストーリー・入門』（高松里）」『ふまにすむす』33,

（２）学会発表等（4件）

1. 杉原俊二「児童家庭支援センターの業務についての文献検討—社会的養護のアフターケアとの関連—」日本社会福祉学会中国四国地域ブロック第52回岡山大会（川崎医療福祉大学：遠隔）2021年7月10日
2. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた虐待予防（3）—支援者の側から見た4T法の実施—」

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

日本家族療法学会第 38 回東京大会（立正大学：遠隔）2021 年

3. 杉原俊二・宮崎正宇「児童養護施設卒園生のアフターケアの福祉ニーズ調査—リービングケア・アフターケア実践のために—」日本社会福祉学会第 69 回秋季大会（東北福祉大学：遠隔）
2021 年 9 月 12 日

4. 杉原俊二「保護者の『語り』と児童虐待の予防」2021 年リカレント教育（高知県立大学：Web）
2021 年 9 月 8 日収録

○ 教育活動

(1) 学部：講義・演習 173 コマ+実習（4 回訪問指導、学内実習：集中）

「心理学と心理的支援」（1 年前期 8 コマ分、看護学科「心理学理論と心理的支援」を同時開講）、
「発達と老化の理解Ⅰ」（2 年後期）、「面接技法」（3 年後期）、「実践記録法」（4 年前期）、「社会福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（3 年生 2 名）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（4 年生 4 名、研究生 1 名）

(2) 大学院：講義・演習 149 コマ

人間生活学研究科（博士前期課程）：「児童・家庭福祉論Ⅱ」「課題研究演習」（主指導 1 名）「データ解析論」（7 コマ）、（博士後期課程）「研究倫理」（7 コマ）「児童・家族福祉学」「障害者福祉学」（共に 30 コマ）、「社会福祉学特別研究Ⅱ」（主指導 1 名）

○ 委員会活動

(1) 全学「人権委員長」「図書館委員長」「総合情報センター運営委員（副委員長）」「大学院入
実施委員会（副委員長）」「図書館運営委員（高知工科大学と合同）」

(2) 学部「人権委員長」「図書館委員長」「人事関係検討会委員」「自己点検委員」

(3) 大学院「学位審査委員長」「博士後期課程入試実施委員」「研究助成金書面調査委員」

○ 社会的活動

(1) 社会活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカースーパーバイザー、高知県社会福祉協議会理事
選考委員（議長）、高知県市教育委員会いじめ問題調査委員（9 月から）

(2) 学会など

日本人間科学研究会理事、KJ 法学会運営委員・編集委員、日本社会福祉学会中国四国地域ブ
ロック運営委員（研究担当）・所属学会等の編集協力（査読者）

(3) 講演など

1. 高知県児童福祉司任用前講習会（令和 3 年度）「児童の成長・発達と生育環境」（6 月 25 日 90
分）高知県中央児童相談所

2. 相談援助実習指導者講習会「実習スーパービジョン論」（2 月 20 日 8 時間）遠隔

3. スクールソーシャルワーカースーパービジョン（本山町）（3 月 10 日 2 時間）本学会議室

○ 総合評価と課題

人間生活学研究科長を退任して4年目となった。研究科長としての会議や当て職が減ったこともあり、もう少し教育と研究に目が届くようになるかなと思っていたが、そのようにはなかなかならなかった。学内では全学の人権委員長（学長指名）と図書館委員長（センター長指名）、学外では日本社会福祉学会中国四国地域ブロックの理事（研究担当）となり、責任ある仕事が増えていった。なかなかスマートに業務を片づけることができず、学内外の皆様には多くのご迷惑をおかけした。

講義などの仕事が多いとは思っていたが、それまで授業に関してはあまり苦になっておらず、むしろ会議より好きではある。ただ、一昨年から続くコロナ禍で遠隔授業が増えたこともあり、思い切って全体を見直してみた。そうすると、コマ（90分）単位ではあるが、授業だけで2人分近くを担当しているのではないかとも思えてきた。9月には通常業務に一時的な負荷が重なり、加えて学会発表や科研費申請の準備とコロナ過での学内実習があったため、数年ぶりに「弱音を吐く」といったこともあった。その時は、学内外の多くの人に迷惑をかけた。それでも、教育に関してはなんとか責任を果たせていたのではないだろうか。

本学へ赴任して13年目となり、第二十一期生を卒業させることができた。学部での授業としては、上記のように「心理学と心理的支援」「実践記録法」「面接技法」「発達と老化の理解Ⅰ」を担当したうえ、実習関係の科目も担当していた。講義科目については、いつ遠隔授業に切り替わっても大丈夫なように、担当する講義科目についてパワーポイント（スライド）を作った。以前から導入した方法を継続すると同時に、例年通り学生の意見聴取にできるだけ務めた。ゼミも少し変えて、全体ゼミを減らして3年は授業（主として論文講読）、4年は授業と個別指導を組み合わせおこなった（負担時間は大して変わらず）。特記すべきは、4年になって就職活動も国試準備も取りかかりが早く、12月には昨年同様に4人の就職が決まり、卒論の提出も締め切り1週間前には終わった。そのうえ、国試も4人全員が合格した。

大学院では、博士前期課程の「児童家庭福祉論Ⅱ」「データ解析論」「課題研究演習」、博士後期課程の「障害者福祉学」「特別研究Ⅲ」「研究倫理」を担当しており、それなりに負担となっていたようだ。来年度には少し整理をさせてもらうことになった。博士前期課程と後期課程で留学生1名ずつを担当し、大学院への進学希望の研究生も1名いた。土・日・祝日の勤務も多く、留学生のお世話（文化差と個人差）も大変であり、なかなか振替休日を取得することが難しい。

研究に関しては好調なのか不調なのかよくわからない1年であった。コロナ禍で調査が進まず、2017年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「4テーマ分析法を用いた虐待予防—「虐待リスク」を抱える保護者支援法（2）—」をさらに1年間延長してもらった。また、博士後期課程の修了生と一緒に一昨年度の行った「児童養護施設卒園生のニーズ調査—リービングケア・アフターケア実践のための研究—」も論文化ができておらず、来年度に持ち越しとなってしまった（発表はできた）。別の科研費の共同研究者にもなっており、忙しい中ではあるが、適切な研究は何かを考えながら行っていきたい。一方、学会等での発表が4件と多くできた。評価もそれなりに得ることができているように思う。ただ、思うように研究は進んではいない。これは、来年度への反省である。

学内行政であるが、委員会等については、学部ではいつもの仕事に加え、人権委員会と図書館委員会のともに全学の委員長であった。その当て職もあり、会議や打ち合わせの数が増加した。

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

リモートでの会議も増え、なんとかこなすことができた。ただ、そのために大学院の振替休暇が取りにくくなっているのも事実であり、来年度以降の検討が必要である。

社会的な活動については、地域貢献として仕事（県教委・市教委、県社会福祉協議会）も、コロナ禍のため例年より少し減ったものの、まだまだ多い。逆に学会等の活動では、研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。

来年度は再び、研究科長を併任することになる。今年度は、コロナワクチン接種の副反応がひどく、厳重な体調管理の必要性を感じている。多くの先生方と協力し合いながら、何とか走り抜きたいと考えている。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○研究活動

（1）著書

- ・田中きよむ『少子高齢社会の社会保障・地域福祉論』中央法規出版, 2021年6月

（2）論説

- ・田中きよむ・霜田博史・玉里恵美子「大規模地震被災地域におけるコミュニティ形成の現状と課題—東日本大震災地域を事例として—」『高知論叢』第122号, 2022年3月（139 - 173頁）

（3）研究報告

- ・田中きよむ・石川由美「生活困窮者支援の先進的取り組みの基軸—NPO法人『抱樸』におけるホームレス支援—」『Humanismus』第33号, 2022年3月（41 - 57頁）
- ・NTTデータ経営研究所「中山間地域における地域共生社会を見据えた地域包括ケアシステムの深化に関する調査研究事業報告書」（令和3年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業, 検討委員会委員長 田中きよむ）全89頁, 2022年3月

（4）学会発表

- ・田中きよむ「地方におけるホームレスと『見えにくい貧困』—高知県内における支援活動をふまえて—」日本民族学会第73回（オンライン開催）2021年10月

（5）研究助成

- ・田中きよむ（研究代表者）「中山間地域の運転免許返納者を含む移動問題と地域共生拠点を活かした課題解決の探求」（文部科学省科学研究費基盤研究（B）（一般）；2019-2021年度）

○教育活動

（1）学部

（専門教育）

1. 地域福祉論Ⅱ
2. 社会保障論ⅠⅡ
3. 福祉行財政と福祉計画
4. 公的扶助論
5. 権利擁護論
6. 福祉NPO論
7. 社会福祉専門演習ⅠⅡ
8. 福祉研究演習ⅢD
9. 社会保障と看護（看護学部）
10. 保健医療福祉論（健康栄養学部）

（共通教育）

1. 地域学概論

（2）大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. 社会保障論
3. 社会福祉課題研究演習

○委員会活動

- ・（学部）キャリア支援委員会委員、教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員長、人事関係検討会委員、国際交流委員会委員長
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、国際交流委員会委員、図書館委員会委員

○社会的活動

（委員等）

- ・高知県運営適正化委員会委員
- ・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
- ・高知県青年農業士認定委員会委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員
- ・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長
- ・高知県リハビリテーション研究会理事
- ・高知県高次脳機能障害支援委員会委員
- ・高知県居住支援協議会会長
- ・社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミリーユ高知」各第三者委員
- ・NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO法人「未来予想図」副理事長
NPO法人「あさひ会」理事長、NPO法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事

（研究・学習会、講演等）

- ・四万十町地域福祉活動計画推進委員会：アドバイザー（四万十町社会福祉協議会、2021年4月8日）
- ・コロナ禍における障がい福祉研究会：代表（高知市役所等 2021年4月20日、5月7日、6月26日、7月2日、7月27日、8月25日、11月18日、2022年1月11日）
- ・高知県社会保障推進協議会：会長（オーテピア 2021年5月22日、県民文化ホール 8月18日）
- ・やいろ鳥（ひきこもり当事者・家族の会）：学習会講師（東部健康福祉センター 2021年5月23日、10月24日）
- ・ひかり協会（森永ヒ素ミルク中毒被害者救済対策委員会）：高知県地域救済対策委員会委員長（Web会議；①行政協力懇談会 2021年6月15日、②定例委員会 9月15日、③地域連絡協議会 12月5日）
- ・高知県青年農業士認定委員会：委員長（高知城ホール 2021年7月6日、8月6日）
- ・高知県居住支援協議会：会長（高知県宅地建物取引協会 2021年7月12日）
- ・高次脳機能障害リハビリテーション講習会：副委員長、パネリスト（Web会議 2021年7月31日、オーテピア 12月18日）
- ・全国障害者問題研究大会分科会：共同研究者（Web会議 2021年8月8日、福祉交流ブ

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

ラザ 10月24日)

- ・厚生労働省老健事業「中山間地域における地域共生社会を見据えた地域包括ケアシステムの深化に関する調査研究事業」：委員長（四国厚生支局 2021年8月13日, Web会議 11月5日, 愛媛県東温市役所 2022年1月6日, Web会議 1月13日）
- ・高知県保育運動連絡会：会長（共済会館 2021年9月4日, 高知城ホール 10月17日・11月28日）
- ・市民後見人養成講座（高知市社会福祉協議会）：講師（あんしんセンター 2021年10月7日）
- ・「障害者の人権と虐待防止」（すずめ福祉会研修）：講師（すずめ共同作業所 2021年10月26日）
- ・「障害者権利条約と差別解消法」（高知家庭裁判所研修）：講師（高知家庭裁判所 2021年11月8日）
- ・ホームレス支援と貧困問題を考える高知の会：代表（高知市健康福祉センター 2021年11月13日）
- ・「With コロナと Post コロナの福祉・社会政策とわれわれの暮らし」（高知市民の大学）：講師（かるぼーと 2021年12月17日）
- ・「地方における貧困問題と地域共生社会」（高知県立大学健康長寿センター事業リカレント教育講座）：講師（Web公開 2021年11月1日～）
- ・「地域福祉セミナー」（高知県立大学社会福祉学部）：コーディネーター（Web公開 2022年2月17日）

○総合評価及び今後の課題

- ・ 研究面では、2021年度は、①生活困窮者の実態把握と支援方法に関する検討、②コロナ禍の障害福祉事業への継続的な影響調査、③地域共生社会における住民の主体性形成要因と多職種連携のあり方に関する事例検討、④近年の社会保障制度改革の構造と本質に関する動向分析を進めた。2022年度は、それらに関する実態調査を進めたり、理論的検討を深めていきたい。
- ・ 教育面では、講義に関しては、地域福祉論、社会保障論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画、権利擁護論、福祉NPO論などを担当しているが、授業アンケート結果をふまれば、それらの科目に関する学生の理解力、関心の向上や主体的取り組みを改善する授業の工夫が依然として課題となっている。オンライン授業を契機として、レジュメによる教育内容の明確化や、授業毎のフィードバックによる理解度の確認に努めた。専門演習に関しては、とくに4回生の卒業研究において、コロナ禍の下でのフィールド調査研究が制約を受けつつも、可能な限りの聞き取り調査に向けた指導をおこなった。2022年度は、とくに、講義において、ミクロの個別支援に関心が強い学生に対して、それをメゾレベル（地域福祉）やマクロレベル（社会保障）で捉え直すことの意義を理解してもらえぬ工夫に努めたい。
- ・ 社会的活動は、2021年度は、住民の主体性を尊重しつつ、様々な要援護者、生活困窮者を地域で支える仕組みづくりについて検討する機会を戴けた。今後は、学生も巻き込む形で、地域との接点を持ち、住民の現実の生活課題を学びつつ対策を検討するとともに、各地域ならではの積極的な固有価値を再発見して、活性化する関係づくりに少しでも寄与していきたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

(1) 論文 なし

(2) 学会発表（2件）

- ・ Kimiko NAGASAWA, "Building the Queer-affirmative Education Program for Social Work Students in Japan", The 26th Asia-Pacific Regional Social Work Conference, Human Rights /LGBTQ. *

（オーストラリア、ブリスベンにて開催；オンライン発表）2021年11月13日

*学会 Registration Award を受賞 <https://www.aasw.asn.au/professional-development/the-26th-asia-pacific-regional-social-work-conference-2021>

- ・ 長澤紀美子「日本の福祉政策における評価レジームの変容の諸相（分科会企画趣旨説明・座長）」『社会政策学会第143回大会テーマ別分科会③』（オンライン発表）2021年10月16日.

(3) 競争的資金等の獲得状況（3件）

- ・ 科学研究費補助金 基盤研究(B)（一般） 課題番号 #19H01586

「社会福祉における評価レジーム再編の課題をめぐる理論的・実証的研究」（平成31年／令和元年度～令和4年度）（研究代表者：東京通信大学人間福祉学部 平岡公一教授）の分担研究者

- ・ 科学研究費補助金 基盤研究(C)（一般） 課題番号 #20K02267

「クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」（令和2年度～令和4年度）の主任研究者

- ・ 令和3年度社会福祉学部長枠研究費（外部資金獲得準備のための研究活動費支援）

長澤紀美子、西内章、西梅幸治、加藤由衣「大学院人間生活学研究科における認定社会福祉士科目の設置に向けた調査研究」

○教育活動

(1) 学部

① 講義科目【学部専門科目】:「社会福祉の原理と政策Ⅰ」「社会福祉の原理と政策Ⅱ」（行貞講師とのオムニバス）,「女性福祉論」,「国際福祉論」（玉利助教・河内准教授とのオムニバス）

② 講義科目【共通教育科目】:「基礎ジェンダー学(永国寺)」,「基礎ジェンダー学(池)」

③ 実習科目:「相談援助実習指導Ⅲ」「相談援助実習」「相談援助演習Ⅳ」

④ 卒業研究指導(ゼミ):「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」(受講者5名),「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」(受講者6名)

（2）大学院

【人間生活学研究科博士前期課程】

- ・ 「国際福祉論Ⅱ」（受講生6名）／研究指導：主研究指導教員としてM1生1名、副研究指導教員としてM2生1名（栄養・生活学）を担当

【人間生活学研究科博士後期課程】

- ・ 「国際福祉政策学」（受講者1名）／研究指導：主研究指導教員としてD1生1名、副研究指導教員としてD2生2名（社会福祉学）を担当

○委員会活動

【全学】 【大学院】 人間生活学研究科長*

*全学会議委員（部局長会議、教育研究審議会、大学教育改革プロジェクト、大学院あり方検討会、入学試験委員会、研究倫理委員会、自己点検評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、学術研究戦略委員会、学術研究戦略委員会審査・評価部会）

*人間生活学研究科委員会議長、全学紀要委員会委員長、動物実験委員会委員

【学部】 防災委員（全学災害対策プロジェクト）、国際交流委員、自己点検評価委員、人事関係検討会委員

○社会的活動

（1）委員等

高知県社会福祉協議会・地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員（委員長）【2021年度は開催せず】

高知市人権尊重のまちづくり審議会委員（令和元年度～）

高知県人権尊重の社会づくり協議会委員（令和元年度～）

高知県DV被害者支援計画策定委員会委員（令和3年度～）

高知地方労働審議会委員（令和3年度～）

高知労働局「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会（委員長）（令和3年度～）

高知県社会福祉審議会委員（令和3年度～）

（2）大学としての社会貢献（講演2件）

- ・ 域学共生連携拡大会議 「共生×県大」「同性パートナーシップ制度はなぜ必要か？－高知県から発信する人権政策－」（2021年8月31日Zoom配信）
- ・ 高知県立大学リカレント教育講座「社会福祉学部×SDG」「多様な性の理解とSOGI：LGBTをめぐる人権課題」（2021年11月15日以降YouTube配信）

（3）地域での講演（性的指向・性自認（SOGI）に関わる人権研修会講師）等

- ・ 5月28日 高知県私立小中高等学校人権教育研究協議会第1回人権教育研修会 「SOGI/LGBTQと人権－多様な性を認め合う学校づくり－」（高知県人権啓発センター）
- ・ 5月28日 私立学校校長会・事務長会並びに管理職研修 「SOGI/LGBTQをめぐる人権教育の課題－日本及び国際的動向をふまえて－」（高知県人権啓発センター）

- ・ 7月20日 令和3年度黒潮町職員人権研修「多様な性と人権 ―わたしがわたし
でいられるまち―」（黒潮町役場）
- ・ 8月19日 令和3年度中土佐町人権教育研究協議会夏期講座「SOGI（性的指向・
性自認）を人権として尊重する学校や地域を目指して」（中土佐町人権啓発セン
ター）
- ・ 11月26日 令和3年度宿毛市人権教育推進講座第3講座「性的指向・性自認」
（宿毛市立正和隣保館）
- ・ 2月15日 香南市「SOGI 対応マニュアル」作成のための意見交換会（人権課・
市長）（ズーム会議）
（以上、任意団体「ソーシャルアライ・コナツハット」の他の共同代表とともに実
施）

○総合評価及び今後の課題

（1）学部授業において

- ・ 社士・精士指定科目の1回生必修「現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ」は、今年度から新カリ
の「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」となり、行貞講師とオムニバスで半分を分担し
た。新カリ対応のため授業内容と教材を再編し、ムードルでの動画（URL）や公開資
料も活用し、直観的にもわかりやすい授業となるよう心掛けた。さらにフィードバ
ックの質問に対する受講生の回答を分析して次回の授業で共有し、学生の理解度を
確認し、双方向型授業となるように努めた。一方で法律・制度の理解度にはばらつ
きが大きく、苦手意識を持つ学生への対応が課題である。
- ・ 共通教育科目の基礎ジェンダー学（前期：永国寺、後期：池）を通年担当し、他学
部の学生に対しても分かりやすい講義を心掛けた。受講生は両キャンパスで220名
余りであり、こうち男女共同参画センター「ソーレ」の講座活用の課題提出及び「こ
うち減災女子会」などゲストスピーカーの招聘などを通して、学生に対するジェン
ダー平等教育や啓発の機会を増やすように努めた。一方、学部専門科目の女性福祉
論は、学年の4割程度が受講し、性暴力被害者支援やLGBTQの相談支援に係る専門
職から現場の実践的な支援内容や課題を学び、積極的な質疑応答の機会を作ること
ができた。受講生の一部は、授業のテーマを地域学実習や卒業研究に発展させるな
ど、ジェンダー問題への関心を深めているように思う。
- ・ 国際福祉論について、次年度から英コミ代替科目となることを見据え、今年度から
オムニバス科目となり、従来の教育内容から、マイノリティの人権や多文化共生に
関わる内容や国試対策に係る内容を抜粋して教育を行った。次年度は2回生配当と
なり、社会福祉学部での国際化に適した授業内容の構成が課題である。

（2）研究活動・社会貢献について

- ・ 科研（主任および分担）の研究課題について、それぞれ日本語・英語にて学会で報
告を行うことができたが、学術論文として取りまとめることができず、次年度の課
題としたい。
- ・ SOGI に関する人権課題について、県内の自治体職員や教育関係者に向けた研修講
師を担うと共に、自治体担当者と SOGI に関する職員行動指針等に関して、ズーム
による意見交換会を行った。また同性パートナーシップ制度を導入予定の県内の自
治体が、域学共生連携拡大会議を職員研修として指定したおかげで、多くの自治体

職員が受講された。

（3）学内業務について

○人間生活研究科長（任期4年目）としての大学院運営【以下、特に指定のない場合は、博士前期及び博士後期課程両方を指す。】

- ・ ①ディプロマ・ポリシー（以下DP）に基づく学修成果の評価指標の改訂（満足度等の質的項目の追加）、②論文審査基準に基づくルーブリック評価基準や活用の方針・手続きに関する明文化と学位審査への活用、③昨年度実施の修了生アンケート結果を踏まえた、修論発表会（前期課程）、公聴会（後期課程）の参加資格の見直し、④在学生の研究成果の取りまとめ、⑤認定社会福祉士科目の導入（前期課程）の検討のため、認定社会福祉士有資格者や職能団体等への調査・分析と報告（学部長予算枠研究費の助成：研究班（西内教授、西梅准教授、加藤講師、長澤））等を新たに行った。次年度は研究科長から離れるが、人間生活学研究科として、新DPに基づく学修成果の測定など教育成果の質を多面的に示すデータ等の収集や分析が継続的な課題である。
- ・ もうひとつの継続的な課題が大学院の定員確保や入試説明会の参加者増である。その一環として、広報委員や広報課の尽力のもと、大学院ホームページにロールモデルとなる修了生の声を2名紹介した。コロナ禍のもと、県外や国外（留学生）からの志願者に対して、ホームページでの情報の重要性は増しているため、今後も情報発信の改善が課題である。

○ 研究活動

1. 学会発表

御前由美子・安井理夫（関西福祉科学大学）、小榮住まゆ子（椋山女学園大学）、
西内章「消滅可能性にある集落住民へのソーシャルワークに基づく支援—文献研究を通じた支援方法の構想—」日本社会福祉学会第69回秋季大会（東北福祉大学）
※2021年9月11日（土）～10月11（月）インターネットによる発表

2. 科学研究費助成事業

研究種目 基盤研究 (C) :2018 ～ 2022 年度
※2022年度まで研究期間を1年間延長している.

研究代表者 西内章

研究課題 『ソーシャルワークにおけるICTを活用した多職種連携モデルの構築』

3. 研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰、京都府立大学公共政策学部教授 中村佐織会長）」に所属し、アセスメント支援ツールの研究開発を行った。

○ 教育活動

[共通教育教養科目]

- ①「専門職連携論」
- ②「チーム形成論」

[学部専門教育科目]

- ①「事例研究法」
- ②「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
- ③「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
- ④「虐待防止論」
- ⑤「ケアプラン策定法」
- ⑥「相談援助演習Ⅲ」
- ⑦「相談援助演習Ⅳ」
- ⑧「相談援助実習指導Ⅰ」
- ⑨「相談援助実習指導Ⅱ」
- ⑩「相談援助実習指導Ⅲ」
- ⑪「相談援助実習」
- ⑫「社会福祉専門演習Ⅰ」
- ⑬「社会福祉専門演習Ⅱ」
- ⑭「社会福祉専門演習Ⅲ」
- ⑮「社会福祉専門演習Ⅳ」

[大学院人間生活学研究科・博士前期課程]

- ①研究方法論Ⅱ

教育研究活動報告書（西内 章）

- ② ソーシャルワーク論
- ③ 高齢者福祉論
- ④ 課題研究演習

※ 主指導教員として院生 1 名の研究指導を行い、修士論文を提出した。

○委員会活動

- ・ 学部総務・予算委員長
- ・ 実習委員長
- ・ 人事関係検討会委員
- ・ 自己点検評価委員
- ・ 紀要編集委員
- ・ 入試広報部会委員
- ・ 大学院広報委員

○社会的活動

[委員等]

- ・ 高知県行政不服審査会委員
- ・ 高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
- ・ 高知市成年後見制度利用促進審議会会長
- ・ 高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長
- ・ 高知市社会福祉協議会評議員
- ・ 高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長
- ・ 高知市社会福祉協議会これから安心サポート事業審査委員会委員長
- ・ 津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員
- ・ 津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員

[研修会講師・講演等]

- ・ 高知リハビリテーション専門職大学 非常勤講師
- ・ 津野町教育員会研修講師「困っている児童生徒への支援」（2021年6月4日）
- ・ 高知県児童福祉司任用前講習会講師「児童家庭支援のためのケースマネジメント基本（1）」（2021年6月24日）
- ・ 高知県教育委員会研修講師「令和3年度スクールソーシャルワーカー活用事業第1回初任者研修会」（2021年6月25日）
- ・ 令和3年度高知県社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー養成研修講師「対人援助における権利擁護の視点」（2021年7月20日）
- ・ 令和3年度県民大学公開講座第4回「判断能力が低下してきた時に利用できる制度や支援」（2021年8月10日～16日；YouTubeでの公開）
- ・ 高知市成年後見サポートセンター第6回市民後見人養成講座講師「対象者理解－高齢者・認知症の理解－」（2021年10月7日）
- ・ 令和3年度高知県入退院支援事業研修講師「第2回多職種協働研修」（2021年11月10日）
- ・ 高知県教育委員会研修講師「令和3年度スクールソーシャルワーカー活用事業第2回初任者研修会」（2021年11月12日）
- ・ 高知県心の教育センター研修講師「令和3年度第2回スクールソーシャルワーカーグ

教育研究活動報告書（西内 章）

ループ学習会」（2021年11月26日）

- ・認知症の人と家族の会コールセンター研修講師「認知症の人への生活サポート」（2021年11月27日）
- ・高知県医療的ケア児等支援養成研修・コーディネーター研修講師「支援の基本的枠組み、制度、保育」（2021年12月8日）
- ・高知県社会福祉士会社会福祉士実習指導者講習会「実習プログラミング論」（2022年2月19日）
- ・津野町立葉山中学校校内研修「困っている児童生徒への支援」（2022年2月24日）
- ・令和3年度中土佐町高齢者虐待防止研修会講師「組織内で活かせる虐待防止の仕組み、体制づくり」（2022年3月1日）
- ・福祉サービス第三者委員ブロック別研修会講師「当事者・家族からの申し出と事故やトラブルの実際」（2022年3月17日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で講義・演習科目は、対面方式だけでなく、ZoomやMoodleを活用した遠隔形式も活用した。社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは、4回生5名の卒業研究論文指導を行った。大学院では大学院生1名の主指導を担当し、修士論文を提出し修了させることができた。

次年度の教育活動でも、授業の目標をもとに有効な教材研究を行い、学生の理解度に応じた授業展開を実践したい。

2. 研究活動

研究活動では、科研費の研究について新型コロナウイルス感染症の影響で研究が予定通り進まなかったため、研究期間を1年間延長し令和4年度も継続することにした。次年度は科研費の最終年度になるため研究活動をまとめたい。

3. 委員会活動

令和3年度も、学部総務・予算委員長として学部連絡会・教授会の準備、備品や資料の購入・管理等に取り組んだ。また実習委員長として三福祉士の実習の統括を行った。紀要編集委員の業務では、大学紀要（社会福祉学部編）の編集作業を行った。

大学院広報委員としては、人間生活学研究科のホームページに当該研究科の情報を定期的に掲載するように努めた。

4. 社会的活動

社会的活動についても新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら対応することになった。具体的には、外部委員としての活動と、外部研修の講師を行った。社会的活動は、自らの研究活動と関連しているテーマも多いため自己研鑽になっている。

5. 今後の課題

教育活動では、遠隔授業に有用な教材の検討を行う必要がある。研究活動では、新型コロナウイルス感染症の影響下でできることを検討しなければならない。計画通りに進まない時の代替が重要である。委員会活動でも、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことが多かったため対策を検討する機会が多かった。

次年度も教育活動及び研究活動、委員会活動、社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み、現在の自分を見つめ直し、気づきを得ながら改善に取り組み、尽力したいと考えている。

○研究活動

- 1 研究会参加
十勝ソーシャルワーク研究会（休会中）
- 2 論文等
なし

○教育活動

（学部）

- ・福祉研究法入門
- ・精神保健援助技術総論
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- ・精神保健福祉援助演習

（大学院）

- ・精神科ソーシャルワーク論

○委員会活動

学部

- ・精神・社会福祉コース長（前期）
- ・社会福祉研究倫理審査会委員
- ・入試広報部会
- ・ソ教連担当

○社会的活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業非常勤講師（スーパーバイザー）

○総合評価及び今後の課題

学部・大学院ともに、社会福祉学を学ぼうとする学生の質の変化に戸惑いを隠せない。また、学生間の差異が広がっており、授業・演習・実習の体系的組み立てにも、どこに照準を合わせるかに頭を悩ませる日々である。コロナ禍における実習・演習科目に関しては、それが顕在化してきている印象を持っている。

社会福祉学の大きな特徴の一つは、理論を敷衍する実践活動を伴っていることである。実践場面において、利用者の現実生活に実効を上げるためには、実践・教育・研究の統合への取り組みが必要不可欠であると考えている。しかし、近年これら貫く軸が大きく揺らぎつつあるように感ずる。社会福祉学としての本質に立ち戻り、研究のさらなる深化をはかりたいと願っている。

宮上 多加子

Takako MIYAU

○研究活動

（1）論文

- ・宮上多加子・辻真美・河内康文・荒川泰士(2022) 訪問介護事業所における人材育成の現状と課題—職場学習論に基づく分析『高知県立大学紀要社会福祉学部編』71, 1-18.
- ・片岡妙子・田中眞希・三好弥生・宮上多加子(2022) 介護老人福祉施設の介護職員における「演じる行為」の特徴—障害者入所施設との比較—『高知県立大学紀要社会福祉学部編』71, 67-78.

（2）学会発表

なし

○教育活動

[学部]

（1）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース1回生（後期）の授業を担当した。ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と、事例を用いた介護過程の概要について講義した。今後の課題としては、理論的な内容を分かりやすく説明する工夫が必要である。

（2）「介護過程Ⅱ」

介護コース2回生（前期）の科目であり、介護実習の記録としても活用している KOMI 記録システムについて詳細に解説した。内容の理解が深まったという評価が多かった。

（3）「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」

「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」とともに昨年に引き続きオムニバスで担当した。医学的側面からの理解を深めると同時に、当事者からの発信、地域社会における認知症をもった人への支援などを取り上げた。認知症介護に関する新しい情報を伝えるために、テキストに掲載されていない内容も適宜追加して盛り込む必要性を感じた。

（4）「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」

3回生のゼミ生は6名、4回生のゼミ生は3名であった。例年のようにゼミの活動内容をゼミ記録にまとめた。

[大学院（人間生活学研究科博士前期課程）]

（1）「介護福祉論Ⅱ」を専任教員とオムニバスで担当した。受講者は3名であった

（2）論文指導

正指導教員としてM1生1名、副指導教員としてM1生1名を担当した。研究を進めるためのディスカッションの場として、大学院ゼミを毎月1回程度継続的に開催した。

[大学院（博士後期課程）]

（1）「介護福祉学」は受講者1名であり、質的研究法のテキストを用いて進めた。オムニバスで担当した「研究倫理」は受講者5名であった。

（2）論文指導

正指導教員として院生4名を担当した。また、副指導教員として院生2名を担当した。

○委員会活動

[全学]

社会福祉学部長（教育研究審議会/部局長会議/入学試験委員会/自己点検評価運営委員会/教員評価委員会/非常勤講師審査委員会/学術研究戦略委員会/人事委員会/大学教育改革委員会/大学院あり方検討会/高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

[学部]

学部総務・予算委員会/学部人事関係検討会/自己点検評価委員会

[大学院（人間生活学研究科）]

学務委員（博士後期課程）/教務委員会

○社会的活動

高知県社会福祉審議会委員/高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員

高知県福祉活動支援基金運営委員会委員/高知市民生委員推薦会委員

高知県社会福祉協議会理事/日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動

学部教育においては、新型コロナ感染が収束せず、一部遠隔授業での対応となったが、昨年度からの遠隔授業への対応に学生・教員とも慣れてきて、大きな混乱は生じなかったように思う。しかし、対面でのやりとりを基にした学生との親密な交流は少なくなり、相互に理解不足が生じている可能性もある。次年度以降は、遠隔授業の経験を踏まえて授業資料を改善するとともに、Moodle等を活用した双方向のやり取りを増やしていきたい。

大学院教育においては、博士前期課程よりも博士後期課程の指導学生が多い年度となり、研究指導に長時間を費やした。

（2）研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」の研究期間を再延期して調査を実施した。アンケート調査のテーマは、「訪問介護事業所におけるICT活用の現状」であり、近年、介護分野においても導入促進が議論されているICTについて、職場における職員相互の支援関係も含めて調査した。結果を分析したうえで、次年度の公表に向けて準備を進めていきたい。

（3）学内業務

新型コロナウイルス感染拡大のために、対面での行事や活動が制限された反面、Webを活用した事業方法の工夫が多くなってきた点は評価できる。入試の状況については、前期・後期入試は昨年とほぼ同様の志願者を確保できた一方で、学校推薦型選抜において県内・全国枠共に志願者が減少したため、次年度以降の課題となっている。

学部運営に関しては、専任教員退職後の後任者が確保できず、さらに令和3年度末での退職者3名が加わったため、次年度は専任教員20人体制でスタートせざるを得ないことが一番の課題である。また、学部長としての任期は令和4年3月末までとなったため、学部の新体制へのスムーズな移行を支援することも私自身の残された業務である。

加えて、学部教員全体の課題としては、研究活動の活性化が望まれる。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、学部教員の研究活動が制限されている側面はあるが、共同研究の活性化や外部資金獲得に向けた仕組みづくり等、今後取り組むべき課題は多い。

横井 輝夫

Teruo YOKOI

○研究活動

論文

- ・ Teruo Yokoi, Ketu Ri: Dressing oneself with words; Key points for recovering basic activities of daily living in patients with severe Alzheimer's disease. Gerontology and Geriatric Medicine 7, 1-3, 2021.
- ・ Ketu Ri, Teruo Yokoi, Yayoi Miyoshi, Hiroyuki Watanabe, Toshihide Fukuda: Caregivers' roles in preventing patients with severe Alzheimer's disease from becoming distracted during mealtimes: two case reports. Journal of Physical Therapy Science 33(10), 711-716, 2021.

○教育活動

（学部）

- ・精神保健学Ⅰ
- ・精神科リハビリテーション学
- ・こころとからだのしくみⅠ
- ・障害の理解Ⅰ
- ・精神保健学Ⅱ
- ・発達と老化の理解Ⅱ
- ・こころとからだのしくみⅡ
- ・介護の基本Ⅱ

（大学院）

- ・福祉リハビリテーション論
- ・社会福祉学課題研究演習

○委員会活動

（全学）

- ・教務委員会

（学部）

- ・教務委員会
- ・自己点検評価委員会
- ・人事関係検討会

（大学院）

- ・監査委員会

○社会的活動

（学外非常勤講師）

- ・吉備国際大学（「運動発達学」「理学療法技術実習」担当）
- ・吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程（通信制）（「臨床保健学特論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

今年度は新型コロナウイルスの影響で、対面授業と遠隔授業の併用であったが、可能な限り対面で授業を実施した。介護福祉士指定科目である、「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ」「発達と老化の理解Ⅱ」については、毎回、あるいは単元毎に知識確認テストを行いながら進めた。また精神保健福祉士指定科目の「精神保健学Ⅰ・Ⅱ」「精神科リハビリテーション学」については、テーマ別にタイムリーな資料や深い思考を求める資料を提供し

教育研究活動報告書（横井 輝夫）

て進めた。

大学院では、主指導を務めた院生の論文が英文誌に掲載され、さらに投稿中の1論文が修正段階である。

（2）研究活動について

上記2論文が英文誌に掲載され、現在2論文を英文誌に投稿中である。

（3）学内業務について

学部教務委員会の委員長を務めた。昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症への対応で多忙な1年であった。2022年度も感染予防と迅速な対応に務めたい。

（4）社会貢献について

特に、研究での新たな知見を発表することを通して社会に貢献していきたい。

大松 重宏

Shigehiro OHMATSU

○研究活動

1. 論文
なし
2. 著書
なし
3. 学会発表
なし
4. 競争資金の獲得
なし

○教育活動

- ・相談援助演習Ⅲ
- ・相談援助実習指導Ⅰ
- ・相談援助実習指導Ⅲ
- ・保健医療サービス
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・社会福祉専門演習Ⅳ
- ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・生活と社会福祉
- ・社会福祉専門演習Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅲ
- ・医療福祉論

○委員会活動

- ・学生委員会
- ・高知医療センター・高知県立大学連携事業委員
- ・糖尿病保健指導連携体制構築事業委員
- ・入退院支援事業委員
- ・多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座実施委員会委員

○社会的活動

1. 委員等
 - ・特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ顧問
 - ・高知県医療ソーシャルワーカー協会理事
2. 学外講師等
 - ・令和3年高知県立大学入退院支援事業研修講師「多職種協働研修」第3, 4回（2021年11月10日）, 第5回（2021年12月13日）, 「コーディネート能力修得研修」第2回（2021年10月8日）
 - ・平成3年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座前期（2021年7月8日）, 後期（2021年12月22日）
 - ・平成3年度高知県糖尿病保健指導連携体制構築事業「血管病調整看護師」育成研修（2021年8月27日）
 - ・平成3年度高知県医療ソーシャルワーカー協会「基礎研修：保健医療福祉をめぐる動向・諸制度の変遷」（2021年11月13日）

教育研究活動報告書（大松 重宏）

- ・平成3年度高知県医療ソーシャルワーカー協会1月例会研修講師「MSWのためのスーパービジョン」（2022年1月22日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義・演習では、実践現場の事例を用いた解説とライブ感のある面接場面を教員が模擬的に演じて現実感を持った内容にし、学生により実務的なレベルが伝わるように工夫した。しかし、オンデマンドの授業では困難な面も多々あった。授業では終了時に Moodle 上でリアクションペーパーの記載を義務付け、学生自らが1時間の授業内容を振り返る作業を行う中で生じた疑問や質問を言語化するよう促した。授業内ですべての質問に回答し、双方向の授業となるよう努めた。今後は、翌週の授業までの復習や予習内容を毎回具体的に提示していき自宅での学習の機会を増やし、また、より理解しやすい授業内容にするため学生とのコミュニケーションをさらに工夫していきたい。

「保健医療サービス」では、社会福祉士国家試験の過去問題を取り入れ、国家試験対策に対して学生が事前に取り組みをする動機付けを持てるよう努めた。

昨年度より、22期生の学年担当を教員二人体制で行った。一人ひとりが興味や関心から発展させて実習先を選択すること、さらに社会福祉専門職としての進路を具体的に描くことの助けになるよう、高知県内の病院やその他各社会福祉分野のソーシャルワーカーに講演を依頼し現場の状況について紹介してもらった。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、実習が中断を余儀なくされた。直ぐに学内実習に切り替えることとしたが、医療機関を含む各々の施設での実習と同様の学習効果をもたらすことは出来なかったと反省している。その学内実習においてもなるべく実習に近い形にするためにロールプレイや実際のカンファレンスを想定してのグループワークなども導入したが、来年度も学内実習を実施する可能性が高いので、更なる工夫をして学生にライブ感をもって学習できるコンテンツにしたいと考える。

2. 研究活動について

石綿関連疾患患者へのソーシャルワーク支援について今後も研究を継続する予定であり、今後は研究発表から論文執筆へ繋げたいと考えている。また、がん患者のピアサポートについても同様に継続課題としたい。

3. 社会活動について

高知県医療ソーシャルワーカー協会に協力を依頼して、「現任者のためのスーパービジョン」の研修を企画運営することと併行し、より役立つ学習コンテンツを開発し実務者の卒後教育に貢献したい。また、ライフワークである「がん患者とピアサポート」については、高知県内および他府県で活動するがん患者会の定例会や研修会により多く参加し、セルフヘルプグループの運営を支援したいと考える。

○研究活動

（１）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤研究（C）, 課題番号 18K02112, 2018 年度－2021 年度）

研究代表者：遠山真世

研究課題名：重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築

○教育活動

（１）担当科目

- ・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・相談援助実習
- ・福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・障害者福祉論
- ・社会調査の基礎
- ・社会福祉入門演習
- ・社会福祉基礎演習

（２）学生支援

- ・卓球サークル顧問

○委員会活動

（１）全学

- ・入試実施委員会
- ・大学入学共通テスト実施委員会
- ・地域教育研究センター運営委員会

（２）学部

- ・学生委員会
- ・入試広報部会
- ・実習委員会

○社会的活動

- ・高知県要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当
- ・安芸高校模擬授業講師
- ・松山北高校模擬授業講師
- ・高知県障害者介護給付費等不服審査会委員
- ・土佐あけぼの会評議員及び第三者委員

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

本年度は障害者就労継続支援 B 型事業所の平均工賃が高い都道府県と低い都道府県の違いや背景を分析するため、各都道府県から公表されている各事業所の平均工賃や作業内容等のデータを収集した。次年度は、障害者優先調達法の調達実績にかんする各都道府県のデータを収集・分析するとともに、その結果をまとめ論文を執筆したいと考えている。また、これまでの研究成果をもとに B 型事業所を対象としたアンケート調査の企画も進めていきたい。新型コロナウイルス感染拡大の前と後とでは、B 型事業所の状況が大きく変化したと思われるため、その影響を調査・分析にどのように組み込むかが課題である。

（2）教育活動について

昨年度に続き本年度も、対面授業と遠隔授業の切り替えがたびたび求められた。そうした状況下で、Moodle を通して学生の受講状況をその都度確認しつつ、学生が受講しやすい授業方法を模索した。昨年度と比べて、学内のネットワーク環境や学生の学習環境が整ったため、zoom を活用したオンタイムや録画での授業を行うことができた。

講義科目においては、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。復習問題や課題、小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。3 回生のゼミでは、後期に重症児を対象としたサービス事業所と障害者就労継続支援 B 型事業所を訪問することができた。4 回生のゼミでは、個別指導が中心となったが、個々の学生の関心に沿ってスムーズに研究が進められるよう、情報収集や分析方法、論文としてのまとめ方などについて助言を行った。今後も遠隔と対面を組み合わせた授業展開が求められるため、どちらの形態においても多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

また本年度は 1 回生の学年担当を務めた。高校生活から大きく環境が変わるため、大学での授業履修や遠隔授業について丁寧に説明し、大学生活に慣れ学習に励むことができるよう工夫した。「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」では、学生同士の意見交換や学生主体の研究発表を通して、学生間および教員との関係づくりも行うことができた。

（3）委員会活動・社会活動等について

委員会活動では、入試広報部会の主担当となって活動した。昨年度に続き本年度も、校生・高校教員・保護者等を対象とし 11 月～3 月にかけて zoom によるオンライン個別相談会を計 9 回実施し、受験生や高校の先生方と直接対話できる貴重な機会となった。次年度もオンラインによる活動を継続しつつ、対面での入試広報活動をどのように再開するかについても検討したい。

社会活動では、オンラインまたは対面による専門職の養成講座や高校での模擬授業を行うことができた。今後もさまざまな形で、地域住民や専門職の方々、高校生などに学んでいただけるよう貢献していきたいと考える。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（1）研究会参加

1）エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

（2）論文等

論文

1）加藤由衣・山口真里・西梅幸治（2022）「ソーシャルワーク実習教育における学生のコンピテンス涵養の意義と課題—実習を経験した学生へのグループインタビューの分析から—」『中国・四国社会福祉研究』9，日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック，17-30.

報告

1）西梅幸治・加藤由衣・雑賀正彦・福田敏秀・田中きよむ（2022）「学部卒業生にみるソーシャルワーカーとしてのコンピテンシーに関する分析—社会福祉系大学でのキャリア形成に向けた卒後支援との関連から—」『高知県立大学紀要』71，35-50.

○教育活動

（1）担当科目

（学部）

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
「相談援助の理論と方法Ⅱ」 「相談援助の理論と方法Ⅳ」 「社会福祉専門演習Ⅰ」
「社会福祉専門演習Ⅱ」 「社会福祉専門演習Ⅲ」 「社会福祉専門演習Ⅳ」
「相談援助実習」 「相談援助演習Ⅰ」 「相談援助演習Ⅱ」
「相談援助演習Ⅳ」 「相談援助実習指導Ⅰ」 「相談援助実習指導Ⅱ」
「相談援助実習指導Ⅲ」 「スーパービジョン」

（大学院）

「研究方法論Ⅱ」 「ソーシャルワーク論」

（2）クラブ活動

・グローバルクラブ顧問 ・手話サークル顧問

○委員会活動

全学

・入試実施委員会（大学院） ・キャリア支援委員会（副委員長）

学部

・実習委員会（社士主担当） ・総務予算委員会 ・国試対策支援委員会（長）
・学部長選挙管理委員 ・教務委員会 ・学部キャリア支援委員（長）

○社会的活動

- ・エコシステム研究会 副代表
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 相談援助演習講師
- ・高知リハビリテーション専門職大学 非常勤講師
- ・日本学校ソーシャルワーク学会 中国四国ブロック運営委員
- ・高知県子ども・福祉政策部 講師「児童福祉司任用前講習会 ソーシャルワークの基本」
(2021年6月18日)
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」(2021年9月4日)
- ・高知県隣保館職員等研修事業 講師「新任職員研修Ⅱ」(2021年10月7日)
- ・高知県社会福祉士会 講師「基礎研修Ⅱ スーパーバイザー体験」(2021年10月16日)
- ・高知県地域福祉部地域福祉政策課 講師「高知県中堅民生委員児童委員研修会」(2021年10月18日、10月22日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「先輩職員研修」(2021年10月29日)
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」(2021年12月12日)
- ・介護支援専門員実務研修 講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」(2021年12月18日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「相談援助応用研修」(2022年2月18日)
- ・高知県社会福祉士会 講師「実習指導者講習会 実習指導概論」(2022年2月19日)
- ・室戸市教育委員会 講師「室戸市保育所(園)職員研修会」(2022年3月24日)
- ・学部リカレント研究会事業「障害福祉にかかわる実践報告」(2022年1月14日)
- ・学部リカレント研究会事業「学内地域福祉研究セミナー」(2022年2月17日)
- ・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」(9月・3月：計2回)
- ・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」(11月・12月：計2回)

○総合評価及び今後の課題

(1) 研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが、継続的に研究を行ってきた。今年度も、科研費による調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症流行のため、見送らざるを得なかった。定期的な研究会では、昨年度から引き続きオンラインで実施しながらeスキナーの新たな開発に向けて協議することができた。また共同研究で進めている実習教育やキャリア支援に関する研究についても成果を公表することができた。自身の主たる研究テーマについては課題が残ったと感じており、研究成果をコンスタントに公表していきたい。

(2) 教育活動について

今年度も、感染症流行に伴い、すべての科目で大きな変更を迫られた。今年度は、ZoomやUOKLMS(moodle)の活用にも慣れ、学内のネット環境も整ってきたことから、昨年度以上の内容を提供することができた。講義系科目では、通常の講義資料に加え、解説編を作成し、学生の理解促進に努めた。毎回の講義の感想などを提出してもらおうフィードバック

を作成し、授業展開の修正ならびに学生回答の提供、追加資料の配付なども行った。引き続きオンライン授業の可能性も見込まれるが、新カリを見据えながら理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。

実習科目では、事前指導として実習中の感染症対策や配慮について丁寧に指導した。特に今年度は、全学的な実習中断に伴い、12日間の学内実習を行うことになった。学生が学内にも立ち入りできなかったことから、オンラインによる実施になったが、先生方はもちろん学生たちの多大な協力により、円滑に進めることができた。ふり返りの授業である演習Ⅳでは、現場での体験は少なかったものの、グループ・スーパービジョンに取り組み、その過程で自省を深め、社会性や専門職としての姿勢が身につけてきた成長プロセスを感じることができた。

また今年度は、5名の学生の卒論指導を行った。学生個々に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。

（3）委員会活動・社会的活動について

相談援助実習（社会福祉士）主担当としては、関連授業の効果・効率的、および統合的な授業運営と同時に、感染症対策を徹底するように努めた。また先生方の協力のもと、学内実習のプログラムを作成した。キャリア支援委員長としては、キャリア支援特別講座を開催し、卒業生・在学生・教員をつなぐ機会や共同研究への契機となるような機会をつくることができた。また学部の外部評価の一環として、昨年度に実施した卒業生とその職場の方へのアンケートを分析し、その成果を公表することができた。

国試対策支援委員長としては、対策プログラムの効果・効率的運営と、4回生自身が企画する国試対策講座や国試対策勉強会のサポートに少なからず貢献できたと感じている。今年度は、コロナ関連や合格基準の高さにより十分な結果につながらなかったが、今後も対策の成果を合否の結果に結びつけていくことに努めていきたい。社会的活動についても、コロナ禍で開催ができなかったものもあったが、今年度も継続して高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修などにも尽力できたと感じている。高知県社会福祉士会との共催による実習指導者講習会についても、講師を務めることができた。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、全国的な視野を持ちながら貢献していきたい。

福間 隆康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

1 論文

- ・福間隆康「特例子会社における精神障がい者の職場定着に対する支援—ソーシャル・サポートと自己効力感に着目して」『中国・四国社会福祉研究』第9号, pp. 31-43, 2022年3月。
- ・福間隆康「精神障がい者の組織適応に対する支援—組織社会化戦術の観点から」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第71巻, pp. 19-34, 2022年3月。

2 学会発表

- ・福間隆康「早期離職と継続就業を分ける要因—民間企業の精神障がい者を対象とした定量的分析」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第52回岡山大会, 2021年7月。
- ・福間隆康「組織社会化戦術が組織適応に与える影響—民間企業の精神障がい者を対象とした定量的分析」第29回職業リハビリテーション研究・実践発表会, 2021年11月。

3 外部資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（若手研究）「障がいのある従業員の組織適応プロセスに関する研究」（2018年度～2021年度）

○教育活動

1 学部

- ・福祉対象入門
- ・福祉援助入門
- ・地域福祉論Ⅰ
- ・福祉サービスの組織と経営
- ・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・相談援助実習

2 研究科

- ・研究方法論Ⅱ
- ・地域福祉論Ⅱ
- ・副研究指導

○委員会活動

1 全学

- ・入試実施委員会委員

2 研究科

- ・学生委員会委員
- ・情報処理施設委員会委員

○社会的活動

1 委員等

- ・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク 地域連携事業部委員
- ・一般社団法人四国ソーシャルインクルージョンセンター 協力委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国ネットワーク連絡会委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国市あったかになん運営委員会委員

○総合評価及び今後の課題

1 研究活動

科学研究費助成事業（若手研究）の研究成果の一部を学会報告するとともに、学術雑誌および研究紀要に掲載することができた。次年度は、科学研究費助成事業（基盤研究（C））の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の一部を学会で報告するとともに、学術雑誌に投稿する予定である。

2 教育活動

授業では、アクティブ・ラーニングや協働学習に重点を置き、学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。学生には講義を聴くだけでなく、より発展した疑問を考えさせたり、自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。

WEB会議ツール ZOOM を活用し、学生が同じ内容の授業を、オンラインでも対面でも受講できるハイフレックス (HyFlex: Hybrid-Flexible) 型の授業を実施した。これにより、学生は置かれた状況に応じて、オンライン授業を受けるか対面授業を受けるか選択できるようになった。また、対面授業の実施が不可能になった場合にも、フルオンライン授業への移行が容易であった。しかし、教室環境の設定が大変であった。また、教室と対面の両方の学生に注意しながら授業を行う必要があるため、負荷が大きかった。

次年度は、社会福祉士養成課程の新カリキュラムに対応した教育内容に変更するとともに、学生による授業評価に基づき授業を改善し、魅力ある授業を実施していきたい。

3 委員会・社会的活動

入試実施委員会委員（学部長）として、入試業務を円滑に実施することができた。

南国ネットワーク連絡会において、関係機関・団体とつながりをつくることができた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 論文

- ・辻真美・三好弥生・岡京子（2022）「ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究－研究の背景と今後の研究方針－」『地域ケアリング』23（7）, 57-59.
- ・Ketu Ri, Teruo Yokoi, Yayoi Miyoshi, Hiroyuki Watanabe, Toshihide Fukuda（2021）Caregivers' roles in preventing patients with severe Alzheimer's disease from becoming distracted during mealtimes: two case reports The Journal of Physical Science 33, 711-716.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子（2022）「訪問系のケアサービス従事者から受けるハラスメント発生要因に関する文献研究－ホームヘルパーと訪問看護師の比較から－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』71, 51-66.
- ・片岡妙子・田中眞希・宮上多加子・三好弥生（2022）「介護老人福祉施設の介護職員における『演じる行為』の特徴－障害者入所施設との比較－」高知県立大学紀要社会福祉学部編』71, 67-78.

2. 学会発表

- ・辻真美・三好弥生・岡京子「ホームヘルプ労働におけるハラスメント発生要因に関する一考察」第26回日本在宅ケア学会 Web 発表, 2021年6月.

3. 競争的資金の獲得

- ・令和2年度～令和4年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（若手研究）「終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難に対する食事ケアモデルの有用性に関する研究」（研究代表者）

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・介護過程Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅴ
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・社会福祉専門演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅱ
- ・医療的ケアⅡ
- ・介護過程Ⅳ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・社会福祉専門演習Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅲ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅲ

2. 大学院担当科目

- ・介護福祉論Ⅱ

○委員会活動

1. 学 部

- ・ 広報委員、FD委員、教務委員、実習委員、入試広報部会、介護人材確保事業部会

2. 大学院

- ・ 学務委員

○社会的活動

◆研修会講師・講演等

- ・ 高知工科大学講師「介護等体験事前指導」オンデマンド授業（3月）
- ・ いのちの電話相談員養成講座講師「コミュニケーション技術－『聞く力』を伸ばす－」高知市保健福祉センター（4月）
- ・ 高知大学非常勤講師「介護等体験事前指導」オンデマンド授業（4月）
- ・ 2021年度大1期放送大学面接授業講師「高齢者の終末期ケア」放送大学高知学習センター（5月）
- ・ 高校生のための訪問講座 土佐塾高校 zoom 開催（9月）
- ・ 高校生のための訪問講座 土佐女子高校（10月）
- ・ 特別養護老人ホーム土佐清風園 ケアサポート研修講師「終末期に至る高齢者の『食事ケアモデル』について」南国市（9月）
- ・ 本山町・高知県立大学公開講座：夜学「コミュニケーション技術『聞く力』を伸ばす」本山町（10月）
- ・ 介護労働安定センター研修講師「介護現場での看取りケア」zoom 開催（1月）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

2020年度と同様今年度も講義や実習などすべての教育活動において、新型コロナウイルス感染防止対策に努めながら進めることとなった。学内の講義や演習については、これまでの経験を活かして、落ち着いて、弾力的に対応することができたように思う。

2. 研究活動について

令和2年度より新たに科研費助成を受けた研究について、新型コロナウイルス感染の影響で昨年度は全く高齢者介護施設における調査を実施することができなかった。今年度は、感染拡大の合間に当初の方法を一部変更して調査を進めることができたのだが、実証の期間が短く十分なデータを収集することが出来なかった。高齢者施設におけるクラスターが問題になっており、次年度も十分な調査ができるかどうか予測がつかないが、直ぐに取り掛かれるよう準備はしておきたいと考えている。

加 藤 由 衣

Yui KATO

○研究活動

（1）論文・著書等

- ・加藤由衣・西梅幸治・山口真里「ソーシャルワーク実習教育における学生のコンピテンシ涵養の意義と課題—実習を経験した学生へのグループインタビューの分析から—」『中国・四国社会福祉研究』第9号，日本社会福祉学会中国四国部会，17-30，2022年3月．
- ・加藤由衣「新たな社会福祉士養成カリキュラムに関する一考察—国際的動向をふまえたクリティカルな視点からの課題—」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第71号，79-93，2022年3月．
- ・西梅幸治・加藤由衣・雑賀正彦・福田敏秀・田中きよむ「学部卒業生にみるソーシャルワーカーとしてのコンピテンシーに関する分析—社会福祉系大学でのキャリア形成に向けた卒後支援との関連から—」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第71号，35-50，2022年3月．

（2）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（3）競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（若手研究）「省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発」（平成30年度～令和2年度），研究代表者

（4）その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2021）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2022』中央法規

○教育活動

（1）担当科目

- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅰ」 ・「相談援助の理論と方法Ⅲ」
- ・「児童・家庭福祉論」 ・「子育て支援論」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」 ・「相談援助実習指導Ⅱ」 ・「相談援助実習指導Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅰ」 ・「相談援助演習Ⅳ」 ・「相談援助実習」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ」 ・「社会福祉専門演習Ⅱ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅲ」 ・「社会福祉専門演習Ⅳ」

（2）クラブ活動

- ・バスケットボール部顧問 ・ハモ☆いけ顧問 ・こどもみらい塾顧問

○委員会活動

（1）全学委員

- ・入試実施委員会 ・健康管理センター運営委員会

（２）学部委員

- ・学部キャリア支援委員会
- ・学部入試実施委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・福祉実習支援室長

○社会的活動

（１）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・高知県社会福祉士会理事
- ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
- ・高知県福祉研修センター事業 講師「相談援助技術基礎研修」（2021/6/1、10/28）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉従事者としての専門性」（2021/12/19）
- ・令和３年度県民大学公開講座 講師「地域で子どもを守っていくために～子どもの困難さと子どもを守る地域の資源～」（オンライン配信）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

科研費（若手研究）の研究については、調査研究が計画的に進められず、理論研究が中心となった。具体的には省察的実践を支援するツール開発にむけて、ツールのアセスメント指標の構成に基づき、具体的な質問項目の検討を行った。またエコシステム研究会では、引き続き実践支援ツールのバージョンアップにむけて検討を進めた。次年度は、エコシステム研究会の実践支援ツールに省察的実践のアセスメント内容を適用し、省察的実践を促進するツールを開発できるよう、計画的に研究を進めていきたい。

（２）教育活動について

昨年度に引き続き、講義科目においては遠隔授業による教育が中心の一年であった。そのため、できる限り学生同士の意見交換の機会を設けられるよう、学生への事前アナウンスや早めのアップ作業などにより、グループ学習を促す工夫をした。次年度も遠隔授業が続くことが想定されるため、遠隔授業においても学生同士や学生と教員の相互作用を活性化できるよう、講義のなかでの演習内容・方法を改善し、学生がソーシャルワークや子ども家庭福祉への理解を深められるよう取り組んでいきたい。

実習教育においては、感染拡大が実習時期と重なり学内実習に切り替えざるを得ない状況となった。そのため学内実習では、他分野の学生との意見交換など学内実習のメリットを活かした内容を意識した。また配属日数が短くなるなかで、学生が目的をもって実習に臨めるように、学生・実習指導者とともに配属実習の目標・計画の修正を行うなど、学生へのきめ細やかな支援に力を注いだ。そして事後指導では、例年より少ない体験のなかで学びが深められるよう、実習後のグループスーパービジョンを重視した。ここでは、学生が各自の体験を共有しながら、子どもを支援する専門職の役割や子ども家庭分野のソーシャルワークについて深められていたように感じる。本年度の成果と課題をふまえて、今後も配属実習をとおして学生がソーシャルワークを体験的に学ぶことができるよう、実習指導者とも密に連携し教育内容の改善に取り組んでいきたい。

河内 康文

Yasufumi KOCHI

○研究活動

1. 論文

宮上 多加子・辻 真美・河内康文・荒川泰士「訪問介護事業所における人材育成の現状と課題－職場学習論に基づく分析－」．『高知県立大学紀要』71, pp.1-18. 2022年3月．

2. 著書

河内康文「社会福祉の理念」西村昇・日開野 博・山下正國 編著『社会福祉概論－その基礎学習のために』．中央法規, pp.15-19. 2022年1月．

3. 学会発表

河内康文「新型コロナ禍における介護従事者の職場内研修と成長実感」（発表）．日本社会福祉学会中国・四国部会, 第52回大会, 福祉人材確保特別分科会報告. 2021年7月10日．

4. シンポジスト

河内康文「中国四国地域の高齢者介護施設における福祉人材定着のための多面的な運営管理の研究」（於：Zoom）．第18回日本社会福祉学会フォーラム. 2022年2月12日．

5. 競争的資金の獲得

- (1) 科学研究費補助金若手研究 [2019年度～2021年度]「介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－」(代表者:河内康文)
- (2) 科学研究費基盤研究 [2017年度～2021年度]「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」(代表者:宮上多加子)(研究分担者)

○教育活動

1. 介護の基本Ⅰ
2. 介護の基本Ⅲ
3. コミュニケーション技術
4. 介護総合演習Ⅰ
5. 介護総合演習Ⅱ
6. 介護総合演習Ⅲ
7. 介護総合演習Ⅳ
8. 介護実習Ⅰ
9. 介護実習Ⅱ
10. 介護実習Ⅲ
11. 障害の理解Ⅱ
12. 社会福祉専門演習Ⅰ
13. 社会福祉専門演習Ⅱ
14. 社会福祉専門演習Ⅲ
15. 社会福祉専門演習Ⅳ

○委員会活動

1. 介護人材確保事業部会委員長
2. 就職委員会委員長
3. 介護福祉コース主担当
4. 健康長寿センター(全学)
5. 学生委員(4回生学年担当)
6. 社会福祉研究倫理審査委員会

○社会的活動

1. 委員等

- (1) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員
- (2) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
- (3) 高知市障害者計画等推進協議会 副会長
- (4) 高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会副委員長
- (5) 高知県自立支援協議会委員
- (6) 高知県障害者施策推進協議会委員
- (7) 高知県自立支援協議会専門部会長

2. 講演等

- (1) 高知県キャリア教育推進事業高校生講座 中村高等学校：9月27日，安芸高等学校：9月29日。
- (2) 高知県社会福祉協議会 新人職員研修 講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」 2021年12月3日（四万十市），12月10日（安芸市），1月11日（高知市）。

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

担当科目は、学生の関心や年次，新型コロナウイルスの感染状況に応じて，遠隔リアルタイム双方向型，録画配信型，対面授業を実施した。1回生は対面を中心とし，学年があがるにつれて学習ニーズに応じた多様な授業形態を採用した。教育効果を検証しつつ，多様な時代だからこそ可能な教育活動を模索していきたい。

ところで，教育活動において経験をとおした学びが困難な情勢が気になっていた。そこでゼミ活動では，新型コロナ禍の感染状況が落ち着いている合間を縫って，私がかつて勤務していた障害者支援施設に赴き経験学習を行った。実際の経験は，教員としても印象に強く残る。感染対策が大前提に，キャンパス外の教育活動も視野には入れたい。

2. 研究活動について

代表者として科学研究費で取り組んでいる研究の量的調査を分析し，論文としてまとめ投稿した。次年度は，質的な調査を実施し，結果を統合していく予定である。

3. 社会活動について

科学研究費で取り組んでいる研究成果を反映する場として，高知県社会福祉協議会が主催する「新人職員研修」で講師をする機会が得られたり，研修を運営する委員会にも参加できたりした。また，高知市・高知県の障害者計画等に参画し，現場レベル・市レベル・県レベルの取り組みが理解できた。社会活動を教育に還元していくとともに，高知県の福祉・介護の課題に対して，少しでも貢献ができるように研鑽をしていく。

○研究活動

1. 論文

- ・宮上多加子・辻真美・河内康文・荒川泰士「訪問介護事業所における人材育成の現状と課題－職場学習論に基づく分析」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』71, pp1-18. 2022年3月.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子「訪問系のケアサービス従事者が利用者から受けるハラスメント発生要因に関する文献研究－ホームヘルパーと訪問看護師との比較から－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』71, pp51-66. 2022年3月.

2. 著書

- ・辻真美：第5版「第1章 第1節 介護におけるコミュニケーション」小池将文・内田富美江・森繁樹監修『介護職員初任者研修課程テキスト2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解』日本医療企画, pp. 3-54. 2021年9月.
- ・辻真美：第(5)版「第3章 第1節 チームマネジメント」小池将文・内田富美江・森繁樹監修『実務者研修テキスト 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション』日本医療企画, pp. 189-198. 2022年2月.

3. 学会発表

- ・辻真美・三好弥生・岡京子「ホームヘルプ労働におけるハラスメント発生要因に関する一考察」第26回日本在宅ケア学会学術集会. 抄録集 p 88. 2021年8月29日.

4. 競争的資金の獲得

- ・令和2年度～4年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（若手研究）「ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究」（代表者）

5. その他

- ・辻真美・三好弥生・岡京子「ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究－研究の背景と今後の研究方針－」『地域ケアリング』p p 57-59. 2021年7月臨時増刊号.

○教育活動

- ・社会福祉入門演習・社会福祉基礎演習・介護の基本Ⅱ・認知症の理解Ⅰ及びⅡ・コミュニケーション技術・社会福祉専門演習Ⅰ及びⅡ・社会福祉専門演習Ⅲ及びⅣ・介護総合演習Ⅰ～Ⅳ・介護実習Ⅰ～Ⅲ・介護論（健康栄養学部）・高齢者福祉論

○委員会活動

1. 学部

- ・災害対策委員・健康長寿センター運営委員・国際委員・総務予算委員会・学生委員会（23期生学年担当）

○社会的活動

1. 委員等

教育研究活動報告書（辻 真美）

- ・富士屋ヘルパーステーションベターライフ登録ヘルパー・日本介護福祉学会評議員・介護労働安定センター高知，徳島支部（ヘルスカウンセラー，雇用管理改善サポーター，介護人材育成コンサルタント）・高知県ホームヘルパー連絡協議会理事・高知市斎場運営協議会委員

2. 学外講師等

- ・高知県ホームヘルパー連絡協議会全体研修会ファシリテーター「コロナ禍、訪問介護のこれからを考えよう」（2021年5月22日）
- ・永国寺キャンパス「介護等体験事前指導」（2021年5月24日）
- ・第2回社会福祉学部FD委員会研修「研究報告」（2021年6月28日）
- ・高知県福祉研修センターケアテーマ別基本研修「レクリエーション」（2021年7月1日，8月4日，10月1日 オンライン併用）
- ・高知県福祉・介護職員若手職員研修及び介護交流会「コミュニケーションについて考える」（2021年9月18日，12月22日 オンライン併用）
- ・高知県ホームヘルパー連絡協議会「e-ラーニング研修」（2021年10月15日公開）
- ・介護労働講習（実務者研修含）「サービス提供責任者とは」（2021年11月8日）
- ・高知県介護支援専門員連絡協議会中央東ブロック第2回研修会「ハラスメントについて（事例検討含）」（2021年11月16日）
- ・労働局委託事業雇用管理改善サポーター個別相談及び研修（計4回）
- ・ケアサポート講習及びメンタルヘルス個別相談・研修，人材育成コンサルタント業務（計10回）
- ・第一弾おうちで健康長寿体験型セミナー「転倒予防体操」（YouTube 動画2本公開）
- ・富士屋ヘルパーステーションヘルパー定例会（2021年4～6，12，2022年3月）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

昨年度に引き続き、感染予防対策に努めながら教育方法を模索し続けた1年であった。学部の先生方からの前向きなご助言に発想を得て、担当する科目を遂行できたと痛感している。次年度に向けても、3回生学年担当としての責務を果たせるよう、細部についても行貞先生と相談しながら進めていきたい。学生のニーズを聴きながら、出来ることを検討すること、また、学生との間に生まれる関係性を大切にしていきたい。

2. 研究活動について

科研2年目の研究計画が思うように進まず不安や苦悩があった。しかし、先生方の励ましや貴重なご助言を得ながら先行研究を整理するなかで論文を公表することができた。また、一部ではあるがホームヘルパーや訪問看護師への聞き取り調査を行うことができた。得られた研究成果は、現場の実践者にフィードバックできるよう、丁寧に分析を続けていくことを常に忘れず研究を進めていきたい。

3. 社会活動について

オンライン併用の研修では、それぞれの受講者に対する配慮が求められ、全方位に伝えることの難しさや事前に行われる主催者側との相談・打合せがいかに重要であることを再認識した。現場のニーズに沿った内容を目指していくことは、ひいては利用者や家族介護者の生活の豊かさ・安心に繋がる。エッセンシャルワーカーとして尊敬する現場の方々に向けて、少しでも貢献できる社会活動を目指していきたいと考えている。

○研究活動

1. 論文
なし
2. 著書
なし
3. 学会発表
なし
4. 競争的資金の獲得
なし

○教育活動

【担当科目】

- ・社会福祉史
- ・公的扶助論
- ・相談援助演習Ⅱ・Ⅳ
- ・相談援助実習
- ・権利擁護論
- ・社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

○委員会活動

1. 全学
共通教育専門委員会
入試監査委員会
2. 学部
・教務委員会
・学生委員会
・研究倫理審査委員会
・情報処理施設委員会

○社会的活動

[学外非常勤講師、研修会講師等]

- ・高知学園短期大学看護学科（「看護と福祉」、全8回）
- ・高知県社会福祉協議会 生活困窮者自立支援制度人材養成研修「生活困窮者支援に求められる基本姿勢と支援につながりにくい相談者へのアプローチのポイントについて」
- ・高知県社会福祉協議会 生活困窮者自立支援制度人材養成研修 都道府県研修（後期研修）「生活困窮者自立支援制度の理念について～県内の動向や課題を交えて～」
- ・高知市社会福祉協議会 市民後見人養成講座「市民後見概論」
- ・高知県立大学FD研修「遠隔授業の実践例紹介」

[委員等]

- ・高知県共同募金会 配分委員
- ・高知県共同募金会 評議員
- ・高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会 委員

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

(1) 授業について

「社会福祉史」「権利擁護論」「公的扶助論」「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」といった講義科目においては、対面授業と遠隔授業の併用形式で行った。遠隔授業では、原則として、MOODLE上に授業のレジュメ、参考資料、講義内容を録音した音声ファイルをアップしておき、学生はレジュメおよび参考資料を確認しながら音声で授業を受講するという方法をとった。一方、「社会福祉史」では、対面、遠隔オンタイム、遠隔オンデマンドのなかから学生が受講方法を自由に選択できるよう授業方法に配慮した。また、これらの講義科目では、授業回ごとにMOODLEのフィードバック機能でリアクションペーパーを提出してもらい、学生個々の理解度を確認するばかりでなく、学生に対してコメントも行うなど双方向性に配慮し、また、授業内容や教授方法の改善にも役立てた。「社会福祉史」および「権利擁護論」は4回生配当科目であることから、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験への対応の観点から、MOODLEの小テスト機能を利用して国家試験の過去問に回答する小テストをほぼすべての授業回ごとに実施し、知識の定着に配慮した。

演習科目については、可能な限り対面での授業を心掛けた。その際には、事例を用いる、グループワークを取り入れるなど、学生の主体的学びを促すよう配慮した。また、学生個々の思いや到達度をつねに把握できるよう心掛けた。

今後の課題として、授業内容や教授方法のブラッシュアップは永遠の課題であるが、とりわけ受講生が多い科目において、学生個々の態度や様子に常に目を配り、機敏に対応できるよう心掛けたい。

(2) 学年担当について

昨年度より、辻真美先生と23期生（2回生）の学年担当を受け持つことになった。

コロナ禍における大学生活が2年目となった2回生であったが、そうした状況、環境のなかでも円滑に大学生活を送ることができるよう最大限のサポートを行い、その思いで1年間継続した。

2. 研究活動について

高知県における医療提供体制確立の経過を史的に分析する研究を進めた。

今後の課題として、研究者ばかりでなく実践者とも共同研究を遂行できるようなネットワークづくりを進め、地域に貢献できる研究を行っていきたい。

3. 社会活動について

社会福祉学部教員として社会に貢献できる活動を行いたい。

稲垣 佳代

Kayo INAGAKI

○研究活動

（1）調査報告

- ・稲垣佳代、井上夏子、木太直人（2021）「地域移行支援における精神保健福祉士・社会福祉士のコンピテンシーに関する研究 ―地域相談支援の実施体制づくり，地域移行を促進するしかけに係るコンピテンシー」『ソーシャルケアサービス研究協議会報告書』.

（2）学内外の競争的資金の獲得状況

- ・高知県立大学戦略的研究プロジェクト推進費による活動「メンタルヘルスの課題を抱える人と支援者のつながりの構築」（研究代表者：藤代知美、研究分担者：塩見理香、高橋真紀子、稲垣佳代）
- ・令和3年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）「地域で暮らす障害者の地域生活支援の実態把握及び効果的な支援方法、その評価方法についての研究」（研究代表者：田村綾子、研究分担者：青石恵子、鈴木孝典、相馬大祐、藤井千代、研究協力者：稲垣佳代 ほか）

（3）発表

- ・公益社団法人日本精神保健福祉士協会 第20回日本精神保健福祉士学会学術集会分科会「ソーシャルワーカーによる就労支援とは？～調査結果をさらなる議論の素材として～」(就労・雇用支援の在り方検討委員会 稲垣佳代 (発表者)、森 克彦、吉岡 夏紀ほか)

○教育活動

（1）講義

- ・精神保健福祉援助技術各論
- ・精神保健福祉援助演習
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・就労支援サービス

（2）講義以外

- ・国家試験受験生への学習支援
- ・太鼓部顧問

○委員会活動

- ・実習委員会
- ・国試対策支援委員会
- ・入試委員会
- ・入試広報部会

○社会的活動

教育研究活動報告書（稲垣 佳代）

- ・日本精神保健福祉士協会「就労・雇用支援の在り方検討委員会」委員
- ・高知県精神医療審査会 委員
- ・高知医療学院 非常勤講師（「社会福祉学」担当）
- ・土佐リハビリテーション学院 非常勤講師（「社会福祉学概論」担当）
- ・特定非営利活動法人 就労サポートセンターかみまち 理事
- ・高知県立大学同窓会しらさぎ会 理事

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

精神・社会福祉コースの教員が1名減のなか、学生への教育の質の保証するため、演習・実習指導の中身（構成）を検討しながら進めた。例えば、精神科医療機関で実践経験のある教員がいないため、精神科病院のソーシャルワーカーを演習・実習指導の講師に招き、学生のロールプレイへのフィードバック等、指導をいただいた。また、ソーシャルワーカーのみならずピアゲストスピーカーにもお越しいただき、実習前の事前学習を進めることができた。さらに、学生の多くが相談援助実習と精神保健福祉援助実習を縦割りの発想、つまり国家資格制度の枠組みで別物として捉えていたことから、ソーシャルワーク専門職としての実践に向けて一つのつながりのなかで捉え、学びを統合・深化させていくよう促した。

（2）研究活動について

学内外において共同研究の機会をいただき、研究代表者、研究分担者、研究協力者として複数の調査・研究に携わることができた。それぞれの立場で携わることにより、研究の進捗管理、共同研究者への配慮、調査協力者との意見交換の機会の持ち方など共同研究に係るさまざまなノウハウを学ぶことができた。

（3）社会活動について

日本精神保健福祉士協会「就労・雇用支援の在り方検討委員会」が2019年度に実施した調査をさらなる議論の素材として現場に還元できるよう、全国大会で発表した。現在は、就労支援に係るハンドブックを作成中である。

また、高知県立大学同窓会しらさぎ会の理事として、コロナ禍における学生への緊急支援金の支給等に携わることができた。

（4）今後の課題

次年度も新型コロナウイルスの感染状況によって講義や実習等に影響が出る可能性があるため、これまでの経験を活かし、さまざまな想定やリスク管理をしながら進めていきたい。体調管理や感染症対策にも気を配り、コロナ禍でもさまざまな工夫をしながら教育・研究活動および社会的活動に取り組んでいく。

大熊 絵理菜

Erina OGUMA

○研究活動

1. 論文・報告書・著書・発表
・なし

○教育活動

- ・相談援助演習Ⅲ
- ・相談援助実習指導Ⅲ
- ・生活と社会福祉
- ・社会福祉入門演習
- ・相談援助実習指導Ⅰ
- ・相談援助実習
- ・チームアプローチ
- ・社会福祉基礎演習
- ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・相談援助演習Ⅳ
- ・医療ソーシャルワーク論

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部総務・予算委員会
- ・学部広報支援委員会
- ・学部情報処理委員会
- ・学部学生委員会（22期生学年担当）
- ・医療センター連携事業

○社会的活動

1. 学外講師等
 - ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「相談援助の理論と方法Ⅱ」担当）
 - ・令和3年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修（Aコース）「ソーシャルワークの価値・視点・専門性」講師〔2021年11月6日（土）Zoomにて実施〕

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度も昨年度に引き続き、コロナ感染拡大の影響を受け、授業や実習に影響があったが、オンライン授業に学生も教員も少し慣れ、対面の授業が困難な時もスムーズにオンラインに切り替えることが出来たと感じている。但し、オンライン授業においての、課題の提出期限が守れない学生もおり、学年担当の先生へ相談しながら個別の対応を行った。

相談援助実習においては、初めて学内実習をオンラインで12日間実施することになった。終日のオンライン実習に、学生からは戸惑いや不安の声が聞かれていたが、オンライ

ン実習が開始されると、学生一人ひとりが直向きに一生懸命頑張っている様子に、教員も励まされた。またオンライン実習で、他分野の学生の意見を聴くことや、グループワークで話し合う経験を通して、実習後の授業において、まず他者の意見を受け入れる姿勢がみられるようになった。

最後に、学生の評価できるところは積極的に学生にフィードバックを行うなど、学生とコミュニケーションをとりながら、人に携わる仕事においての大切なことを一緒に考える姿勢を来年度も大切にしていきたい。

2. 学年担当について

今年度も引き続き 22 期生（3 回生）の学年担当となった。毎年、大松先生と分担して、学生との個別面談を実施する予定であったが、今年度もコロナの影響を受け実施できなかった。成績評価で相談援助実習に行くことが出来ない学生や、履修についての指導が必要な学生は個別に呼び出し指導を行った。また学生の突然の訃報に、学年全体として辛く悲しい状況にあった。命の儚さ、大切さを理解し、その学生の分まで、前を向き日々を大切にしている学生の姿や、支え合う姿に頼もしさを感じた。最終学年目前にして、今後の進路や将来のことなど、様々なことを考える必要が求められ、苦しい状況に陥っている学生もいたが、大松先生をはじめ、学部の先生方に支えられて、私自身も乗り越えることが出来た。

3. 研究活動について

今年度より、医療ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについての勉強会を、現場のソーシャルワーカーと実施している。次年度は、この勉強会を研究活動につなげるようにしていきたいと考えている。

4. 社会活動について

今年度は、高知県医療ソーシャルワーカー協会の月例部会で会の運営を行い、研修会を実施した。研修会の大半が、WEB開催となったが、その中で、現場のソーシャルワーカーと積極的にコミュニケーションをとり、実践についてや就職のことなど、様々な情報共有を行うことが出来たと感じている。次年度も、協会活動を積極的に行い、学生の相談援助実習や就職活動へ繋がるようにしていきたいと考えている。

○研究活動

1. 論文

片岡妙子・田中眞希・三好弥生・宮上多加子「介護老人福祉施設の介護職員における『演じる行為』の特徴－障害者入所施設との比較－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第71巻, pp. 67-78, 2022年3月

2. 学会発表

なし

3. 学内外の競争的資金の獲得状況

日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和4年度～令和6年度）

研究課題名：「重度要介護高齢者の内在的能力に着目した生活継続のための指標に関する研究」研究代表者：片岡妙子

○教育活動

担当科目

- | | |
|----------|----------|
| ・介護総合演習Ⅰ | ・介護の基本Ⅱ |
| ・介護総合演習Ⅱ | ・介護の基本Ⅲ |
| ・介護総合演習Ⅲ | ・介護過程Ⅳ |
| ・介護総合演習Ⅳ | ・生活支援技術Ⅲ |
| ・介護実習Ⅰ | ・医療的ケアⅠ |
| ・介護実習Ⅱ | ・医療的ケアⅡ |
| ・介護実習Ⅲ | ・介護技術 |

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部健康長寿センター委員
- ・学部入試委員会
- ・学部情報処理委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部広報委員会
- ・学部入試広報部会

○社会的活動

1. 委員等

- ・「全国高校生介護福祉研究発表大会四国地区予選」審査員
- ・高知県若い世代の福祉・介護人材確保・育成検討委員会委員

2. 学外講師等

- ・介護労働安定センター「ケアサポート講習」講師（8月10日，11月11日）
- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2月14日）
- ・高校生のためのWebイベント講師（11月7日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

昨年に引き続き，新型コロナウイルス感染症対策のため，zoom 等も活用した教育活動となった。介護実習については，学生の状況を介護コース担当の先生方と共有し，感染症対策に留意しながら，準備指導を進めた。昨年度末にも学内実習に切り替わった経験があり，比較的スムーズに学内実習への移行ができた。

2. 研究活動について

田中眞希先生，三好先生，宮上先生と共同研究を行い，高知県立大学紀要社会福祉学部編に投稿を行った。昨年，田中眞希先生が代表者であった日本学術振興会科学研究費補助事業の研究について，研究分担者として調査を実施した結果をまとめたものである。今回の研究では，自身が中心となって研究を進める形となった。今後も調査を継続し，田中眞希先生との共同研究を進めていきたいと考えている。

また，次年度は日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和4年度～令和6年度）の研究代表者としても研究を計画的に進めていきたい。

3. 委員会活動

主にこれまでの委員を継続して担当した。新たに加わった広報委員では，学部HPへの記事の掲載を担当すべきであったが，感染症対策のため，対面での行事が少なく掲載できないままとなった。今後は，遠隔実施であっても，行事内容を時期に合わせて速やかにUPできるよう取り組んでいく。

情報処理委員会では，委員長のもと学部内（各教室・学生自習室）で使用しているPC等の状況の確認を行い，使用頻度の少ない機器類の管理について課題があることがわかった。今後担当される先生方に引継ぎできるよう，課題について整理しておきたい。

4. 社会活動について

今年度，初めて経験した学外での委員等の活動があった。「全国高校生介護福祉研究発表大会四国地区予選」審査では，高校生を対象とした審査であったが，介護の基本となる部分は同じであり，他の審査員の方々より良い刺激を頂いた。

学外講師では，介護労働安定センターの「ケアサポート講習」でリスクマネジメントについて講義を行った。授業でも取り上げる内容であったが，現場の方を対象に話すには何が適当であったのか，確認を取ることが難しかった。こういった講師を担当する際に，事前に担当者とはよく打ち合わせをしておく必要があると感じた。今後の自身の課題である。

○研究活動

（1）論文・報告書・学会発表

- ・学部卒業生にみるソーシャルワーカーとしてのコンピテンシーに関する分析
-社会福祉系大学でのキャリア形成に向けた卒後支援との関連から-
西梅幸治・加藤由衣・雑賀正彦・福田敏秀・田中きよむ

（2）学内外の競争的資金獲得状況

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「参加型評価アプローチによる小地域を基盤とした「地域福祉形成力」評価モデルの開発」（令和2年～令和5年）
研究分担者（研究代表：佐藤哲郎）

○教育活動

（1）担当科目

- ・「ケアマネジメント論」・「ケアマネジメント演習」・「高齢者福祉論Ⅱ」
- ・「コミュニティソーシャルワーク」・「チームアプローチ」・「地域学実習Ⅰ」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」・「相談援助実習指導Ⅱ」・「相談援助実習指導Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅲ」・「相談援助演習Ⅳ」・「相談援助実習」・「地域福祉論Ⅰ」

（2）クラブ活動

- ・なし

○委員会活動

- ・学部実習委員・国家試験対策委員
- ・学部キャリア支援委員・学部広報委員・学部防災委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・日本地域福祉学会 地方委員
- ・高知県地域福祉活動支援計画推進委員会 副委員長
- ・日本社会福祉士会近畿ブロック研究・研修和歌山大会査読委員長
- ・高知縣市町村社会福祉協議会連絡会 CSW養成研修企画会 委員
- ・土佐清水市社会福祉協議会 権利擁護センター アドバイザー
- ・土佐町社会福祉協議会 地域福祉活動計画評価委員会 オブザーバー
- ・和歌山県社会福祉士会 監事
- ・和歌山県介護支援専門員 指導者
- ・和歌山県介護支援専門員協会法定研修運営委員会 委員

（2）学外講師等

- ・学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 非常勤講師（「現在社会と福祉」）
- ・近畿大学九州短期大学通信教育部保育科 非常勤講師（「相談援助演習」）

教育研究活動報告書（雑賀 正彦）

- ・聖カタリナ大学人間健康福祉学部 非常勤講師（「地域福祉論Ⅰ」）
- ・高知市社会福祉協議会 事例検討会 講師
「地域支援事例の検討」
高知市社会福祉協議会 西会議室，2021年7月28日
- ・高知縣市町村社会福祉協議会職員研修 講師
「コミュニティソーシャルワーカー養成基礎研修」
ふくし交流プラザ2階大会議室，2021年6月12日、8月4日
- ・徳島県介護支援専門員協会 主任介護支援専門員研修 講師
「地域福祉援助技術」
JA会館 別館2階 大ホール等（ZOOM），2021年9月9日・10日
- ・和歌山県介護支援専門員協会 主任介護支援専門員研修 講師
「地域福祉援助技術」
県民交流プラザビッグ愛 801・802（ZOOM），2021年11月24日
- ・高知縣市町村社会福祉協議会職員研修 講師
「コミュニティソーシャルワーカー養成実践研修」
こうち男女共同参画センターソーレ大会議室等，2021年12月21日
- ・高知県法定民児協会長・副会長等研修 講師
「地域共生社会に向けた民生委員・児童委員の役割」
ZOOM録画によるYouTube配信 ，2022年2月16日
- ・高知縣市町村社会福祉協議会職員研修 講師
「コミュニティソーシャルワーカー養成フォローアップ研修」
ふくし交流プラザ2階大会議室，2022年3月4日

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義・演習科目については事例を活用することで具体的に理解が促進できるよう工夫した。また、グループワークやリアクションペーパー、映像教材による「視覚化」を行い、学生自らが主体的に学ぶように環境整備を行った。今後も学生が主体的に学習できるよう教材を工夫し理解を深められるよう努めたい。

2. 研究活動について

今年度もコロナ禍であり、十分なフィールド調査も行えず、研究活動としては不十分であった。そこで次年度以降は、コロナ禍ではあるが状況を見ながら調査分析を行いつつ個人研究並びに共同研究を積極的に行いたい。

3. 委員会活動

委員会活動については、コロナ禍での活動制限はあったものの、防災委員として避難所運営を担当した。訓練の縮小に伴いマニュアル確認が中心だったが、参加教職員の協力によりスムーズに行えた。次に、キャリア支援委員としては学内地域福祉研究セミナーを担当し、卒業生及び在学生との交流の場や卒業生が抱える実践課題について共有することができ、国家試験対策委員としては個別面談を担当した。最後に、広報委員としては、学生活動が制限されているため、学部行事等の撮影及びホームページへの掲載が不十分であった。

4. 社会活動について

高知県社会福祉協議会による市町村社会福祉協議会職員向け研修の講師を担当したことで、市町村社会福祉協議会との関係性がさらに深まった。このことを教育活動及び研究活動につなげ、実践現場が抱える課題解決に結びつけたい。

○研究活動

1. 論文

- ・片岡妙子・田中眞希・三好弥生・宮上多加子(2022)「介護老人福祉施設の介護職員における『演じる行為』の特徴—障害者入所施設との比較—」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』71, 67-78.

2. 著書

なし

3. 学会発表

なし

4. 競争資金の獲得

なし

○教育活動

- ・障害の理解 I
- ・生活支援技術 I
- ・生活支援技術 III
- ・介護総合演習 I
- ・介護総合演習 III
- ・介護実習 I
- ・介護実習 III
- ・介護等体験事前指導（文化学部）
- ・生活支援技術 II
- ・生活支援技術 IV
- ・介護総合演習 II
- ・介護総合演習 IV
- ・介護実習 II

○委員会活動

- ・学部総務予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策委員会
- ・学部介護人材確保事業部会

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニウム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・高知県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員
- ・公益財団法人ひかり協会 高知県地域救済対策委員

2. 学外講師等

- ・令和3年度 介護福祉士実習指導者講習会「実習指導の方法と展開・実習指導における課題への対応」講師（2021年12月2日）
- ・令和3年度介護福祉士実習指導者フォローアップ研修「介護実習の新カリキュラムについて、実習受入れの際の課題について」講師（2022年2月24日）
- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2021年3～4月※Moodle）
- ・学部リカレント研究会事業「介護コース卒業生を対象とした事例検討と情報交換会」（2021年7月25日，2022年3月10日）
- ・高知県キャリア教育推進事業高校生講座 高知商業高等学校：2021年9月17日，高知南高等学校：2021年9月15日
- ・高知県キャリア教育推進事業 高校生のためのWeb EVENT 第4弾「認知症を地域で支える」（2022年3月23日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、介護実習の延期や一部学内実習になるなど、実習先との連絡調整はもちろん、学内実習の内容検討や実施など、昨年に続き大変な1年であった。また昨年度同様、遠隔授業の影響によるものと考えられる、課題提出の遅延や心理状態の変化など学生個々の課題に気づくのが難しい。今後も他の先生方と情報共有しながら、気をつけて取り組みたいと感じている。

介護コース卒業生を対象とした学部リカレント研究会では、Zoomを用いて実施した。県外在住の卒業生や小さい子どもがいる場合も気軽に参加でき、参加者から好評であった。一方で、大学生に比べるとZoomを用いる機会少なく、慣れていないことが分かったため、卒業生個々に詳細を説明するなどの対応を行い、より多くの参加者を得ることができた。

2. 研究活動について

昨年度計画していた高齢者施設の介護職員への調査を継続して実施し、調査結果をまとめ公表することができた。また、障害者施設の介護職員への調査と参与観察や利用者及び他職種への調査を実施した。協力いただいた方々のお陰で、多くのデータを得ることができたため、次年度はこれらの結果を分析し論文にまとめたい。

3. 社会活動について

昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響で、会議や研修の直前まで日程調整や実施方法の検討が必要であるなど、事前の準備や連絡に時間と労力を要した。

昨年度に引き続き、介護人材確保事業部会で実施する講座を担当した。キャリア教育推進事業では、地域包括支援センター及び社会福祉協議会の担当者に協力を依頼し、高校生の疑問により詳細に応えられるよう、事前に打ち合わせを重ね実施内容を検討した。また、新型コロナウイルスの感染状況から高校へ直接訪問することができず、Zoomでの実施となったが、予定より多くの高校生や教員に参加していただき、先生方の多様な意見を聞く機会を得ることができた。

○研究活動

競争的資金の獲得

科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号：19K02191、2019-2022年度）

研究代表者：玉利 麻紀

研究課題名：社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索～無関心という壁を越えるために～

○教育活動

1) 担当科目

- 1) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- 2) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- 3) 精神保健福祉援助演習
- 4) 精神保健福祉援助実習Ⅰ
- 5) 精神保健福祉援助実習Ⅱ
- 6) 心理学理論と心理的支援
- 7) 就労支援サービス
- 8) 国際福祉論
- 9) 対人関係とメンタルヘルス（前期・永国寺キャンパス）
- 10) 対人関係とメンタルヘルス（後期・池キャンパス）

2) 学生支援

- 第21期生 学年担当
- 実習支援：精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に向け、実習の動機と課題、及び、実習計画の作成のための個別指導を行った。
- 国家試験受験生への学習支援を行った。
- 就職活動に困難を覚える学生に個別に就職支援を行った。

○委員会活動等

学部FD委員、学部教務委員、学部実習委員、学部国試対策支援委員、学部学生委員、学部就職委員

○社会的活動

1) 委員等

- 2018（平成31）年度～ 高知県精神保健福祉協会 研修委員
2018（平成31）年度～ 介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー
2021（令和3）年度～ 高知県精神医療審査会 審査委員
2021（令和3）年度～ 高知県精神保健福祉士協会 研修部会委員
2022（令和4）年度～ 社会福祉法人土佐あけぼの会 第三者委員

2) 研修講師、講演等

- 「令和3年度多機能型事業所学習会 テーマ：リビングライブラリーについて学ぼう」講師（2021年6月16日）、主催：公益財団法人北海道精神保健推進協会
- 「令和3年度 多機能型事業所学習会 テーマ：リビングライブラリーについて学ぼう（2）」講師（2021年8月11日）、主催：公益財団法人北海道精神保健推進協会
- 高知県立大学 出前講座「ストレスとつきあうコツ」講師（2021年12月8日、場所：高知県立北高等学校）
- 令和3年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進「共に学び、生きる共生社会コンファレンス まるのつどい」第3分科会「地域のつながりの中で学び続けることとは（テーマ：まぜこぜの場をつくる）」話題提供者（2021年12月22日録画、2022年1月12日～2月12日動画配信）
- 令和3年度高知ダルク当事者スタッフ研修「スティグマ理解の視点で考える支援」（2021年12月25日、場所：高知ダルク 自律訓練（生活訓練）インテグレーション）
- 高知県精神保健福祉士協会定例研修会「普段の支援に活かす合理的配慮」コーディネーター（2021年11月28日、オンライン開催）
- 高知県精神保健福祉士協会定例研修会、高知県立大学社会福祉学部精神・社会福祉コース連携企画「社会的入院を考える」コーディネーター（2022年2月12日、オンライン開催）
- 高知県精神保健福祉士協会定例研修会、高知県立大学社会福祉学部精神・社会福祉コース連携企画「学生と現場の精神保健福祉士との交流企画」コーディネーター（2022年2月23日、オンライン開催）
- メンタルヘルス研修 ヘルスカウンセラー（3回依頼のあった内、2回は新型コロナウイルス感染状況を理由に中止し、計1回実施。2021年10月7日、場所：土佐清風園）主催：公益財団法人介護労働安定センター高知支部

○総合評価及び今後の課題

1) 教育活動について

今年度は新たに国際福祉論を分担することとなり、計10講義を担当した。精神・社会福祉コースの講義や国際福祉論、就労支援サービス等の担当科目において、その分野の当事者や専門家をゲストスピーカーとして招き、多様かつ専門的な学びを学生へ届けることができた。ゲストスピーカーからのリアリティ溢れる話題提供に対し、学生からのコメントは概ね好評であり、実りのあるものであったと感じている。

また、就職活動等で入構禁止期間に当たる学生の学習機会を確保するために、対面授業とリアルタイム配信とのハイブリッド形式での授業にも挑戦した。また、今年度は卒業研究論文の中間および最終発表会をオンラインで初開催したが、学部教務委員として、準備段階から開催方法を検討し、マニュアル化を進めた。2回の発表会を通して、新たな開催方法をほぼ定型化でき、学部学生の発表機会の確保に貢献できたのではないかと考えている。また、ゲストスピーカーの活用と併せ、授業等の開催形式のバリエーションの獲得は、教員としても大きな収穫であったと感じている。

最後に、学部FD委員として、4回の研修会をコーディネートし、運営や実施に携わることができた。

2) 研究活動について

今年度は、リカバリーカレッジを通じた共生社会の実現を研究のテーマに据え、リカバリーカレッジ高知の開校、運営に向けて、学官民の連携体制を整えることができた。また、2022年度からモデル研究が実施できるよう、研究助成への申請も行った（現在、審査結果待ち）。研究実施に向けて、少しでも前に進めるよう、努力したい。

福田 敏秀

Toshihide FUKUDA

○研究活動

1. 論文

- ・ Ketu Ri, Teruo Yokoi, Yayoi Miyoshi, Hiroyuki Watanabe, Toshihide Fukuda 「Caregivers' roles in preventing patients with severe Alzheimer's disease from becoming distracted during mealtimes: two case reports」 『Journal of Physical Therapy Science』 33(10), pp.711-716, 2021.
- ・ 西梅幸治, 加藤由衣, 雑賀正彦, 福田敏秀, 田中きよむ 「学部卒業生にみるソーシャルワーカーとしてのコンピテンシーに関する分析—社会福祉系大学でのキャリア形成に向けた卒後支援との関連から—」 『高知県立大学紀要社会福祉学部編』 第71巻, pp. 35-50, 2022年3月.

2. 学会発表

- ・ 福田 敏秀 「介護支援専門員が捉える家族介護負担感の要素に関する検討」 第10回日本認知症予防学会学術集会（WEB開催）2021年6月

3. 競争的資金の獲得

- ・ 科学研究費補助金（基盤研究（C）：2021年度～2023年度）「高齢者の在宅介護推進の障壁「介護者の阻害要因」への適切なアセスメント方法の開発」（研究代表者）

○教育活動

- ・ 高齢者福祉論 I
- ・ 社会福祉入門演習
- ・ 社会福祉基礎演習
- ・ 相談援助実習指導 I
- ・ 相談援助実習指導 II
- ・ 相談援助実習指導 III
- ・ 相談援助演習 II
- ・ 相談援助演習 III
- ・ 相談援助演習 IV
- ・ 相談援助実習
- ・ 地域学実習 I
- ・ 対人関係とメンタルヘルス

○委員会活動

- ・ 学部教務委員会
- ・ 学部実習委員会
- ・ 学部国試対策支援委員会
- ・ 学部キャリア支援委員会
- ・ 学部健康長寿委員会
- ・ 学部介護人材確保事業部会
- ・ 学部学生委員会

○社会的活動

1. 委員等

- ・ 日本認知症予防学会 代議員
- ・ 日本認知症ケア学会 代議員
- ・ 高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長
- ・ 鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事
- ・ 公益財団法人介護労働安定センター雇用管理改善サポーター・ヘルスカウンセラー・介護人材育成コンサルタント
- ・ 高知大学 医学部看護学科非常勤講師（「健康福祉行政論」担当）
- ・ 学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 福祉保育学科非常勤講師（「社会福祉の原理と政策」担当）

2. 学外講師等

- ・令和3年度介護支援専門員実務研修（鳥取県社会福祉協議会）（2022/1/8）
- ・令和3年度主任介護支援専門員研修（鳥取県社会福祉協議会）（2021/7/3）
- ・令和3年度鳥取県介護支援専門員連絡協議会研修会（2022/3/5）
- ・令和3年度ケアテーマ別研修会「メンバーシップ研修」（高知県社会福祉協議会）（2021/10/22, 11/26, 2022/1/17）
- ・令和3年度介護助手スタートアップセミナーおよび介護助手導入支援事業における情報共有会（高知県社会福祉協議会）（2021/6/18, 8/12, 11/12, 2022/3/9）
- ・ケアサポート講習（介護労働安定センター）（2021/7/9, 10/18, 12/13, 2022/1/14）
- ・令和3年度生活援助従事者研修（介護労働安定センター）（2021/12/6）
- ・ヘルスカウンセラー集団型（研修）（介護労働安定センター）（2021/6/21）
- ・雇用管理改善サポーター業務（2021/8/5-6, 9/16, 10/11, 11/22）
- ・令和3年度介護分野における人材確保のための雇用管理改善推進事業に係る雇用管理改善企画委員会およびワーキンググループ（2021/6/11, 10/25, 2022/2/7）
- ・地域ネットワーク勉強会（介護労働安定センター）（2021/7/20, 11/8）
- ・令和3年度雇用管理相談専門家連絡会議（介護労働安定センター）（2022/3/1）
- ・令和3年度認定認知症領域検査技師 日本認知症予防学会併設 JSPD 技師講座（一般社団法人日本臨床衛生検査技師会）（Web 配信：2021/7）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度の授業は、遠隔と対面の混合型での実施が多かった。遠隔授業では、主に音声付きスライド、ビデオなどを作成し教材として用いた。フィードバックに小テスト形式の設問や自由に記載できるコメント欄を設けて、特に学生の理解度には気を配りながら進めた。また、実習も現地実習と学内実習との混合実施となった。学内実習の時期は、現地実習の前後や途中と学生ごとに異なったが、どの学生も現地実習の学びにつなげ、実践場面での体験に照らしたり、現地実習に向けて課題を見つめ直したりと、それぞれ工夫しながら取り組んだ。全体を通して、各学生とも新しい形で実習成果を得ることができたと考える。これも実習施設・機関の方々のご指導、ご協力によるものであり心よりお礼申し上げたい。

そして、今年度入学した第24期生の学年担当を遠山真世先生と受け持った。今年度は主に、本学での学びが順調に進められるようその導入部分を支えた。今後、各学生の目標に対し、より充実したサポートが行えるよう教員としてのスキルを高めていきたい。

2. 研究活動について

今年度、科学研究費補助金（基盤研究（C））の採択が得られたが、計画に従った調査を予定通り進めることができなかった。次年度はさまざまな状況に、より柔軟に対応し、改めて準備を整える等して研究に取り組みたいと考えている。

3. 社会的活動について

今年度も介護支援専門員や介護施設の専門職者へ、虐待防止や認知症等に関する研修講師の機会が得られ、また行政の委員会にも参加した。より実践に役立つ活動を目指して、現場の状況を十分理解することに努めながら、少しでも貢献できるよう研鑽したい。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動年度報告書)

2021年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー					
地域教育研究センター		遠山 真世					
全学プロジェクト	災害対策	辻 真美	長澤 紀美子	雑賀 正彦			
	大学教育改革	宮上 多加子	長澤 紀美子				
	職業実践育成プログラム(BP)	大松 重宏					
	人事関係検討会	宮上 多加子	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	西内 章	丸山 裕子
		横井 輝夫					
	自己点検・評価運営委員会	宮上 多加子	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	横井 輝夫	
	倫理審査委員会	田中 きよむ	丸山 裕子	河内 康文	遠山 真世	行貞 伸二	
	実習委員会	西内 章 (実習委員長)	河内 康文 (介護福祉士コース 主担当)	西梅 幸治 (社会福祉士コース 主担当)	加藤 由衣 (室長)	福垣 佳代 (精神保健福祉士 コース主担当)	雑賀 正彦 (社福 助教リーダー)
		田中 眞希 (介護 助教リーダー)	玉利 麻紀 (精神 助教リーダー)	大熊 絵理菜	片岡 妙子	福田 敏秀	
	総務・予算委員会	西内 章	宮上 多加子	西梅 幸治	辻 真美	田中 眞希 (助教リーダー)	大熊 絵理菜
国試対策支援委員会	西梅 幸治	加藤 由衣	福垣 佳代 (助教リーダー)	大熊 絵理菜	片岡 妙子	雑賀 正彦	
	田中 眞希	玉利 麻紀	福田 敏秀				
教務委員会	横井 輝夫	西梅 幸治	三好 弥生	行貞 伸二	福田 敏秀 (助教リーダー)	玉利 麻紀	
共通教育専門委員会	行貞 伸二						
FD委員会	三好 弥生	玉利 麻紀					
キャリア支援委員会	西梅 幸治 (全学)	田中 きよむ	加藤 由衣	雑賀 正彦	福田 敏秀		
入学試験委員会	宮上 多加子	長澤 紀美子					
入学試験実施委員会	福間 隆康	遠山 真世	加藤 由衣	片岡 妙子 (学部入試委員 助教リーダー)	福垣 佳代 (学部入試委員)		
大学入試センター試験実施委員会	遠山 真世						
入学試験監査委員会	田中 きよむ	行貞 伸二					
学生委員会		大松 重宏	河内 康文	遠山 真世	辻 真美	行貞 伸二	大熊 絵理菜
		玉利 麻紀	福田 敏秀 (ボランティア担当)				
就職委員会	河内 康文	玉利 麻紀					
広報委員会	広報委員会	三好 弥生	雑賀 正彦 (助教リーダー)	大熊 絵理菜	片岡 妙子		
	入試広報部会	遠山 真世	西内 章	丸山 裕子	三好 弥生	福垣 佳代	片岡 妙子
総合情報センター	図書部会 情報処理部会	杉原 俊二 (図書)	行貞 伸二 (情報)	大熊 絵理菜 (助教リーダー)	片岡 妙子		
国際交流センター 運営委員会	田中 きよむ	長澤 紀美子	辻 真美				
人権委員会	杉原 俊二						
紀要委員会	西内 章						
健康長寿センター 運営委員会	河内 康文	辻 真美	片岡 妙子 (助教リーダー)	福田 敏秀			
入退院支援事業	大松 重宏						
介護人材確保事業部会	河内 康文	大松 重宏	三好 弥生	田中 眞希	福田 敏秀		
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会	宮上 多加子						
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会	宮上 多加子	大松 重宏	大熊 絵理菜				
健康管理センター運営委員会	加藤 由衣						
大学院(M)	講義	宮上 多加子 (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	田中 きよむ (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	西内 章 (講義+主査)	丸山 裕子 (講義+主査)
		横井 輝夫 (講義+主査)	西梅 幸治 (講義+主査)	遠山 真世 (講義+副査)	福間 隆康 (講義+副査)	三好 弥生 (講義+副査)	
	委員会	宮上 多加子 (教務)	杉原 俊二 (図書)	田中 きよむ (図書)	長澤 紀美子 (研究科長)	西内 章 (広報)	西梅 幸治 (入試)
		福間 康文 (学生 情報)	三好 弥生 (学務)				
大学院(D)	講義	宮上 多加子 (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	西内 章 (講義+主査)	横井 輝夫 (講義+主査)	
	委員会	宮上 多加子 (教務 学務)	杉原 俊二 (学位 入試)	長澤 紀美子 (研究科長)			

: 全学委員
 一重下線 : 学部委員長

教 務 委 員 会

横 井 輝 夫

2021年度の教務委員会は、三好弥生准教授、西梅幸治准教授、行貞伸二講師、玉利麻紀助教、福田敏秀助教、横井の6名体制であった。1年間の活動内容は次の通りである。

1. 教務委員会の開催

2021年度は、通常の審議・協議事項である非常勤講師や予算などの教務関連業務以外に、昨年度に引き続き新型コロナウイルス禍での授業方法の検討と対応が、教務委員会の業務の重要課題となった。

以下に審議、協議した項目と概要を示した。

2. 新型コロナウイルス感染予防と授業

新型コロナウイルス禍での授業も2年目に入り、昨年度のような戸惑いは学生、教員ともに減少した。「高知県立大学における授業実施に関する基本的な考え方」に従い、感染状況に対応し、適宜対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施した。残念だが、新型コロナウイルス感染症の増加に伴い、学外実習が9月の1か月間中断になり、結果として学外実習が11月、なかには12月まで延長になった学生もでた。その結果、3回生、4回生では後期の授業方法にも影響がでた。また、4回生においては、学外実習の延長に伴い、国家試験の準備に影響がでた可能性も考えられる。

3. 新カリキュラムの開始

2021年度から社会福祉士、精神保健福祉士の新カリキュラムが始まり、今後4年間をかけて旧カリキュラムから新カリキュラムに移行していく。2022年度から実習も新カリキュラム下で開始され、本格的に新カリキュラムが動き出す。

4. 2022年度科目担当者の検討

2021年度は複数名の退職があり、退職者が担当していた科目を中心に、2021年度の担当科目、教員の教育歴と研究領域、そして担当科目数と担当時間を考慮して、2022年度の担当科目を協議・検討した。

5. 卒業研究論文発表会の開催

卒業研究論文発表会も新型コロナウイルスの影響を大きく受け、卒業研究論文構想発表会（4月28日）は対面で実施できたが、卒業研究論文中間発表会（10月27日）と卒業研究論文発表会（2022年2月14日）については、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使用して運営した。はじめての試みであったが、それぞれが関心のあるブレイクアウトルームで視聴するこの形式は、新たな授業方法として十分利用できる手ごたえをかんじさせた。

3回生の卒業研究論文の「仮テーマ」は2022年1月に提出された。なお、卒業研究論文指導教員の学部外教員の希望の有無を確認したが、学部外教員を希望する学生はいなかった。また、『卒業研究論文執筆のてびき』は、例年通り2022年2月に作成し、3回生に配布した。

6. 2022年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、2回生へ配布した。2日間のゼミ見学の上、14人の教員が担当する2022年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」のゼミは、1ゼミあたり上限7名の学生数を目安として調整した。

7. 学習到達度調査の実施

新型コロナウイルスの影響もあり、昨年度に引き続き今年度も2月にMoodle上で卒業予定者（21期生）を対象に「学習到達度調査」を実施した。この調査の項目は、ディプロマポリシーで示す「知識・理解」「汎用性・実践的スキル」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の4つのカテゴリから構成され、この4つのカテゴリはそれぞれ8項目、計32項目からなる。そして各項目は「全く理解できなかった」、「あまり理解できなかった」、「概ね理解できた」、「理解できた」の4件法で回答をもとめるものである。今回の調査への回答では、「概ね理解できた」、「理解できた」を合わせると99%であり、昨年度より6ポイント上昇し、非常に良好な結果であった。

8. ルーブリック（Rubric）

ルーブリックとは、学習到達度を示す基準であり、学生が何を学習するかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す評価基準からなる。今年度は昨年度に引き続き社会福祉専門演習（卒業研究）と介護実習について、昨年度のルーブリックを修正して実施した。社会福祉専門演習のルーブリックでは、卒業研究論文の完成度と卒業研究論文に取り組む学生の姿勢のバランスをとり、介護実習のルーブリックでは、ディプロマポリシーをゴールとしたものに修正した。

9. 今後の課題

重要課題は2点である。1点目は、2022年度も続いている新型コロナウイルスへの感染予防と感染状況に対応した授業方法の検討と調整、学外実習の変動に対応した学内授業の調整である。2点目は、本年度から本格的に動き出す新カリキュラムの運用を通して生じた課題の整理と対応である。

入 試 委 員 会

福 間 隆 康

1 令和4年度入学者選抜の概況

区分	募集人員 A	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		入学手続者数		辞退者数	入学者数		志願倍率	合格倍率	
		全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)		全体	(県内)	B/A	C/D	
推薦	県内	20	23	23	23	23	20	20	20	20	0	20	20	1.2	1.2
	全国	10	17	0	17	0	10	0	10	0	0	10	0	1.7	1.7
	計	30	40	23	40	23	30	20	30	20	0	30	20	1.3	1.3
一般	前期	35	175	37	151	35	40	13	35	9	0	35	9	5.0	3.8
	後期	5	110	32	54	15	10	1	9	1	0	9	1	22.0	5.4
	計	40	285	69	205	50	50	14	44	10	0	44	10	7.1	4.1
社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
私費外国人留学生	若干名	4		2		2		1		0	1			1.0	
合計	70	329	92	247	73	82	34	75	30	0	75	30	4.7	3.0	

- ・一般選抜（前期日程）の課題図書：猪瀬浩平(2020)『ボランティアってなんだっけ（岩波ブックレット）』岩波書店

2 令和4年度入学者選抜の特徴

（1）志願倍率，合格倍率，入学手続者の県内率

前年度と比べ志願倍率，合格倍率ともに低下した。入学手続者の県内率は，年度ごとに増減を繰り返しているものの，前年度と比べ増加している（下表）。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度	平成29年度
志願倍率	4.7	4.9	4.7	4.1	4.4	3.2
合格倍率	3.0	3.2	2.6	2.5	3.0	2.3
入学手続者の県内率 (%)	40.0	39.2	37.2	42.1	43.8	47.3

（2）志願者数

学校推薦型選抜の志願者数（40人）は，前年度（59人）と比較し減少した（志願者前年比67.8%）。内訳をみると，県内枠の志願者数（23人）は，前年度（36人）と比較し減少し（志願者前年比63.9%），全国枠の志願者数（17人）は，前年度（23人）と比較し減少した（志願者前年比73.9%）。この背景には，昨年度は県内枠，全国枠とも志願者数が増加し，倍率も上昇したため，その反動があったと考えられる。

一般選抜前期日程の志願者数（175人）は，前年度（175人）と同じであった（志願者前年比100.0%）。一方，一般選抜後期日程の志願者数（110人）は，前年度（103人）と比較し増加した（106.8%）。この背景には，コロナ禍で経済環境が悪化するなかで職業と直結しており，専門資格を取得できる学部を選ぶ受験生が増加したこと，大学入学共通テストの平均点が低下した科目が多くあったことなどが関係していると考えられる。

委員会活動年度報告書（入試委員会）

（３）推薦人員

令和３年度入学者選抜から学校推薦型選抜（県内枠）の各高等学校等の推薦人員を３名以内から５名以内に拡大したため、全国枠への県内からの出願（平成２３年度から実施）はなかった。また、学校推薦型選抜（県内枠）で５名出願した高等学校はなかった。

（４）社会人選抜

平成２６年度入試より開始した社会人選抜については、出願がなかった。

（５）私費外国人留学生選抜

私費外国人留学生選抜については、４名の出願があり２名が受験した。２名を合格とし、１名の入学手続きがあった。

３ 課題

- ・本学部の志願者数（３２９人）は、前年度（３４２人）と比較し減少した（志願者前年比 96.2%）。この背景には、１８歳人口の減少があり、特に高知県は減少率が高いことが影響していると考えられる。今後は、県内および四国内の高等学校を対象とした入試広報が課題である。入試広報委員会と連携し、高等学校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集する。あわせて、広報委員会、介護人材確保事業部会、地域教育研究センターと協力し、公開講座、学部出前授業、キャンパス訪問の受け入れなど、志願者の増加に向けた取り組みを行う。
- ・学校推薦型選抜（県内枠）の高等学校別志願者数の動向を把握し、今後の入学者選抜に活用する。
- ・新入生を対象とした国語力および英語力測定テストを継続して行い、学力のデータを蓄積し、今後の入学者選抜に活用する。
- ・一般選抜の順位決定の方法について見直しを行う。

学 生 委 員 会

大 松 重 宏

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の向上、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

今年度も昨年度から継続して、新型コロナウイルス感染症に伴う種々の問題も重なり、学生の精神面や身体面の不調、友人間の悩み、より複雑化した生活上の悩みに対して、学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課と連携し、解決に取り組んだ。特に、様々な理由で欠席が続いた学生には、学年担当教員が連絡を頻回にとり学業の継続に導いた。

2. 経済的支援に関する対応

本年度もコロナ禍のため学生のアルバイト収入が大幅に減ったことにより、ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について、繰り返し説明した。さらに、一時金給付の情報も付け加えた。学生・就職支援課と連携しながら、情報提供及び手続き支援を行った。また、生活の支援として食材提供等の情報提供を行った。

3. 事故・事件への対応

交通事故を含めた事故があとを絶たない。事故等に対して学年担当教員を中心に迅速に対応した。交通安全講習会は、例年通り実施された。

4. 学生の活動への支援

新型コロナウイルス感染症の陽性者、濃厚接触者への支援体制と情報共有化のシステム構築を試みた。

5. 安否確認メールについて

学生の安否確認システムにおいて各学年の返答率に差が生じた。解決策として、学年担当が、学生全員を集めての安否確認システムの目的や機能について十分に説明し、学生各々自身のために必要なシステムであることを特に理解を促すことが重要と考える。

可能ならば、全員を集めた場面（オリエンテーションや授業時）で、学生支援課と連携して安否確認システムを作動させることで実際に経験してもらうことが現実性をもって理解を促進させるされることに繋がる。そのような機会の中で、操作が分からない学生に対しては、その場で教えること、また、安否確認メールが送られて来ない学生に対しては、登録されているメールアドレスの確認をする等、丁寧な指導が可能である。

○ 今後の課題

今年度も、新型コロナウイルス感染症に伴い、学業面と精神面への支援、経済的支援に関する対応が例年以上に求められた。学生は精神面、経済面、友人、家庭等の課題をかかえながら学生生活を送っている。学生が個々人の課題を乗り越え健全に学業を継続するためには、学生のかかえる課題に早期に気づき、対応することが必要になる。来年度も新型コロナウイルス感染症に伴い複雑化した学生の課題に対して、学年担当教員とゼミ担当教員を中心に、健康管理センターや学生・就職支援課との連携で迅速で適切な対応したい。

実 習 委 員 会

西 内 章

1. 実習委員会の活動の特徴

実習委員会は、三福祉士の実習及び実習関連科目が円滑に実施できるよう、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的としている。本学部の三福祉士（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）の養成課程に係るコースの運営及び教育は、コース主担当（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員が行っている。

2. 配属実習の実施状況

本年度の配属実習では、新型コロナウイルス感染者の感染拡大を考慮し、実習の中止および実習を延期することになった。その後、一部を学内実習で対応したり、必要な感染対策を大学と実習先で取り決めた上で実習を再開するなどの対応を行った。

（1）相談援助実習

相談援助実習 68 名（内、2 ヶ所実習生は児童 5 名）の内訳は、福祉事務所 6 名、社会福祉協議会 26 名、病院（精神科除く）10 名、児童相談所 6 名、児童養護施設 7 名、児童自立支援施設 4 名、特別養護老人ホーム 2 名、小規模多機能型居宅介護 2 名、療養介護事業所・医療療養型障害児入所施設 2 名、障害福祉サービス事業所 2 名、就労移行支援事業所・就労継続支援 B 型事業所 1 名、障害者支援施設 1 名、障害児通所施設 4 名であった。

また実習を急遽中止した学生の内、12 日分については学内実習を実施した。学内実習だけでは実習日数を満たさない学生については、高知県内の感染状況が落ち着いた段階で実習を再調整し実施した。

（2）精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの 20 名の内訳は、精神科病院 15 名、精神科病床を有する一般病院 4 名、精神科診療所 1 名、精神保健福祉センター 2 名、地域活動支援センター（相談支援事業所併設）3 名、障害福祉サービス事業所 11 名、相談支援事業所 3 名であった。なお、実習を中断した学生については、高知県内の感染状況が落ち着いた段階で実習を再調整し実施した。コロナウイルス感染拡大から 1 名が精神科病院で 24 日間実習したため、実習Ⅱは計 19 名であった。

（3）介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

介護実習Ⅰの 21 名では、特別養護老人ホーム 3 名、特定施設入居者生活介護 6 名、小規模多機能型居宅介護 3 名、生活介護 6 名、救護施設 3 名であった。予定していた 17 日間の実習のうち、12 日分は学内実習となった。

介護実習Ⅱの 18 名では、特別養護老人ホーム 14 名、障害者支援施設 3 名、療養介護/医療型障害児入所施設 2 名であった。

介護実習Ⅲは、コロナウイルスの感染拡大を鑑み、特別養護老人ホーム 11 名、療養介護/医療型障害児入所施設 4 名を次年度へ延期した。

3. 実習連絡協議会

本学部の実習教育や配属実習について、実習指導者と本学実習担当教員が率直な意見交換を行い、適切な実習指導体制を整えるために実習連絡協議会を開催している。今年度も、コースごとに実習連絡協議会を企画し、相談援助実習連絡協議会、精神保健福祉援助実習

委員会活動年度報告書（実習委員会）

連絡協議会、介護実習連絡協議会を開催した。

2021年5月31日（月）相談援助実習連絡協議会（Zoom開催）

参加施設数：35施設 実習指導者数：48名

8月2日（月）介護福祉実習連絡協議会（Zoom開催）

参加施設：11施設 参加実習指導者：16名

2022年3月9日（火）精神保健福祉援助実習連絡協議会（Zoom開催）

参加施設：8病院，3事業所 参加実習指導者：12名

4. 成果と課題

（1）旧カリキュラムと新カリキュラムへの対応

2021年度入学の1回生から，社会福祉士養成カリキュラムと精神保健福祉士養成カリキュラムは新カリキュラムを適用している．これにともない例年4月入学当初に実施している介護・社会福祉コースの選択希望に加えて、1回生後期に社会福祉コースおよび精神・社会福祉コースの選択希望をとることにした．これは、新カリキュラムとして2022年度から新に実施する「ソーシャルワーク実習Ⅰ」や、2024年度から実習時間数を増やした「精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ」を円滑に実施するための手続きとして導入したものである．

（2）新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともなう配属実習への影響

社会福祉学部の実習は、大学が設定しているリスクレベルに応じた実習方法に沿って実施しているが、本年度は高知県内にまん延防止重点措置が出されたこともあり、大学の決定として急遽、実習を中止することになった．社会福祉学部の実習は、実習先の実習指導者と感染対策について綿密に連絡・相談しながら実施している．2021年度のような急な実習中止は避けなければならない．学部として大学全体の方針との整合性を検討したい．

（3）実習予算及び実習事務の確認・情報共有

本年度も三福祉士の実習予算及び実習事務の確認・情報共有を行うために、実習支援室長と福祉実習支援室を担当する助教教員、実習委員長の三者による連絡会議を月1回実施した．日常的なコース運営は各コースに一任しているが、実習費の使途と実習事務の進捗状況について月1回の連絡会議で確認・情報共有を行っている．特に本年度は、学内実習の具体的な実施方法や、それにとともなう予算の対応、実習再開に必要な手続きの確認等について確認・情報共有を行った．次年度も引き続き実習予算や実習事務の改善点がないかを連絡会議で確認したい．

また2021年度も新型コロナウイルスの感染予防の観点から、福祉実習支援室の学生への窓口対応を一時的に閉鎖し、代替策として学生の相談は電話やメールで行った．学生にとっては、対面に関わる窓口対応の方が望ましいが、福祉実習支援室の窓口対応を安易に再開すると多くの学生が利用することにため感染の心配がある．次年度も感染対策の協議を継続して、窓口対応を再開するかどうかを見極めたい．

就 職 委 員 会

河 内 康 文

1 社会福祉学部の就職活動支援

（1）就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2021年4月5日）

（2）学生・就職支援課ワクワク Work!!との連携

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携し、求人情報や就職支援情報の提供、メールやWeb会議ツール ZOOM を活用した就職相談を行った。合格・内定後は速やかに学年担当教員に連絡するとともに、その都度、ワクワク Work!!に「体験報告」および「進路決定届」を提出するよう促し、情報の共有をはかった。

（3）個別相談等

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携しながら、ゼミ担当教員、学年担当教員が中心となり、4回生の進路相談、応募書類の添削、模擬面接等を行った。

（4）情報提供

定期的にワクワク Work!!から社会福祉学部宛に届いた求人一覧を確認し、希望地域・業態が一致する学生に情報を提供した。また、ファイリングした求人票を社会福祉学部棟のラウンジスペース卓上に設置し、求人の情報提供を行った。福祉就職フェア（各県福祉人材センター主催）に関する情報を提供した。

2 進路状況

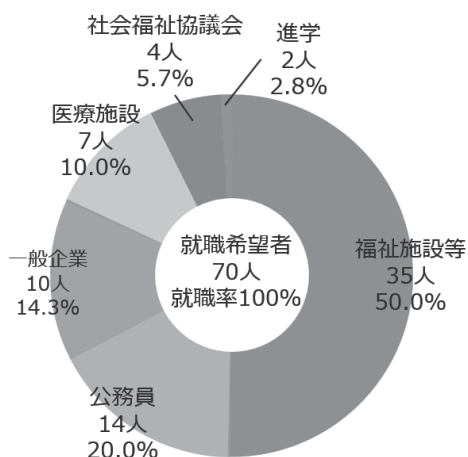


図 業務別就職状況

3 今後の課題

新型コロナウイルスの影響で、国試対策、実習、卒業論文等の優先順位の付け方や、スケジュール管理に対する学生の意識を高めていく必要がある。就職活動の方法も遠隔を用いた情報収集や面談が行われており、新しい動向に応じた就職活動に対する支援が必要になる。

広 報 委 員 会

三 好 弥 生

○本年度の取り組み

（1）「大学案内」の編集・製作

2023年度版「大学案内」の社会福祉学部の紹介では、昨年コンセプト、デザインのまま大幅な修正は行わず、一部内容を更新した。

（2）オープンキャンパス：新型コロナウイルス感染拡大防止のため動画対応

遠山准教授による社会福祉学部紹介動画（進路担当者向け説明会と一本化）を作成し、視聴回数は1,210であった。また、オンライン個別相談会を実施し、高校生2名の参加があった。

（3）在学生による出身高校訪問

新型コロナ感染拡大防止のため多くはオンラインでの実施となった。

（4）キャンパス訪問への対応

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

（5）学部パンフレットの更新

在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について、最新情報に更新した。

（6）学部ホームページの更新

- ・在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について最新情報に更新するとともに国家試験の合格率や就職先の分野を更新した。
- ・高校生のための公開講座やリカレント講座など、社会福祉学部主催のイベントについて掲載した。
- ・学部教員の教育・研究活動「学部報」を掲載した。

○今後の課題

昨年に引き続き、コロナ感染拡大防止のためオープンキャンパスや大学説明会など多くの広報活動がオンラインによる実施となった。

学部ホームページからの情報発信は、卒論構想発表会や地域学実習の様子など、計6件の「新着情報」を掲載した。新型コロナの感染状況によって、学外実習や卒論発表会などそれまでとは異なる方法を模索しながら実施している状況にあり、これらの情報をタイムリーに発信することが難しかった。

介護人材確保部会

河内 康文

1. 集合型研修 社会福祉の事をわかりやすく学べます

- 開催日時：2021年7月25日（日曜日） 10：30～12：00，13：00-14：30
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス（Zoom 配信）
- 講師：河内 康文 准教授，大熊 絵理菜 助教，大塚 由希子（高知市役所 ケースワーカー）
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数：160名（スタッフ等含む）

（1）事業概要

高校生とその保護者等に対して，福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した．大学教員と卒業生・学生が福祉介護の学びをプレゼンテーションし，専門職の役割やキャリアについて学ぶ．

（2）活動成果

アンケート集計結果からは，講義の前後で福祉・介護のイメージが良くなったという変化が見られた．同アンケートの自由記述からは「改めて社会福祉というものに興味を持ちました」，「将来のイメージが深まった」，「高知県の地域課題や改善，独自の活動内容など興味深いことが沢山聞けて良かったです」などの回答があった．

（3）活動評価

本事業のプログラムは，5年目となる．本年度は昨年引き続き WEB 開催であったが，参加者数（スタッフを含む）が50名（2019年）→98名（2020年）→160名（2021年）と増加した．午後に実習内容を報告するプログラムを実施し，実習施設の指導者など多様な参加者が集合し研修する機会となった．

2. 集合型研修 卒業生の働く現場から LIVE 配信

- 開催日時：2021年9月26日（日曜日） 10：30～12：00
- 開催場所：在宅型有料老人ホームウエルリブじんざん（Zoom 配信）
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数 52名
- 講師：福田 敏秀 助教，黒岩 賀永 ウエルリブじんざん 施設長，東仲 南奈 ウエルリブじんざん(卒業生)，二神 琴音 ウエルリブじんざん(卒業生)，福本 和生 ウエルリブじんざん(卒業生)，藤井 孝樹 ウエルリブじんざん(卒業生)

（1）事業概要

高校生とその保護者等に対して，福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した．大学教員と介護施設長・卒業生が福祉・介護現場での仕事ややりがいについてプレゼンテーションをし，専門職の役割やキャリアについて学ぶ．

（2）活動成果

アンケート集計結果からは、回答者全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護への勉強をしたくなった」「福祉・介護の仕事をしたくなった」ことが示されていた。また、同アンケートからは、「大学で学んだこと、介護施設で働く中での、苦しかったことや喜びなど、現場で働く方々の貴重な意見を聞かせて頂いたので、今後の進路について理解を深めることが出来ました」、「コロナの影響でオープンキャンパスに行けないのでこういうウェブで開催してくれてとても助かった」などの記述が見られた。

（3）活動評価

参加者は、32名（2019年）→52名（2020年）→94名（2021年）と増加傾向が見られる。卒業生は、学生のとときにこのイベントの学生スタッフとしてかかわっていた経験があったため、趣旨を理解した効果的なプレゼンテーションが可能となった。

アンケート結果は、ポジティブな内容が多く、現場からのリアル発信が福祉介護のイメージ変容に重要な役割を果たしていることがわかる。新型コロナ禍で介護現場に行くことが困難な現状を鑑みると、現場からの発信は重要な試みであったといえる。

（4）当日の様子



プレゼンテーションメンバー



卒業生のリアルトーク

3. 集合型研修 アカデミックに福祉・介護を探求する

○開催日時：2021年11月7日（日曜日） 10：30～12：00

○開催場所：高知県立大学池キャンパス（Zoom配信）

○講師：大松 重宏 准教授、片岡 妙子 助教

○対象：高校生と保護者 ○参加者数：97名（延べ人数，スタッフ等含む）

（1）事業概要

高校生とその保護者等に対して、福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。大学教員が介護福祉に関する研究の現状や課題について講義したあと、在校生が大学での学びの実際を報告しながら福祉・介護専門職になるためのアカデミックな学びを理解する。

（2）活動成果

アンケート集計結果からは、「福祉・介護への勉強をしたくなった」が講座後に10ポイント増加していた。大学教員がアカデミックな観点から講義をすることで、大学での学びに対する期待とイメージが膨らだと思われる。アンケート結果からは、「ピアサポートや医療的ケア児という名前しか聞いたことが無かったので、とても勉強になりました」、「介護

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

の講義を聞き、介護福祉について興味が出てきました」などの記述が見られた。

（３）活動評価

本講座は、大学で実施している福祉介護のアカデミックな講義を遠隔で体験し、福祉介護の理解を深める契機になった。

また、今年度はすべての集合研修において講座がわかりやすくなるよう事前に講義資料を送付した。集合研修はリピーターによる参加者も多いため、各講座の資料を見直す機会が可能となり、各講座の連動性による福祉介護の理解の深まりが期待できる。

4. 集合型研修 新高校生 2・3 年生のための入門講座

○開催日時：2022年3月23日（水曜日） 13：00～15：00

○開催場所：高知県立大学池キャンパス（Zoom 配信）

○講師：田中 眞希 助教，高知市，高知市社会福祉協議会

○対象：高校生と保護者 ○参加者数：56名（延べ人数，スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校1・2年生とその保護者等に対して、大学教員が高知県における福祉・介護の現状や課題について講義、在校生が大学での学びの実際を報告した後、認知症サポーター養成講座をとおして福祉・介護分野に関心をもってもらうとともに、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは、「周囲の支えで認知症の人が幸せに暮らしていけるということを講座を聞いていて思ったので今日学んだことを少しでも自分の周りの人に教えたらと思えました」「これからは認知症サポーターとして、地域に住む認知症の方を支えていきたい」等が示されていた。また、アンケート結果からは、他の集合研修と比較して、福祉介護に対するネガティブなイメージからポジティブなイメージへの変容が大きい。

（３）活動評価

（２）のイメージ変容の違いは、福祉介護へのイメージが不透明な高校生1,2年生が対象であることが考えられる。早期かつ継続的なアプローチが重要といえる。本講座は、高知市が実施している認知症サポーター養成講座および高知市社会福祉協議会連携して実施した。多機関と連携を図りながら取り組みを続けていく必要がある。

5. 訪問型研修（計10回）

○開催日時：場所

- （１） 9月13日（月曜日）16：00～17：00 土佐塾高校：Zoom
- （２） 9月15日（水曜日）16：00～17：00 高知南高校：Zoom
- （３） 9月17日（金曜日）16：00～17：00 高知商業高校：Zoom
- （４） 9月24日（金曜日）17：00～18：00 高知丸の内高校：Zoom
- （５） 9月24日（金曜日）16：00～17：00 岡豊高校：対面
- （６） 9月27日（月曜日）16：10～17：10 中村高校：対面
- （７） 9月29日（水曜日）16：30～17：30 安芸高校：対面
- （８） 10月8日（金曜日）16：00～17：00 高知西高校：対面
- （９） 10月11日（月曜日）16：00～17：00 土佐女子高校：対面
- （10） 10月26日（火曜日）16：30～17：30 高知農業高校：対面

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

○講師：大松 重宏 准教授（4）（8），河内 康文 准教授（6）（7），三好 弥生 准教授（1）（9），大熊 絵理菜 助教（1），田中 眞希 助教（2）（3），福田 敏秀 助教（5）（10），入野 文菜（函南病院 医療ソーシャルワーカー），大塚 由希子（高知市役所 ケースワーカー），中澤 里映（平成福祉専門学校），中山 雄登（日高村社会福祉協議会），福本 和生（在宅型有料老人ホームウエルリブじんざん 社会福祉士・介護福祉士），山本 桃子（介護老人福祉施設 グランボヌール）

○対象：高校生・高校教員

○参加者数：計 233 名（講師・スタッフ等含む）

（1）事業の概要

高校生に対する福祉・介護の概要理解を目的に，高知市内外の高等学校に訪問し，大学教員が理論，専門職が福祉・介護現場の実際，学生が大学での学びの実際を説明した。

（2）活動成果

アンケート集計結果は，概ね好評であった。具体的には「介護は 10 年後の未来を見据えていることが印象に残りました」，「今まで介護は大変というイメージしか持っていなかったけど，今日の講演を聞いて現場の大変さや楽しさが伝わってきました」などの回答が見られた。自身の高校を卒業した先輩からの声は，高校生にとって影響を及ぼすことが理解できる。

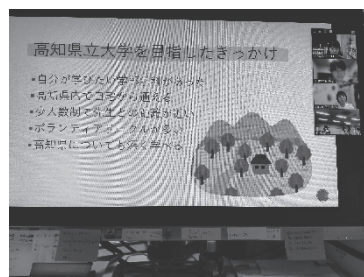
（3）活動評価

本事業が 6 年目となり，大学生時のスタッフ経験者が専門職として参加をするようになり，内容が充実した。また，今年度は訪問高校を 2 校増加し，参加人数が 99 名（2019 年）→189 名（2020 年）→233 名（2021 年）と増加した。新型コロナウイルスの影響で，高校が大学見学などに参加できない動向のなかで，受入が好意的であったように思われる。先輩からの話を聞く，高校生の目は真剣そのものであることが講師をしていて実感できる。また，卒業生は自分を振り返る機会になったり，講座を担当することで自信につながったりしているようである。事業の継続とともに，内容のさらなる充実を目指していきたい。

（4）当日の様子



専門職や卒業生とのグループワーク



Zoom を用いた講座



福祉で未来を探求！
高校生のための

Web EVENT LIVE配信



事前申込み制

講座 1 社会福祉の事を
わかりやすく学ぶ

2021

7.25 sun

講座 2 卒業生の働く現場から
LIVE配信

2021

9.26 sun

講座 3 アカデミックに
福祉介護を探求する

2021

11.7 sun

講座 4 認知症サポーター養成講座
認知症を地域で支える

2022

3.23 wed


社会福祉の事を
わかりやすく学べます。



高知県立大学 社会福祉学部

当日のお好きな時間に参加・退出できます。

2021年
7月25日 [日]
10:00-12:00



10:00 福祉の学びへのいざない
大熊 絵理菜先生(社会福祉学部:助教)
社会福祉入門です。社会福祉とは何か、社会福祉の仕事において大切なコミュニケーションとは何か。自分の日頃のコミュニケーションから考えてみませんか？

10:15 県大生の高校時代を振り返る
県大生が高校生のころ、どのようにして福祉を志し、大学で福祉を学ぶために、どのような行動をしてきたのか、振り返ります。

10:40 福祉をどのように学ぶのか
県大生が、福祉をどのように学んでいるのか、社会福祉を基礎として、介護分野、精神保健福祉分野の発表をします。

11:00 福祉の学びを地域で活かそう
地域福祉を応援したいサークル「かんきもん」、その活動の一つで障害がある人の移動を介助する「タウンモビリティ」、手話サークル等の活動を紹介します。

11:40 卒業生トーク

13:00～14:30 実習事例報告会 ①～④は出入り自由です。
実習ってどのようなことを学ぶのか、気になりますよね。実習の事例から、福祉介護をイメージしてみましょう。

① 高齢者 施設A	② 高齢者 施設B	③ 障がい者 施設	④ 障がい児 施設
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------


講座
1

社会福祉の事をわかりやすく学ぶ


講座
2


卒業生の働く現場から
LIVE配信

2021年
9月26日 [日]
10:30-12:00



2021年
11月7日 [日]
10:30-12:00
医療と介護福祉の境界


大松 重宏先生
(社会福祉学部:准教授)


片岡 妙子先生
(社会福祉学部:助教)

アカデミックに
福祉介護を
探求する

講座
3

地域で支える


講座
4

認知症サポーター養成講座
認知症を

2022年
3月23日 [水]
13:00-15:00

13:00-13:30 15年先の未来を学ぼう
田中 眞希先生(社会福祉学部:助教)

13:30-15:00 認知症を地域で支える
(認知症サポーター養成講座)



地域で支える

事前のお申込みが 必要です。

締切り／各講座1週間前まで
参加費無料
保護者・高校の先生方も
参加いただけます。

お申込みについて

本学ホームページからお申込みいただけます。下記、URLまたはQRコードから専用ページにアクセスし、「申込方法」に必要な事項をご登録ください。

<https://www.u-kochi.ac.jp/site/wlc/2021career01.html>

お申込み後に登録いただいたアドレス宛に事前準備等を掲載した返信メール(お申込みOK)が届きます。

お問合わせ

高知県立大学 教育研究戦略課 健康長寿センター事務担当:永野または由比
Tel.088-847-8815 E-mail:career-wlc@cc.u-kochi.ac.jp



キャリア支援委員会

西梅 幸治

キャリア支援委員会は、委員長を西梅、田中きよむ教授、加藤講師、雑賀助教、福田助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

① キャリア支援に係るガイダンスの実施

全学委員会の学部別キャリア教育・就職ガイダンス開催経費を用いて、学年担当教員の協力のもと、以下のガイダンスを開催した。開催された講座は、どの講座も好評であった。

開催日	テーマ	講師	対象
11月18日	医療ソーシャルワーカーについて	島崎友映氏 (社会医療法人近森会 近森病院)	1回生
1月31日	ハンセン病の歴史を学ぶ講演会	森一男氏 (国立療養所大島青松園入所者自治会 会長、全国ハンセン病療養所入所者協議会 会長) 野村宏氏 (国立療養所大島青松園入所者自治会 副会長)	2・3回生
2月10日	4回生からの就職活動報告会	本学部4回生6名	2・3回生
11月23日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	4回生
12月22日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	4回生

② リカレント研究会事業の取り組み

学部運営費による事業として、以下の研究会を実施した。継続的に実施されている研究会もあり、参加者には有益な機会となっている。

事業名 開催日 (回数)	担当教員	内容と成果	参加人数
スクールソーシャルワーク研究会 9月29日 3月6日 (計2回)	西梅 幸治 加藤 由衣	本研究会は年2回で、スクールソーシャルワーカー相互の情報交換や報告、活動の振り返りなどを実施した。今年度も、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、対面での実施が難しくZoomを活用したオンラインで開催した。今年度は、大学院で学ぶSSWの参加により、参加メンバーにとっては実践面のみならず研究面での力量向上に主体的に取り組む機会になった。	延べ 11人

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

<p>介護コース卒業生を対象とした事例検討会</p> <p>7月25日 3月10日 (計2回)</p>	<p>宮上多加子 三好 弥生 河内 康文 辻 真美 片岡 妙子 田中 眞希</p>	<p>7月：4回生の事例研究発表会へ卒業生にも参加してもらい、その後、意見交換を行う形式で実施した。事例研究発表会に卒業生が参加するのは、初めての試みであった。卒業生の感想としては、在学時を懐かしむとともに初心を思い出すなど、よい機会となったようだ。在校生にとっても、卒業後リカレント研究会への参加を促す良い機会となった。</p> <p>3月：2回目のテーマは、「5年以上の経験（1～4期生）を経て中堅職員となる（なった）卒業生も多い中、中堅職員としてのキャリア、女性としてのキャリアなど、現在抱えている課題や今後のキャリアについて」として実施した。子育てをしながら働く卒業生も多くなっており（今回参加者のうち、6名が子育てしながら働いている）、現在抱えている課題や職場の状況などの意見交換を行った。特に、新型コロナの影響についての意見が多くあった。初めての試みとして、実習先・就職先でもある施設職員の方々にも参加いただき、学生の頃実習に行った卒業生は懐かしんだり、情報交換を行うなど、貴重な機会となった。Zoomでの実施だと、遠距離でも自宅から子どもと共に参加することができるなどメリットも多い。今後も卒業生のキャリアをサポートできるよう、継続的にリカレント研究会を実施することの意義を感じた会となった。</p>	<p>延べ 66人</p>
<p>ソーシャルワーク学習会</p> <p>11月12日 12月26日 (計2回)</p>	<p>西梅 幸治 大熊絵理菜</p>	<p>本研究会は年2回で、ソーシャルワークに関して対象者別に別々の内容で実施した。今年度は、卒業生が研究を進めるための手がかりとなる機会にもなり、かつ新型コロナ感染症流行に伴い、対面での実施が難しくZoomを活用したオンラインで開催したことにより、県外の卒業生も参加できる機会をつくることができた。</p>	<p>延べ 8人</p>

③キャリア支援特別講座の開催

学部の活動計画に基づいて、リカレント研究会の一環として2講座を開催した。1講座目は、障害福祉に関心のある卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会をZoomによるオンライン形式で実施した。講演会ではまず、社会福祉法人南山城学園に勤務する2名の卒業生と、広報担当から実践報告があった。法人で大切にしている実践方法や障害福祉分野のやりがい、キャリア形成などに関する実践報告をもとに、グループディスカッションと質疑を通じて内容を深めた。本講演会を通じて、福祉職場の魅力やキャリア形成について理解を深めると同時に、在学生と卒業生、教職員をつなぐ機会を設けることができた。

2講座目は、地域福祉分野の関係者との共同研究に向けて、県下の社会福祉協議会に勤務する卒業生3名を招聘し、学内地域福祉研究セミナーと称して、研究課題の発見に向け

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

た内容で実施した。本セミナーについては、地域福祉領域の研究者をコーディネーターとして、卒業生のみならず、同じ職場の職員、在学生、教職員も参加し、各自の実践力の向上や研究への視点獲得を図るとともに、相互のつながりやネットワークの形成も期待できる機会となった。いずれも参加者には、好評であった。

開催日	テーマ	講師	参加人数
1月14日	障害福祉にかかわる実践報告—社会福祉法人を起点とした地域実践—	朝子聖衣奈氏・藤本風沙氏（社会福祉法人南山城学園） 司会：西梅・加藤	28人
2月17日	学内地域福祉研究セミナー	浦中萌和氏（土佐清水市社会福祉協議会） 西野真麻氏（黒潮町社会福祉協議会） 猪野愛三氏（本山町社会福祉協議会） コーディネーター：田中きよむ 司会：雑賀	52人

④社会福祉士実習指導者講習会の開催

本年度は、高知県社会福祉士会と共催で実習指導者講習会を開催し、卒業生13名を含む計64名が修了した。社会福祉士のカリキュラム改正に伴い、次年度にはソーシャルワーク実習Ⅰがスタートすることもあり、卒業生のキャリア形成とともに、在学生の实習先確保や質の高い実習教育に向けた機会、社会福祉士会との協働を通じた地域貢献にもつながったのではないかと考えている。

2. 今後の課題

本委員会での取り組みに関する今後の課題としては、年度当初の活動計画の確認による取り組みの具体的で継続的な推進である。特に卒業生を中心とするリカレント研究会事業や、在学生と卒業生をつなぐ交流の場の提供により、学術的・実践的な力量を継続的に培うことが課題である。また今年度も継続して、既卒者への国試対策支援を含めて進めることができた。来年度は、今年度の活動を契機としたさらなる取り組みを活動計画に基づいて、進めていきたいと考えている。

健康長寿センター

辻 真美

○活動内容

1. 健康長寿センター運営委員会

全学での運営委員会として、令和3年4月から令和4年3月においてズームとメールによる会議を12回実施した。

2. 健康長寿センター運営委員

池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（河内・片岡・福田・辻）・総務部企画課健康長寿担当者

3. 令和3年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）

①リカレント教育講座ーようこそ！知のフィールドへー社会福祉学部×SDGs シリーズ1, ②第3弾おうちで健康長寿体験型セミナーPresented by 高知県立大学健康長寿センターの事業企画（代表者）, ③健康長寿文庫の選定

○活動の評価と課題

①事前収録した3講座を健康長寿センターの公式YouTubeチャンネル（登録者数139人）を活用し、無料でWeb配信した。全講座とも動画再生回数は300回を超えている。今後、遠隔による講座の企画も継続して行うことを検討する。なお、前年度公開の3講座も配信継続中であり、コンテンツの充実に貢献されている。

②配信型の「おうちで健康長寿体験型セミナー」第3弾事業を代表者として企画した。内容は「高知家、認知症との付き合い方」をテーマとし、健康長寿センターの公式YouTubeチャンネルから無期限で動画配信した。広く活用してもらえるように広報活動も含めて、様々な方法を取り入れていくことを検討したい。

③健康長寿文庫の推薦図書として一般啓発書を37冊、選定した。多くの県民の方々が健康に関する書籍に興味を持ってくださるよう、推薦コメントを添えて提出した。

① リカレント教育講座ーようこそ！知のフィールドへー

Web公開	テーマ「社会福祉学部×SDGs シリーズ1」	講師	再生回数
11月1日	地方における貧困問題と地域共生社会	田中教授	1410回
11月15日	多様な性の理解と SOGI/LGBTQ をめぐる人権課題	長澤教授	
11月29日	保護者の「語り」と児童虐待の予防	杉原教授	

② 第3弾おうちで健康長寿体験型セミナーPresented by 高知県立大学健康長寿センター

配信期間	テーマ「高知家、認知症との付き合い方」	講師	再生回数
9/8 から 随時配信	<ul style="list-style-type: none"> 「認知症を理解しよう～私って認知症？～」小原講師（公開） 「土佐ことばで脳トレ！！」橋尾教授（公開） 「つながりの大切さ～認知症予防と防災の事例から～」 雑賀助教，社会福祉学部生（収録，配信準備中） 「認知症の人へのかかわり方」小原講師，看護学部生，社会福祉学部生，辻（収録，配信準備中） 		510回

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

大松 重宏

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長，地域医療連携室長，看護局，ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長，社会福祉学部長，看護学領域教員，社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 学生の臨地実習（上記事業1にあたる）については，前期で，社会福祉コース（3回生1名）の相談援助実習，精神コース（4回生2名）の精神保健福祉援助実習が終了した．新型コロナウイルスの影響で実習の中断となったが，理想と現実のギャップや多職種等組織の中で働くことの課題に対し，客観的，多面的な視点を意識するまでに到達でき効果的な実習であった．後期において，社会福祉コース（2回生）の現場見学も新型コロナウイルスの影響で実施できなかった．
2. 共同研修会（上記事業3にあたる）を毎月1回，Zoomにて定期開催した．昨年に引き続いて，MSWが難渋するケース，心に残っているケースを選択し，専門職として自らの実践を振り返る機会となった．また，大松先生による社会福祉実践研究についての教育講義を行った．
3. 共同研究（上記事業4にあたる）については，北海道医療ソーシャルワーカー協会の医療ソーシャルワーカーキャリアラダー・モデルブックを使用して，個々でラダー評価を実施し発表する機会をもった．自らの実践を評価することが，客観的に自分の業務について理解することに繋がったと考えている．また，発表を通して，他者を評価することの難しさや，スーパービジョンの大切さを理解することができた．

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

1. 学生にとっては，ソーシャルワークの生の意見が聞ける貴重な機会となっている．定例会への参加，実習および見学が円滑かつ効果的に進められるよう創意工夫して実施していく．
2. 次年度も事例検討を実施する．今後も看護部門や他職種の参加を促進し，多様な視点から事例検討ができるよう取り組んでいく．
3. 「ソーシャルワーカー・キャリア・ラダー」の個々の評価及び発表を通して，このことから得られた効果や課題について抽出し実践研究へとつなげていく．

令和3年度 看護・社会福祉包括連携事業計画・実績（社会福祉）

1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

1) 学生の臨地実習

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1 前期	(社会福祉) ・8/12~8/27 1名	社会福祉学部 3回生	1	相談援助実習による配属実習 医療相談室におけるソーシャルワーク実習
	(精神) ・7/15~8/3 1名 ・10/12~10/27 1名	4回生 4回生	1 1	* 社会福祉実習は新型コロナウイルス感染症拡大のため、 実習途中で中止。
3 後期	中止	社会福祉学部 2回生		相談援助実習による見学実習 医療相談室におけるソーシャルワーク見学実習

2) 教員の臨床研修

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1) 基礎教育

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1	毎回 参加予定	社会福祉学部 3回生	順次参加	定例研修会 (3. 教員コンサルテーションに該当)への参加

2) 継続教育

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3) 大学院教育

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3. 教員によるコンサルテーションの実施

	実施日・期間	氏名 or 対象	参加人数	事業内容
1 前期	4月19日(月) 17:30~ (Zoom)	●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・ 中山真紀・竹村貴深・西原 梓・和田真奈美・兵頭七 海)	9名	本年度計画の立案
2 前期	5月17日(月) 17:30~ (Zoom)	●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・ 中山真紀・竹村貴深・西原 梓・和田真奈美・兵頭七 海)	9名	事例検討(中山) 『寄り添う支援のつもりが振り回される支援になっていた？ 本当に必要としていた支援は何かを振り返って』 * 司会(和田)

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

3 前期	6月21日(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・兵頭七海) 	9名	<p>高知県立大学 大松先生講義</p> <p>『社会福祉実践研究の方法 ～事例検討から事例研究へ～』</p> <p>* 司会(西原)</p>
4 前期	7月19日(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●地域医療連携室看護師 (早瀬仁美) ●ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・兵頭七海) ●社会福祉学部学生(岩崎冬星・風戸美夢・上村美沙乃・坂本成美・漸井那智・住友玲菜・野村佳世・別役花子・山崎真凜・大和美穂) ●高知県立大学大学院生 (今井ユミ・今中与主安・加藤晶子・村岡千紜) 	24名	<p>事例検討(和田)</p> <p>『先生、安楽死をさせてくれ』 * 司会(中山)</p>
5 前期	8月16日(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・兵頭七海) ●高知県立大学大学院生 (大西・竹本智子) 	11名	<p>事例検討(竹村)</p> <p>『身寄りがないがん患者の 人生の最終段階における意思決定支援』</p> <p>* 司会(川上)</p>
6 前期	9月27日(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●地域医療連携室看護師 (早瀬仁美) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・兵頭七海) 	10名	<p>事例検討(兵頭)</p> <p>『危機介入の視点を持ってクライアントとどのように寄り添うか』</p> <p>* 司会(竹村)</p>
7 後期	10月18日(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・兵頭七海) 	9名	<p>実践報告(兵頭・中山)</p> <p>『救急外来での帰宅支援の取り組みについて』</p> <p>* 司会(兵頭)</p>
8 後期	11月15日(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・兵頭七海) 	8名	<p>ソーシャルワーカーキャリアラダーに取り組んで(藤井)</p> <p>自己評価の発表</p> <p>* 司会(藤井)</p>

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

9 後期	12月20日(月) 17:30～ 高知医療センター 相談室2	●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・ 中山真紀・竹村貴深・西原 梓・和田真奈美・兵頭七 海)	7名	ソーシャルワーカーキャリアラダーに どのように取り組んでいくかについての検討 * 司会(和田)
10 後期	1月17日(月) 17:30～ (Zoom)	●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・ 中山真紀・竹村貴深・西原 梓・和田真奈美・羽方沙由 美・兵頭七海)	10名	ソーシャルワーカーキャリアラダーに取り組んで(竹村) 自己評価の発表 * 司会(西原)
11 後期	2月21日(月) 17:30～ (Zoom)	●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・ 中山真紀・竹村貴深・西原 梓・和田真奈美・羽方沙由 美・兵頭七海)	10名	ソーシャルワーカーキャリアラダーに取り組んで(和田・西原) 自己評価の発表 * 司会(川上)
12 後期	3月28日(月) 17:30～ (Zoom)	●社会福祉学部教員 (大松重宏) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・ 中山真紀・竹村貴深・西原 梓・和田真奈美・羽方沙由 美・兵頭七海)	9名	ソーシャルワーカーキャリアラダーに取り組んで(中山・羽方) 自己評価の発表 * 司会(川上)

4. 臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1	4月～3月	●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・竹村貴深)	4～10名	ラダーに関する研究 北海道医療ソーシャルワーカー協会の医療ソーシャルワーカー キャリアラダー・モデルブックを使用して、個々でラダー評価を 実施し、今年度中に個々の評価を発表予定となっている。それ によって得られた知見を研究や来年度のラダーの取り組みにつ なげる。
2				

5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

6. その他看護・社会福祉連携活動の実施

	実施日・期間	氏名 or 対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

災害対策プロジェクト

辻 真美

○本年度のとり組み

全学の災害対策プロジェクト担当として辻、学部委員会としては雑賀正彦助教、長澤紀美子教授が参加した。主な取り組みは以下の通りであった。

1. 高知医療センターとの合同災害訓練

（1）災害対策プロジェクトの会議及び合同災害訓練打合せ会の開催・参加

災害対策プロジェクトメンバーとの会議は主にメールで実施し、学部委員会としての合同災害訓練打合せ会は令和3年10月より、月2回のペースで行った。また、イケあいボランティア防災サークルの社会福祉学部生と、複合災害時に予想される避難所運営の課題について意見交換を行い、事前準備にも参加してもらった。実施後には、本部の反省会を踏まえ、チームとしての目的・訓練内容と方法に関し、評価を行った。さらに、事前準備に参加したイケあいサークルの学部生にも報告を行い、振り返りを行った。11月30日（月）には、健康栄養学部FD研修会に雑賀助教と辻が出席し、学部間の連携方法や課題について意見交換を行った。

（2）合同災害訓練の実施

11月28日（日）の8時～12時30分に行なわれ、本学部は体育館での避難所運営支援を中心に関わった。新型コロナ感染対策のため、学生の参加及び学外の地域住民の参加はなく時間も短縮して実施されるなか、教員9人が参加した。なお、学生においては、同日、安否確認メールの受信訓練を行い、回答率は72.4%であった。

（3）令和3年度避難所運営支援の目標

新型コロナ感染拡大のなかにおいても、大規模な自然災害が起こらないという保障はない。命をつなぐ重要な役割を担う避難所運営においては感染拡大防止に向けての安全策を徹底しなければならない。そのなかでも特に、感染リスクが高いと予測される受付対応においては、互いに意識を高めながら、真摯な取り組みを目指さねばならない。

したがって、今年度の訓練の目的は、1. 「感染症対策を踏まえた避難所運営（特に受付の場面に焦点を当てる）」とし、参加者においては、2. 「感染症にかからない避難行動が取れること」とした。また、昨年度の訓練実施の課題を踏まえ、3. 「避難者が参画する、柔軟な避難所運営」についても目的に加えた。具体的な訓練内容としては、1) 感染予防対策を講じた、避難者の受け入れ（受付までの動線と受付対応）、2) 感染予防対策を講じた、避難者の一般避難者エリアへの誘導及びエリアでのアセスメント（感染の疑いのある避難者への対応）、3) 被災者ニーズの変化に応じて、スタッフの役割分担を交代しつつ、避難者も主体的に役割を担うよう、柔軟な連携・協働体制で運営できるようにする。4) 本部との連携と情報共有、とした。

（4）評価

メールにて参加教員に意見や改善点を伺い、得られた主な内容は以下のとおりである。①受付に、何を問われるかを事前に周知できる案内文や時計の設置を行う。②一般避難者エリアで使用

委員会活動年度報告書（災害対策プロジェクト）

するアセスメントシートにおいては、住所（地区）の自由記載欄を追加してはどうか。③情報の伝達では、張り紙が多いとどれが大切な情報かが不明となる。そのため、通常の学生用の張り紙は外し、避難所用の張り紙のみ、貼るようにした方が伝わりやすい。④本部との連携は、避難所の状況についてスムーズに情報提供や情報共有ができ、相互間の連携が図れた。また、昨年度の課題を踏まえて作成したチェックリストからは、防御服の正しい装着や脱衣、土禁エリアの明示、避難者のボランティア要請の掲示、健康相談ブースの医療機器の補充が実施できた。

以上、参加教員の意見や課題チェックリストの確認、防災委員の振り返りを踏まえ、避難所支援チームの目的と訓練内容は総じて達成できたと考える。

しかし、参加教員の意見にあったようにリスクを減らすための密をさける安全な受付のあり方や一般避難所エリアのアセスメントシートの改善については、検討が必要であり、次年度の課題である。また、学部教員一人ひとりが避難所2階の備品保管場所（倉庫NO9～11）や鍵保管場所ボックスの解除ナンバーを記憶に留めておくことの重要性が確認できた。誰もが共通認識をもちながら、いつでも尊厳に配慮した避難所運営の支援ができるよう、そのための訓練を今後も引き続き行っていく。さらに、要配慮者の定義について、食料対応チームとの認識にズレが生じていた。避難所における要配慮者の定義を明確にし、共通認識を持っていくことが必要である。加えて、現在、学部内分置場所の1つである実習支援室は、鍵が施錠される。いつでも誰でもが取り出せる場所への移動も検討すべき点である。

（5）事前準備と当日の様子



3密をさける感染予防対策



健康相談ブースでの様子

2. 社会福祉学部における災害福祉教育

学部専門科目のなかの災害福祉に関する教育内容を学部教員間で共有した（2月教授会にて資料を作成し報告）。

○次年度に向けて

本年度実施されたコロナ感染対策を講じた訓練の評価によって得られた課題をもとに、今後の改善策を検討し、積極的に導入していきたい。複合災害を想定したマニュアルの検証を行い、実用的なマニュアルにしたい。加えて、他学部のメンバー間との連携強化を図っていきたいと考える。本学部における災害福祉教育については引き続き、学部専門科目で取り組まれている災害教育の内容について教員間で共通認識を深めていきたい。

総務・予算委員会

西内章

総務・予算委員会は、委員長を西内が担当し、宮上学部長，西梅准教授，辻講師，田中助教，大熊助教で構成した。本年度に行った業務は、以下のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

1. 活動内容

- ① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営
 - ・ 開催計画，議題および資料等の整理，議事メモの作成等を行った（計27回）。
- ② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備
 - ・ 例年同様，社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について，各教員のコピー代充当分として年度当初に一定額を確保し，使用枚数分の予算確保・調整を行った。
 - ・ E414教材作成室に新しい印刷機を購入し設置した。
 - ・ 学部関連設備では，学部棟3階の絨毯敷きの研究室について新型コロナウイルス感染症対策として床面を貼り替えた。
 - ・ 福祉実習支援室の間仕切りに空間があった箇所について，保管庫と間仕切りガラス板を設置した。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症対策として，生活支援技術IVで使用するミシンを学生が個別使用できるように追加で購入した。
 - ・ ゼミ室に備蓄している乾パン・ペットボトル入り飲料水について期限切れ間近ものを交換した。
- ③ 学部日常事務の対応
 - ・ 寄贈資料・郵便物の整理，回覧等の仕事に対応した。
- ④ 『令和2年度社会福祉学部報』発行
 - ・ 令和2（2020）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料・第23号）の冊子媒体100部を作成し，関係各所に配布した。
- ⑤ 学生教育用図書・資料等の充実
 - ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して，図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
 - ・ 国家試験対策用図書や学内実習用教材，社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書・DVDを選び，福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。

2. 今後の課題

本年度も昨年度に引き続き，新型コロナウイルスへの感染症の影響で年度当初に計画した学部行事を縮小したり，Zoom開催等に変更した。また授業や実習も予定通りの形式で実施できず，高知県内の新型コロナウイルス感染状況に応じて，学部内の感染対策を強化する必要があった。総務・予算委員会としては，教務委員会，実習委員会等と予算の執行状況を常に確認して適切な執行に努めた。

次年度も新型コロナウイルスへの感染症の影響があると想定されるため，感染状況を確認しながら，丁寧な学部運営の補助及び設備・備品管理と，学部の重点事項への適正な予算配分に務めなければならない。

国試対策支援委員会

西梅 幸治

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、委員長を西梅が担当し、加藤講師、稲垣助教、大熊助教、片岡助教、雑賀助教、田中助教、玉利助教、福田助教で構成した。

（１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
4月	国家試験に関するガイダンス（4/6）
5月	国試対策週間（過去問4/30-5/14）
6月	国試対策週間（過去問6/7-6/22）
7月	国試対策週間（過去問7/12-7/30）、個別面談 「受験の手引」解説（介護福祉士8/25）
8月～9月	「受験の手引」解説（moodle：社会福祉士・精神保健福祉士8/26）
10月	模擬試験（高知県社会福祉士会10/10） 受験対策直前web講座周知
11月	模擬試験（介護福祉士国試対策11/1） 模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟11/2・11/3）
12月	介護福祉士模擬試験解説・国試対策（12/6） 卒業生による受験体験報告（12/22）、模擬試験（中央法規12/23） 国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談、学内国試対策勉強会（12/21）
1月	学内国試対策勉強会（1/5・1/6）、個別面談 介護福祉士国家試験（1/30）、自己採点集計（2/15）
2月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（2/5・2/6）、自己採点集計（2/15）
3月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/15、介護福祉士3/25） 卒業後の手続きに関する説明（3/22）

委員会活動年度報告書（国試対策支援委員会）

（２）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（３）2021年度の国家試験合格率

１）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
95	55	57.9%	71	48	67.6%	24	7	29.2%

合格順位：全国 27 位（既卒含）、全国 47 位（新卒のみ）／202 校（総数での学校数）

合格基準点：105 点（満点 150 点）

全国平均合格率：31.1%

合格順位：全国 11 位／47 校（受験者 50 名以上・新卒）

２）精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
22	20	90.9%	20	18	90%	2	2	100%

合格順位：全国 8 位（既卒含）、全国 14 位（新卒のみ）／88 校（総数での学校数）

合格基準点：101 点（満点 163 点）

全国平均合格率：65.6%

３）介護福祉士の合格率について

総数（新卒）		
受験者数	合格者数	合格率
21	21	100%

合格基準点：78 点（満点 125 点）

全国平均合格率：72.3%

○今後の課題

今年度も、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、大幅に実施内容を変更することとなった。入校制限や教室確保の難しさもあったが、模擬試験や学生が中心で進める国試対策講座、国試対策勉強会を実施することができた。また例年同様、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に相談・助言を行った。しかし今年度は、社会福祉士の合格率が大幅に下がる残念な結果となった。原因としては、合格基準点の高さはもちろん、感染症流行のため、精神保健福祉援助実習や県外での就職活動の遅れ、それに伴う卒業論文の作成の遅滞などが考えられる。コロナ禍での受験対策について課題を整理し、支援体制を引き続き充実させていきたい。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士 国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、苦手と感じて勉強しにくいもの、対策講座を開講してほしい科目について学生にアンケートを実施し、要望の多かった8科目を先生方に講座をしていただきました。これまでの出題傾向を基に、統計データや新制度、法律、歴史などテキストのみでは把握することが難しい部分を中心に講座していただきました。また、国家試験に向けての勉強法や、頻出問題に絞った解説など、より国家試験に焦点を当てた対策もしていただきました。加えて、分かりやすくまとめられた資料は普段の勉強の一助となり、理解を深めることができましたと感じました。講座後も、質問に対応していただき、曖昧になっている点を払拭することができました。

本年度は新型コロナウイルスの影響もあり、対面とオンラインを活用した講座となりました。対面時には講座の様子をビデオ録画し、講座後も復習できるように努めました。また、オンラインにおいても先生方のわかりやすい資料と音声を用意していただき、自分の苦手なところなどを繰り返し学習することができました。

国試対策について

昨年度から新型コロナウイルスの流行により、例年行われていた国試対策合宿が開催できず学内での国試勉強会に切り替えたり、ゼミ室での自習についても人数制限があったりと、思うように勉強を進めて行くことが困難でした。しかし、本年度は感染対策を十分に行ったうえ学内で勉強している学生も多く見受けられました。国試対策を行う上で重要になるのは共に頑張る友人の存在だと思います。一人で学習する時間はもちろん必要であり、友人という時よりも集中してできる時間が続くと考えられます。しかし、一人で考え込むことや集中力が続かないことがあった時は積極的に友人を頼りましょう。友人と一緒に勉強や休憩を行うことで新たな刺激がもらえると思います。国家試験は団体競技です。共に頑張る友人たちと切磋琢磨しながら国試対策に励んでほしいと思います。

また、先生方が開講してくださる国試対策講座への積極的な参加が重要であると思います。自分の苦手な科目はどこから手を付けていけばよいか分からないことが多々あります。そのようなときは国試対策講座を受講し、その科目の重要な点や先生方からのアドバイスを参考にすることをおすすめします。さらに、勉強を行う中で分からないことや講座を受講して疑問に思うことがあった場合はその都度先生方に質問し、早期の段階でモヤモヤを解消してほしいと思います。体調管理をしっかり行いながら、友人や先生方と助け合いながら国試対策に励んでほしいと思います。

後輩のみなさんへ

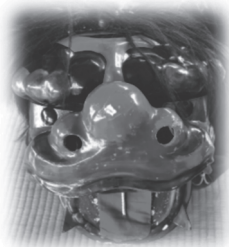
4回生は国家試験だけではなく、就活、卒論また実習などを並行して行っていかなければなりません。そこで大事になってくるのが長期的な計画と日々の計画を立てることです。1年の計画を早いうちに立てて物事を進めていくことが重要です。また毎日やる事リストや国試勉強、卒論等に割く時間配分を決め、具体的に一日の計画を立てることをおすすめします。4回生は大学生活の中で最も大変な時期です。しかしそれと同時に最も充実した1年でもあります。卒業するとき悔いが残らないように友人や先生方と共にこの1年間を乗り越えていってください。来年の春、皆さんに満開の桜が咲いていますように。心から応援しています。

P シ ス タ ー ズ

地域活動サークル「P シスターズ」です。私たちは、本学にある「立志社中」というプロジェクトに加入し、県内の幅広い地域で活動を行っている団体です。P シスターズは、地域住民の「主体性」を何よりも大切にしながら、住民の「やりたいこと」の実現を目的として活動しています。昨年度は、安芸市東川地区・仁淀川町池川地区の2市町村で活動を行いました。

◇安芸市東川地区

地域の伝統文化である「獅子舞踊り」を地域住民の皆さんから直接指導をいただきながら練習を行い、学生が担い手となって伝統を継承しています。



◇仁淀川町池川地区

仁淀川町善法寺にて、寺カフェとえんがわ食堂を開催しました。「えんがわ食堂」は、いわゆる「こども食堂」です。寺カフェでは、子どもから大人まで幅広い年齢層の地域の方が参加し、他のお寺の住職さんが調理したカレーを食べるなどして交流がなされていました。



活動は、楽しいイベントに参加するだけでなく、地域課題解決のためのワークショップを行うこともあります。また、社協の方や地域おこし協力隊の方々とも関わる機会が多いので地域で実際に働いている様子を見ることができ、自分の学びにもなります。

P シスターズは、SNS でも活動の様子を公開しています。ぜひ、ご覧ください。
Instagram psis.u_kochi Twitter : @P29045067

太 鼓 部

高知県立大学太鼓部の解散につきまして

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この場をお借りしまして、高知県立大学太鼓部の解散につきまして、ご報告させていただきます。

高知県立大学太鼓部は、2022年3月11日をもちまして、解散致しました。解散に至りました大きな背景と致しましては、部員（下の世代）がいなくなったことが挙げられます。

高知県立大学太鼓部は、2020年、2021年の2年間、新入部員を迎えることができませんでした。さらに、2020年には、部員の退部もありました。

また、2020年、2021年の2年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、毎週の体育館での演奏の練習に取り組むことができない状況、人目のあるところで太鼓を演奏する機会を失った（太鼓の演奏のご依頼が来ない）状況に置かれるなど、思う様に活動することができませんでした。このことにより、部の魅力を発信していくことが、非常に困難となりました。高知県立大学太鼓部としての最後の演奏は、2020年8月に社会福祉学部のなかでおこなわれた、Web EVENT（オンライン上でのオープンキャンパス）への出演です。私たちが太鼓を演奏する様子を事前に撮影しておき、撮影した動画を参加者に観ていただくというかたちでの出演でしたが、現在振り返ると、新型コロナウイルス感染症禍での、貴重な演奏の機会だったと思います。

2021年4月より、当時4回生の部員5名での体制でした。しかし、2022年3月をもちまして、この5名全員が高知県立大学を卒業し、部員が0名となることとなりました。

高知県立大学太鼓部の持つ歴史は、この大学が高知女子大学であった頃にまで遡ります。多くの先輩方により代々受け継がれてきた長い「伝統」を私たちの代で途絶えさせることとなってしまったことを、心より申し訳なく存じております。「高知県立大学太鼓部」による太鼓の演奏が響くことはもうないと考えると、非常に胸が痛みます。

顧問を務めてくださいました稲垣佳代先生、西内章先生をはじめ、これまで、高知県立大学太鼓部の活動にご理解、ご協力をいただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。

これまで大変お世話になりました。ありがとうございました。

高知県立大学 2021 年度卒業生 高知県立大学太鼓部員一同

池手話サークル

私たち、池手話サークルは週1回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えるような会話文や簡単な単語を覚えたり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。主に昼休みに活動しているため、お昼ご飯を食べながら楽しく練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、3月に行われる耳の日記念集会です。昨年度の耳の日記念集会は、一昨年度と同様に、残念ながら新型コロナウイルス感染症流行の影響で中止となりました。一方で、一昨年度には行うことができなかった手話青年部の方との交流は、オンラインではありますが行うことができました。また、昨年度の活動は後期から対面で行えることになり、手話での自己紹介や指文字、簡単なあいさつの練習を雑談も交えながら楽しく活動を行いました。活動がより良いものになるように、みんなで意見を出し合いながら活動しました。

一昨年度は新型コロナの影響で活動が制限されており、昨年度はどのように活動すればよいか分からなかったため、今までの活動内容を参考にしつつも手探りで活動を行いました。そのなかでも手話青年部の方との交流は印象的であり、急な新型コロナの感染拡大による日程の調整などは大変でしたが、ろう者とのコミュニケーションは非常に貴重な経験になりました。耳の日記念集会も状況を見て再び行いたいと思っています。同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。また、手話で簡単な挨拶などのコミュニケーションが取れるようになることを1つの目標としたいと思います。

手話サークルは、社会福祉学部の学生を中心に活動していますが、他学部も大歓迎です。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思っています。よろしくお願いします。



イケあい

2012年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター（以下：イケあい）は東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災サークルです。

団体の活動目的は、災害時に大学周辺での被害を最小限にとどめ、いち早く復旧させることです。そのために、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンターで中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって地域や大学での防災啓発などを行っています。

イケあいは、さまざまなイベントに参加して目的の達成を目指しています。池キャンパス付近の三里地区の住民の皆様と一緒に活動させていただく機会が多く、2021年度は1年ぶりに、「Do 鍋ネット」を開催することが出来ました。コロナ禍であるため、今までとは違う鍋のない特別版として苦戦しながらも一から学生が企画し、イケあいならではの防災知識を養うゲームやクイズを行うことで、互いに防災知識を高め合いました。コロナ禍により活動に制限がかかるなか、地域の方々と学生が交流を深め、これまでイケあいが築いてきた三里地区の住民の皆様との関係を絶やさない重要なイベントとなりました。

また、高知医療センターとの合同災害訓練では、当日の参加はできなかったものの、先生方からのアドバイスを受けながら事前準備として、学生一人ひとりがさまざまな立場になって避難所で起こるだろう困難や不安ごとについて考え、少しでも災害時の不安を取り除けるような張り紙制作を行いました。前年度の反省を踏まえ事前準備を行いました。それでもまた新たな課題を発見し、訓練の積み重ねがより良い避難所運営の実現となることを実感しました。課題や反省点はイケあい全体で共有し、実際に災害が発生した時や来年度の合同災害訓練に繋げていこうと考えています。

「楽しいからはじまる防災を大切に！」をモットーとして掲げるイケあいは、災害から生き抜き、前に進んでいくためには何ができるのかを考えながら、これからも活動を続けていきます。



かんきもん（土佐弁：元気者）

かんきもんは、子どもから高齢者まで障害の有無、住んでいる地域に関係なく誰もが暮らしやすいコミュニティ、『**地域共生社会**』をめざし活動しています。今年度もコロナ禍での活動となりましたが、制約がある中でもできる範囲でどのような活動ができるかを考えたり、地域との繋がりやの継続に力を入れました。今年度の活動は「援農」「シグマ」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」の5部門が前年度よりも幅広く、かつ新しい形にも対応しながら活動することができました。

◇援農



例年行っているボランティアの一部が新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、安芸市でのゆずとり援農隊ボランティアには参加することができました。どの活動においても学生が自主性を持って農家の方と一生懸命に取り組み、学生ならではの視点から地域の魅力の再発見や課題解決のために自分たちに何ができるのかを考えていきました。

◇シグマ



きました。

シグマでは子どもたちの居場所づくりや孤食の防止のための子ども食堂の活動を行いました。2021年度は「ミーム club」「みつばち」の二つの食堂で食事面での補助なしという形式で行いました。子どもたちが安心して、なおかつ居心地よくいられるように取り組んでいきました。制約もありましたが、学生たちがコミュニケーションなどに工夫を凝らしながら行うことがで

◇タウンモビリティ

2021年度も市内中心商店街の一角を拠点とする移動支援のタウンモビリティステーション（NPO法人「ふくねこ」）で、障害者や要介護高齢者、赤ちゃん連れの母親などの買い物支援を行いました。前年度よりも対面での活動の機会が多く、活動が困難な時期でもzoomを用いて利用者さんと交流を図り、関係性の継続に努めました。そして11月には認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の理解を深めることができました。

◇YCPK：(Young Crime Prevention in Kochi)

高知東警察署と連絡を取りながら、少年犯罪、防犯に対する意識の向上に取り組んでいます。また、防犯かるたの普及にも取り組んでいます。今年度は活動できませんでしたが、来年に向けてまた活動の見直しをしていきます。

◇学習支援

今年度はとさし男女共同参画センターなどで学習支援を行いました。今年度は学習面での支援がほとんどでしたが、子どもの居場所づくりの一環として子どもやその保護者が参加できるイベント（夏祭り・クリスマス会）を企画運営するなど、学習面以外での活動も次年度では行っていきたいと思ひます。

◇傾聴

12月18日に高知とんぼの会から講師をお招きし傾聴の目的や方法、効果などを学びました。今年度は土佐市ゆうやけ食堂での活動に参加することはほとんどできませんでしたが、次年度では一人暮らし高齢者の方とコミュニケーションを図る活動を再開していきたいと思ひます。

Society For Everyone

高知県立大学国際協力サークル Society For Everyone は、国際協力について考える団体です。私たちは、イギリスに本拠地を持つ、Oxfam という NGO 団体の理念に基づいて活動しています。

Oxfam は「貧困のない公正な社会の実現」を目指しており、募金活動や人道支援、チャリティーコンサートなど、様々な活動をしています。しかし、Oxfam の活動は日本ではまだあまり浸透していないほか、日常生活において貧困の現状について情報を得られる機会は少ないです。



そのため SFE では、国際的な現状や課題についての気づきをより多くの人に起こすことを目標に活動しています。貧困を抜け出し、豊かな生活を得るためには、世界中の人が参加する協力体制が必要です。私たちはオックスファム・クラブとして国際的な視点からの課題と向き合うイベントを企画し、食糧問題、貧困問題を体感し、高知というコミュニティから変革を図っています。

昨年度も、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されてしまい、例年おこなっている世界の子どもの教育の現状について考える世界一大きな授業や地産地消が貧困解決の参加の一つであるという考えのもと、南国市で育てたサツマイモをつかったサツマイモアイスの学際販売、エイズ蔓延の防止やエイズ患者に対する差別・偏見をなくすことを目的としたエイズデーでのフォトアクションなどの実施ができず、SFE として思うように活動することができませんでした。しかし、Oxfam で活動されていた方とクラブミーティングという形で国際問題に限らず、ジェンダーや日々の暮らしで見えてくる課題、自分自身について振り返ったり意見を交わしたりなど、会えない環境下でできる活動に力を入れることができた 1 年だったと振り返ります。

ハンガーバンケット 2019



現在部員数は 4 回生 1 名、3 回生 2 名 計 3 名で、高知県立大学池キャンパスで活動しています。

今年度もなかなか対面での活動ができないことが予想されますが、昨年度よりもオンラインなどを活用してより多くのイベントを積極的に開催しようと企画しています。たくさんの方に国際的な現状について考えてもらえる機会を増やしていくため、広報なども積極的に取り組んでいきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症の影響

令和3年度も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症のため、さまざまな活動が中止や延期となった。学生間交流を目的とした学内行事はもちろん、学外活動においてもイベントの中止や方法の変更、規模を縮小するなどの工夫をして行われた。特に、高齢者や障害児者は感染症による影響が大きく、福祉施設ではやむを得ず家族の面会禁止や制限などの対応を行っている。

本報告書『高知県立大学社会福祉学部報』に例年掲載している、障害者スポーツ大会や高知ふくし総合フェア、障害児の修学旅行、福祉施設などで行われるボランティア活動、サークル活動などにも影響があった。学生にとって地域や福祉現場で体験する機会が減少している。

これらの背景から、今年度も報告ができなかった学生を中心とした活動は、以下である。

- ・ 国際交流
- ・ 学外イベントへの参加
- ・ ハモ☆イケ
- ・ ボランティア活動
- ・ 修学旅行ボランティア

V

卒業論文題目一覧(2021年度)

令和3年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

題 目
共生社会の実現において表現活動はその役割を担えるかー接触機会による障害者への態度の好転に着目してー
「性暴力被害者支援におけるソーシャルワーカーの役割～SANE(性暴力被害者支援看護職)の役割を参考に～」
障害者へジェンダー規範とその人らしさに関する一考察～女性精神障害者の職業選択に焦点を当てて～
自閉スペクトラム症(ASD)者の生きる世界と生きづらさについて
過疎地域に住む患者のストレスの要因に関する一考察
介護現場における利用者からのハラスメント実態把握を通じた介護従事者の人権保障について
住民主体による集落の再生過程に関する一考察ーZ市Y集落の取り組みの分析ー
きょうだい間差別の実態とその子どもに与える影響
ひとり親家庭への地域福祉ベースでの取り組みとSSWの連携について
精神障害者の生きづらさに関する一考察～地域住民の偏見に着目して～
ジェンダーにとらわれないファッションに対する社会福祉学部の学生の意識～アンコンシャス・バイアスに焦点を当てて～
新型コロナウイルス感染症流行における知的障害・発達障害者の生活への影響に関する研究ー海外文献レビューの分析ー
福祉施設におけるアニマル・セラピーの意義と効果
COVID-19感染下における育児不安
社会的ネットワーク及び社会的サポートが身体的健康、人生満足度、抑うつ症状に与える影響～65歳以上を対象とした量的調査～
知的障害者への社会復帰支援の課題ー支援に関わる機関・施設に焦点を当ててー
知的障害者の親なき後に向けた親の準備に関する研究
高齢者とペットとの継続的な生活を続けるための支援
愛着形成を促すスキンシップの方法に関する一考察ー虐待防止を目的としてー
精神障害者家族の障害受容ー精神障害者家族会の影響に着目してー
認知症高齢者の睡眠障害とそのケアに関する文献研究
ソーシャルワークにおける技術と援助関係ー医療ソーシャルワーク過程に着目してー
うつ病患者の職場復帰における福祉的支援への一考察ーリワークプログラムを通してー
発達障害児の成長過程全体における母親の特有の困難と継続的に必要な支援～自閉スペクトラム症・障害(ASD)に焦点をあてて～
成年後見制度のニーズにどのような対応が求められるのか～市民後見人に着目して～
高齢者介護施設における感染予防対策に伴う利用者の二次的影響
ギャンブル中心の生活からの解放に有効的な手段を探るー治療的側面からの一考察ー
認知症における不安の経過とその支援のあり方ー認知症当事者の語りに着目してー
入口支援の普及とあり方に関する一考察
児童養護施設におけるボランティアによる学習支援方法に関する研究
児童自立支援施設のアフターケアに関する一考察ー現場での課題と取組からー
介護職員の仕事荷重と他者との関係がバーンアウトに及ぼす影響ー社会的支持によるモデレート効果ー
精神障害者の就労に関する一研究～ジェンダーの視点から～
新型コロナウイルスの感染拡大が大学生に与える影響について
災害後の避難・移住生活における社会的孤立と地域コミュニティの形成に関する一考察～東日本大震災の実践と南海トラフ地震の防災対策に着目して～

児童養護施設の児童指導員に求められる専門的支援
触法高齢者・障害者の再犯防止対策における社会福祉の役割～高知県における入口支援の取組に着目して～
障害者理解に向けた啓発と周知方法に関する一考察
児童養護施設における親子関係再構築支援の方法—地域小規模ホームの職員に着目して—
避難所生活での災害ソーシャルワークに関する研究—高齢者のリロケーションダメージに焦点を当てて—
東アジア系ミックスルーツの若者のアイデンティティ形成のプロセス—自己受容に焦点を当てて—
幼児期における発達障害児に対する支援
持続可能な地域共生社会に向けた支援—日本の文化的背景からの考察—
生活保護申請時における阻害要因について—扶養照会に焦点をあてて—
薬物依存者の捉え方に関する一考察—違法薬物への依存を中心に—
不登校経験とレジリエンスの関連性—不登校サバイバーの「語り」に着目して—
要介護高齢者の希望する終のすみかと介護者に関する一考察
ALS当事者・家族の気持ちの変化に対する支援—人工呼吸器に関する意思決定過程に着目して—
大学教育における地域活動の意義と課題
アウトリーチ支援に着目したひきこもり支援について考える
高齢者のICT利活用に関する一考察—コロナ禍において「社会的つながり」を保つために—
大学生の精神的健康への関連要因にみる福祉的支援の意義—新型コロナウイルス(COVID-19)の影響に着目して—
日本人と国際結婚したアジア人女性の生活課題—日本語教師への聞き取りから—
精神的健康に影響を与える笑いの効果—笑いの分類・対象・方法に着目して—
障害者の職場定着向上のための職務満足に関する研究
児童福祉施設における支援システム構築に関する一考察～児童養護施設等退所者の生活に着目して～
介護職員の職場定着に関する研究—組織コミットメントとリーダーシップに着目して—
里親家庭で生活する実子への支援—実子の心情に着目して—
認知症ケアにおけるロボット・セラピーの可能性
老年期に人生を「語る」ことの意味—自分史を活用した支援についての一考察—
「死ぬ権利」について
小規模多機能型居宅介護施設におけるソーシャルワーク実践に関する研究
津波被害を伴う地震災害におけるソーシャルワーカーの役割と機能—復興フェーズに応じた医療ソーシャルワーカーとコミュニティソーシャルワーカーの比較から—
児童養護施設におけるリビングケア・アフターケアの現状と課題
発達障害児と非障害児におけるインクルーシブ教育に関する研究
児童養護施設の子どもの自己決定支援—進路支援場面に着目して—
知的障害のある人の恋愛とソーシャルワーク支援—当事者のあたりまえの生活を支えるために—
女子大学でのトランスジェンダー学生の受け入れの現状と対応—女子大学で学ぶ意義とは—
大学生による地域活動に関する考察—過疎地域の集落維持機能に焦点をあてて—
子どもの貧困に対するアウトリーチ型支援に関する一考察
認知症の人の生活のしやすさについての研究—認知症の人の語りにも焦点を当てて—

編集後記

社会福祉学部報第24号をお届けします。

本学部報は、令和3年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

令和3年度も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、大学行事を中止または縮小することになりました。講義や演習等の大学授業も遠隔授業と対面授業のハイブリッド方式で実施しました。実習は高知県内にまん延防止等重点措置がでされた時期と重なったこともあり、大学の判断で一時中断いたしました。実習先の皆様には多大なご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。心よりお詫びいたします。また、まん延防止等重点措置が解除後は、多くの実習先の皆様には実施可能な方法を考えていただきました。学生にとってはかけがえのない貴重な実習体験ができました。心より御礼申し上げます。

また学生のサークル活動やボランティア活動等の課外活動についても制限されたものとなりました。予測できない厳しい状況下においても、社会福祉学部は学部長を中心に各教員、学生が必要なことを考え、今できることを実践しました。昨年度に比べ、制限下であっても工夫しながら活動したことが増えたように思います。

ここで4回生の国家試験についてご報告いたします。社会福祉士の合格率は67.6%（新卒のみ）でした。また精神保健福祉士の合格率は90.0%（新卒のみ）、介護福祉士の合格率は100%でした。新型コロナウイルスの感染拡大のため、相談援助実習や精神保健福祉援助実習が延期になりましたので、受験勉強に集中できなかった学生もいたと思います。また社会福祉士については合格基準点が例年より大幅に高かったことも影響しているかもしれません。次年度も学部による国家試験のサポートは継続いたします。

社会福祉学部は、学部創設以来、福祉の現代的課題を見据え、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教育・研究している学部です。社会福祉学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミンションポリシーにあるように三福祉士の専門職養成だけでなく、変化する社会状況下でも思考・行動できるような教育を目指しています。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 西内 章

高知県立大学社会福祉学部報

第24号

発行日：2022年6月1日

発行者：長澤 紀美子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）

